公益財団法人 日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門部会

R100

平成24年度　スポーツ環境専門部会活動報告書

公益財団法人　日本オリンピック委員会

平成 24 年度

スポーツ環境専門部会 活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2012

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

公益財団法人 日本オリンピック委員会　スポーツ環境専門部会

平成24年度

スポーツ環境専門部会
活動報告書

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE

公益財団法人 日本オリンピック委員会　スポーツ環境専門部会

スポーツと環境についての啓発活動

Japanese Olympic Committee

環境基本理念

公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

行動指針

1. JOC事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源リサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

公益財団法人日本オリンピック委員会
会長　竹田 恆和

●第8回JOCスポーツと環境・地域セミナー（札幌市：JOCパートナー都市）

会期：2012年10月19日／会場：札幌市教育文化会館／参加人数：約160名

橋本聖子 JOC理事

生島典明 札幌副市長

佐藤征夫 JOC理事／
スポーツ環境専門部会部会長

水野正人 JOC副会長／
IOCスポーツと環境委員会委員

左から、大林素子氏、平松純子氏

左から、鶴岡剣太郎氏、岩崎恭子氏

高木浩 札幌市環境局環境都市推進部
環境計画課長

三好健二（株）北海道日本ハムファイターズ
管理本部総務人事グループグループ長

会場風景

前列左から、岩崎恭子氏、平松純子氏、大林素子氏
後列左から、三好健二氏、高木浩氏、佐藤征夫部会長、生島典明副市長、水野正人副会長、鶴岡剣太郎氏

●第9回スポーツと環境担当者会議

会期：2013年2月4日／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター／参加人数：56名

佐藤征夫 JOC理事／
スポーツ環境専門部会部会長

水野正人 JOC副会長／
IOCスポーツと環境委員会委員

JOCスポーツ環境専門部会部会員
日本バレーボール協会 業務執行理事／
環境委員長

世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会
事務局次長
公益財団法人 横浜市体育協会スポーツ事業局
国際スポーツイベント推進室

参加者からの質問

会場風景

●平成24年度「体育の日」中央記念行事
スポーツ祭り2012

会期：2012年10月8日（月・祝/体育の日）
会場：味の素ナショナルトレーニングセンター

●オリンピック親子キャンプ

会期：2012年11月24日～ 25日
会場：長野県・国立信州高遠青少年自然の家

鶴岡剣太郎氏（トリノ冬季オリンピック／スノーボード）
から、競技生活で感じたスポーツと環境とのかかわりについて講義

環境保全の大切さを学ぶため、使用済みの
牛乳パックから紙すきを実施

●2012年7月11日付でISO14001の認証登録を更新（3度目）
ISO（International Organization for Standardization）14001

認証登録証を持った竹田恆和JOC会長

●JOC事務局／教育訓練のようす

(公財)日本陸上競技連盟

Japan Association of Athletics Federation

●キッズアスリート・プロジェクト 北海道会場

会期：2012年9月3日(月)／会場：北海道・七飯町立七重小学校

左から、福島千里選手、右代啓祐選手、高平慎士選手、寺田明日香選手、荒川大輔選手、北風沙織選手、仁井有介選手

●キッズアスリート・プロジェクト 山形会場

会期：2012年9月25日(火)／会場：山形市立第七小学校

左から、土屋光選手、荒井謙選手、田野中輔選手、飯塚翔太選手

●キッズアスリート・プロジェクト 愛知会場

会期：2012年11月22日(木)／会場：名古屋市立橘小学校

左から、中村明彦選手、市川華菜選手

左から、荒川大輔選手、村上幸史選手

●キッズアスリート・プロジェクト 岡山会場

会期：2012年11月30日(木)／会場：岡山市立福浜小学校

写真中央の左から、久保田聡選手、畑瀬聡選手、安部孝駿選手、飯塚翔太選手

(公財)日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

●第4回エココンテスト表彰式(スイムエコグッズコンテスト)

会期：2012年5月25日(金)／会場：東京辰巳国際水泳場(JAPAN OPEN2012)

グランプリの表彰式は、JAPAN OPEN2012の開始式で行われた

左からグランプリ(会長賞)を受賞した濱野圭佑氏(スウィン越谷SS)と日本水泳連盟佐野和夫会長

左から準グランプリ(日本SC協会 会長賞)を受賞した富田康暉くん(平針SS)と日本スイミングクラブ協会奥村征照会長

準グランプリ(日本マスターズ水泳協会 会長賞)は、今飯田佳代子さん(東京工業大学)が受賞。写真は代理出席の母・頼子さん(左)と日本マスターズ水泳協会大崎剛彦会長

●環境横断幕を囲んでのフォトセッション 第54回日本選手権(25m)水泳競技大会

会期：2013年2月23日(土)～24日(日)

会場：さがみはらグリーンプール(相模原市)

●環境横断幕を囲んでのフォトセッション 第88回日本選手権(50m)兼ロンドンオリンピック選考会

会期：2012年4月2日(月)～8日(日)

会場：東京辰巳国際水泳場(江東区)

(公財)日本サッカー協会

Japan Football Association

●JFAグリーンプロジェクト

会場：埼玉県本庄市立秋平小学校

JFAグリーンプロジェクト、芝生化した園庭で遊ぶ子供たち

●ヴィッセル神戸 スポーツ環境校外学習

会場：アシックス　スポーツミュージアム

床発電システムを用いた子供たちへの環境啓発・実演活動

●セレッソ大阪「CO_2ゼロチャレンジ」

会期：2012年3月5日(月)

大阪ガス、ヤンマー、セレッソ大阪が環境活動で協力

●アルビレックス新潟「環境賞」受賞

会期：2012年11月23日(金)

リユースカップ導入等総合的な取組が受賞のポイント

●清水エスパルス「芝生開き会」の様子

会期：2012年10月17日(水)

会場：中田保育園(静岡市駿河区)

地域関係者、選手、スタッフ、パルちゃん、多くの仲間で芝生化推進中

●横浜F・マリノス「ヨコハマ3R夢プラン」普及啓発活動協力

会期：2012年6月1日(金)～30日(土)

中村俊輔選手、栗原勇蔵選手が広報大使となり啓発活動を実施

(財)全日本スキー連盟

Ski Association of Japan

●「I LOVE SNOW」One's Hands キッズスノーフェスタ2013 in 福島

会期：2013年3月28日(木)
会場：福島県・裏磐梯猫魔スキー場

●「I LOVE SNOW」One's Hands キッズスノーフェスタ2013 in 岩手

会期：2013年3月30日(土)、31日(日)
会場：岩手県県・夏油高原スキー場

イベントに参加した東日本大震災で被災した小学生に笑顔が戻った

(公財)日本テニス協会

Japan Tennis Association

●楽天ジャパンオープンテニスチャンピオンシップス2012

会期：2012年9月29日(土)～10月7日(日)
会場：有明コロシアム・有明テニスの森公園

ビーチテニスとのコラボ環境トークショー
生沼明人(スポーツ環境委員会 委員長) 千葉素久(スポーツ環境委員会 委員)
長塚京子(スポーツ環境委員会 委員) 吉田友佳(スポーツ環境委員会 副委員長)

●JTA90周年記念 ニッケ全日本テニス選手権87th

会期：2012年10月31日(水)～11月11日(日)
会場：有明コロシアム・有明テニスの森公園

男子ダブルス優勝ペア 田川翔太選手、内山靖崇選手
男子ダブルス準優勝ペア　伊藤竜馬選手、近藤大生選手
畔柳信雄(日本テニス協会 会長)
渡邊康二(日本テニス協会 副会長) 大会スタッフ

●ダンロップ全日本ジュニアテニス選手権'12 supported by NISSINBO

会期：2012年7月31日(火)～8月8日(水)
会場：大阪・靭テニスセンター・江坂テニスセンター

●第30回全国小学生テニス選手権大会

会期：2012年7月27日(金)～30日(月)
会場：東京・第一生命相娯園グランドテニスコート

(公社)日本ホッケー協会

Japan Hockey Association

●高円宮牌2012男子日本リーグ 第3節

会期：2012年7月7日(土)～ 8日(日)／会場：福井県・越前町営朝日総合運動場

試合風景

観客席

●第10回全日本マスターズホッケー大会

会期：2012年7月14日(土)～ 16日(月・祝)／会場：徳島県立阿南工業高校ホッケー場

競技役員

試合風景

●男子第54回・女子第34回全日本社会人ホッケー選手権大会

会期：2012年9月15日(土)～ 19日(水)／会場：東京都・日野市民陸上競技場・浅川スポーツ公園グラウンド

競技役員

会場風景

(公財)日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

●全日本大学選手権会場にて環境バナーを掲示

●ロンドンオリンピック・全日本女子の銅メダル獲得

●JVAバレーボールバンク事業の取り組み

天皇皇后杯等の大会パンフレットで活動をPR

パプアニューギニアへの寄贈

フィリピンへの寄贈

リユースできないボールを利用したリサイクル製品

(公財)日本体操協会

Japan Gymnastics Association

●第66回全日本体操競技選手権大会

会期：4月7日(土)、8日(日)／会場：代々木第一体育館

横断幕による掲示で継続的に啓発

炭酸マグネシウムの清掃活動 モップ

炭酸マグネシウムの清掃活動 掃除機

ゴミの分別箱の設置

炭酸マグネシウムの清掃活動 ビブスにおける啓発も 掃除機

●第51回NHK杯兼第30回オリンピック・ロンドン大会日本代表選考会

会期：5月4日(金)、5日(土)

会場：代々木第一体育館

:

ロンドンオリンピック日本代表決定でメディア露出の高い大会でも横断幕設置

(公財)日本バスケットボール協会

Japan Basketball Association

●JBA環境委員会会議

会期：2012年12月7日(金)
会場：JBA会議室

大会に向けた環境委員の役割検討(中央が堀井幹也環境委員会委員長)

●全日本総合バスケットボール選手権大会

会期：2013年1月1日(火・祝)～14日(火・祝)
会場：代々木第一体育館

会場内にて環境バナーとポスターの掲出(1/6三菱電機×東芝戦)

●全国ミニバスケットボール大会

会期：2013年3月28日(木)～30日(土)
会場：代々木第一体育館

会場内にて環境バナーとポスターの掲出(地域の代表としてTIP OFF)

●U-18トップエンデバー(一貫指導システム)

会期：2013年3月8日(金)～10日(日)
会場：味の素ナショナルトレーニングセンター

会場内にて環境バナーとポスターの掲出(明日の日本代表を目指して)

大会公式プログラムに環境ページを掲載

●3×3(スリーバイスリー)第一次セレクション

会期：2013年3月16日(土)
会場：味の素ナショナルトレーニングセンター

会場内にて環境バナーとポスターの掲出(初代日本代表は誰か?)

(公財)日本スケート連盟

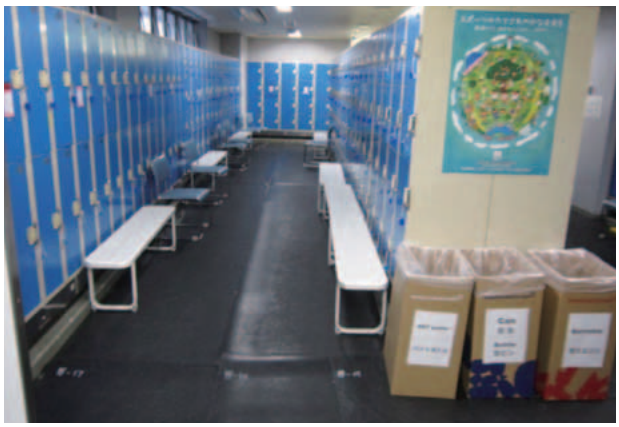
Japan Skating Federation

●世界フィギュアスケート国別対抗戦

会期：2012年4月19日(木)～22日(日)
会場：国立代々木場第一体育館

●ワールドカップショートトラック名古屋大会

会期：2012年11月30日(金)～12月2日(日)
会場：愛知県名古屋市・日本ガイシスポーツプラザ



●JOCオリンピックカップ大会
全日本フィギュアスケートジュニア選手権大会

会期：2012年11月16日(金)～18日(日)
会場：東京都西東京市・ダイドードリンコアイスアリーナ

●ワールドカップスピードスケート長野大会

会期：2012年12月8日(土)～9日(日)
会場：長野県長野市・エムウェーブ

●ISUグランプリ NHK杯国際フィギュアスケート競技大会

会期：2012年11月23日(金・祝)～25日(日)
会場：宮城県利府町・セキスイハイムスーパーアリーナ

●四大陸フィギュアスケート選手権大会

会期：2013年2月6日(水)～11日(月・祝)
会場：大阪府大阪市・大阪市中央体育館

(公財)日本アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

●第7回日光杯全日本女子中学・高校生アイスホッケー大会

会期：2012年12月21日(金)～24日(日)／会場：栃木県日光市・栃木県立日光霧降アイスアリーナ・日光市細尾ドームリンク

大会時の観客席での選手達の再生容器使用状況

エコブース設置状況〈リンク内観客スペース〉

地域ボランティアによるおもてなしエコ活動状況

●第80回全日本アイスホッケー選手権大会

会期：2012年12月7日(金)～9日(日)3日間

会場：神奈川県横浜市・新横浜スケートセンター

リンクサイドに啓発バナーを掲示
閉会式で優勝チーム王子イーグルスに奥住会長優勝盾授与

●第1回Ice Hockey Japan Cup U9

会期：2013年3月16日(土)～17日(日)2日間／会場：岩手県・盛岡市アイスアリーナ・花巻市石鳥谷アイスアリーナ

第3位埼玉県選抜チーム(リンクサイドに環境バナーを掲示)

第3位東京都選抜チーム(リンクサイドに環境バナーを掲示)

(公財)日本レスリング協会

Japan Wrestling Federation

●平成24年度ジュニアクイーンズカップ・レスリング選手権大会

会期：2012年4月7日(土)
会場：駒沢オリンピック公園総合運動場体育館
参加人数：135団体・458名

●第26回九州少年少女レスリング選手権大会

会期：2012年5月5日(土)～5月6日(日)
会場：熊本県玉名市・桃田運動公園総合体育館
参加人数：26クラブ・300名

団体戦表彰

●2012年女子ワールドカップ

会期：2012年5月26日(土)～27日(日)
会場：国立代々木競技場第二体育館
参加国：アゼルバイジャン、カナダ、中国、モンゴル、ロシア、ウクライナ、米国、日本

●親子レスリング教室・審判講習会

会期：2012年6月23日(土)～24日(日)
会場：北海道・旭川市総合体育館
参加人数：80名

●審判講習会

会期：2012年5月20日(日)
会場：千葉県松戸市・松戸運動公園体育館
参加人数：80名

●第29回全国少年少女選手権大会

会期：2012年7月22日～24日(日)
会場：国立代々木競技場第一体育館
参加人数：192クラブ・1,486名

開会式

(公財)日本セーリング連盟

Japan Sailing Federation

●JSAF海の絵画コンテスト

会期：2012年7月

環境キャンペーンの一環として小中学生による海の日絵画コンテストを実施

審査会場に環境キャンペーンのフラッグを掲示

審査風景

受賞作品

●ジャパンインターナショナルボートショー 2013

会期：2013年3月7日(木)～10日(日)／会場：横浜

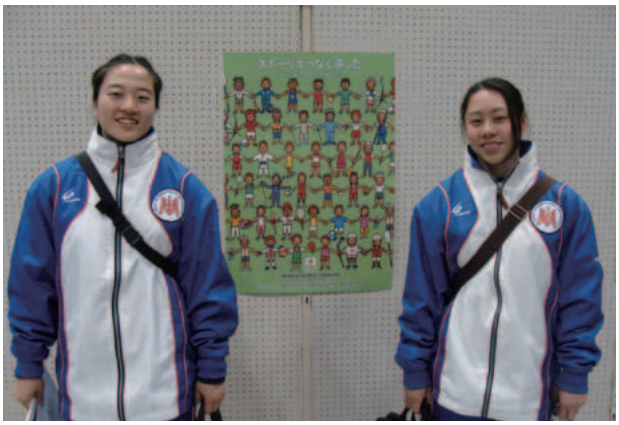
セールをリサイクルしてトートバッグを作成

(一社)日本ウエイトリフティング協会

Japan Weightlifting Association

●第26回全日本女子ウエイトリフティング選手権大会

会期：2012年4月13日(金)／会場：北九州市立総合体育館



58kg級優勝の安藤美希子選手と48kg級優勝の水落穂南選手

63kg級優勝　橋田麻由選手

●レディースカップ第4回全日本女子選抜ウエイトリフティング欄主権大会

会期：2012年11月21日(水)／会場：国立市民総合体育館

ゴミの分別をする八木かなえ選手

●第49回全日本社会人ウエイトリフティング選手権大

会期：2012年11月23日(金・祝)

会場：国立市民総合体育館

団体優勝した自衛隊体育学校チーム

●第72回全日本ウエイトリフティング選手権大会

会期：2012年4月13日(金)

会場：北九州市立総合体育館

競技会場に環境バナーを掲示

(公財)日本ハンドボール協会

JAPAN HANDBALL ASSOCIATION

●JAPAN CUP 2012 TOYOTA GAMES

会期：2012年6月8日(金) ～ 10日(日)
会場：愛知県豊田市・スカイホール豊田

●第15回ハンドボール研究集会

会期：2012年7月30日(月)、31日(火)
会場：香川県高松市・香川大学教育学部

●第17回ジャパンオープンハンドボールトーナメント

(スポーツ祭東京2013第68回国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会)
会期：2012年8月10日(金) ～ 13日(月)
会場：東京都･墨田区他：墨田区総合体育館他

●第37回日本ハンドボールリーグプレーオフ

会期：2013年3月9日(土)、10日(日)
会場：東京都･世田谷区：駒沢体育館

前列左から、渡邊佳英会長、福井俊彦元日本銀行総裁、立石義雄オムロン(株)名誉会長　後列左から、多田博副会長、3人挟んで市原則之JOC専務理事、齋藤健衆議院議員、川上憲太専務理事

●第36回全国高等学校ハンドボール選抜大会

会期：2013年3月25日(月)～ 30日(土)
会場：静岡県袋井市・小笠山運動公園エコパアリーナ

●プログラム掲載

ぎふ清流国体ハンドボール競技、第37回日本ハンドボールリーグ2012-2013オフィシャルプログラム、第64回全日本総合ハンドボール選手権大会、第8回春の全国中学生ハンドボール選手権大会

(公財)日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

●第40回 全日本社会人ソフトテニス選手権大会

会期：9月1日(土)～2日(日)
会場：新潟県新潟市 新潟市庭球場

環境ポスターを前に、後列左から(公財)日本テニス連盟の櫻井資悦公認会計士、同 柳下秋久常務理事、同 西村信寛副会長、前列左から同 小原信幸副会長、同 和歌浦信雄常務理事、同 田中正男常務理事、同 笠井達夫専務理事、新潟県ソフトテニス連盟 出口政俊副会長

●第29回 全日本小学生ソフトテニス選手権大会

会期：8月2日(土)～5日(日)／会場：島根県出雲市・松江市
県立浜山公園テニスコート・松江市営庭球場

大会プログラムに広告を掲載し、選手・保護者等に環境について啓発活動を実施

●平成24年度 臨時評議員会

会期：12月2日(日)／会場：東京グリーンパレス

会場に環境横断幕・ポスターを掲載

●アジアソフトテニス選手権大会 国別対抗戦 男女ダブル優勝他祝勝会

会期：12月1日(土)／会場：東京グリーンパレス

環境横断幕・ポスターを背に乾杯

●平成24年度 指導研修会

会期：平成25年2月2日(土)～3日(日)／会場：大阪アカデミア

全国の小・中・高の指導者を前に挨拶をする(公財)日本ソフトテニス連盟 笠井達夫専務理事

分科会テーマのスポーツと環境等の討議内容を発表する小学生分科会の指導者

(公財)日本相撲連盟

Japan Sumo Federation

●第23回全国都道府県中学生相撲選手権大会開会式

会期：2012年8月5日(日)／会場：東京都・国技館

国技館の土俵上で記念写真を撮る入賞者

●天皇杯 第61回全日本相撲選手権大会

会期：2012年12月2日(日)／会場：東京都・国技館

横断幕

全日本選手権大会に備え向正面に掲載した「Play ture…」(スポーツにおける心身の環境整備)

国技館相撲教習所の清掃と3面の練習土表を元に戻す(砂煙で場内がかすむ)

(公社)日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

●環境ポスター

左から、山内英樹理事長、米山順副会長、竹田恆和副会長、嘉納寛治副会長

●第64回全日本障害馬術大会2012PartⅡ

会期：2012年9月13日(木)～16日(日)
会場：御殿場市馬術・スポーツセンター

●第36回全日本ジュニア障害馬術大会2012

会期：2012年7月26日(木)～29日(日)／会場：山梨県馬術競技場

競技会場に啓発バナーを掲示

●機関誌「馬術情報」への環境ポスター掲載

全会員、一般購読者に配布

●大会パンフレットへの環境ポスター掲載

（公財）全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

●平成24年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

会期：2012年9月8日（土）～ 9日（日）
会場：埼玉県立武道館

●平成24年度柔道フェスタ（東北・北海道ブロック）

会期：2012年10月14日（日）
会場：山形市総合スポーツセンター第一体育館

左から、松本薫選手、中矢力選手、田知本遥選手、森下純平選手

●平成24年度柔道フェスタ（北信越・関東ブロック）

会期：2012年10月14日（日）／会場：長野県・松本市総合体育館

左から、福見友子選手、西田優香選手、加藤博剛選手、海老沼匡選手

●平成24年度柔道フェスタ（近畿・東海ブロック）

会期：2012年10月14日(日) ／会場：大阪市修道館

●平成24年度柔道フェスタ（中国・四国ブロック）

会期：2012年10月14日（日）／会場：広島県総合体育館

●平成24年度柔道フェスタ（九州ブロック）

会期：2012年10月14日（日）／会場：熊本県・山鹿市総合体育館

左から、粟野靖浩選手、西山将士選手、緒方亜香里選手、阿部香菜選手

(公財)日本バドミントン協会

Nippon Badminton Association

●平成24年度全日本総合バドミントン選手権大会

会期：2012年12月3日(月)～9日(日)
会場：代々木第二体育館／参加人数：450名

日本バドミントン協会・綿貫民輔会長(中央)と女子ダブルス優勝の高橋礼華選手(左)・松友美佐紀選手ペア

●第62回全日本実業団バドミントン選手権大会

会期：2012年6月13日(水)～17日(日)
会場：日本ガイシスポーツプラザガイシホール他
参加人数：1,200名

左から高橋沙也加選手、廣瀬栄理子選手、数野健太選手、坂井一将選手

●ロンドンオリンピック2012

会期：2012年7月28日(土)～8月5日(日)
会場：ウェンブレーアリーナ

女子ダブルス銀メダルの垣岩令佳選手(左)、藤井瑞希選手ペア

●バドミントン日本リーグ2012

会期：2012年10月13日(土)～14日(日)
会場：富山県・高岡市民体育館／参加人数：2,100名

藤井瑞希選手(手前)、垣岩令佳選手ペア

●ヨネックスオープンジャパン

会期：2012年9月18日(火)～24日(月)／会場：代々木第一体育館

池田信太郎選手(奥)、潮田玲子選手のイケシオペア

味の素ナショナルトレーニングセンターでのゴミの分別

(公社)日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

●第67回国民体育大会

会期：2012年10月2日(日)～4日(火)／会場：岐阜県白川町・白川町特設ライフル射撃場

競技会場内にポスター掲示
左から、岐阜県ライフル射撃協会 鷲見勝彦理事長、ロンドン五輪出場の松田知幸選手(神奈川県警察)、日本ライフル射撃協会 松丸喜一郎専務理事

会場(選手役員休憩所)に設置された分別ゴミ箱

●平成24年度全日本社会人ライフル射撃競技選手権大会 兼 第68回国民体育大会ライフル射撃競技リハーサル大会

会期：2012年9月7日(金)～9日(日)／会場：埼玉県長瀞町・長瀞総合射撃場

会場(射撃場内)に設置された分別ゴミ箱

●第2回全国総会

会期：2013年2月23日(土)

会場：東京都渋谷区・フォーラムエイト8階カンファレンスルーム

会議場内でのポスター掲示(坂本会長の挨拶。最前列左から、佐川肇副会長、坂本剛二会長、松丸喜一郎専務理事)

●ライフル射撃情報誌への環境ポスターの掲載

(一財)全日本剣道連盟

All Japan Kendo Federation

●第60回全日本剣道選手権大会 決勝戦

会期：2012年11月3日(土・祝)／会場：日本武道館

●平成24年度全日本少年少女武道(剣道)錬成大会

会期：2012年7月28日(土)、29日(日)／会場：日本武道館

●環境ポスター

左から、真砂威常任理事・武安義光会長

北の丸事務所リサイクルボックス

●中古剣道具の活用

武道具製造職人さんによる面の仕分け作業

武道具製造職人さんによる胴の補修作業

(公社)日本近代五種協会

Modern Pentathlon Association of Japan

●第5回近代3種大会in木曽

会期：2012年6月17日(日)／会場：長野県・大桑村スポーツ公園

鉛弾・フロンガスを使わない、環境にやさしいエアースポーツガンを使用

参加選手、スタッフでBB弾を撤去

●第9回チャレンジ近代五種国際大会in千葉 兼 第7回JOCジュニアオリンピックカップ

会期：2012年9月23日(日)／会場：千葉県・日本エアロビクスセンター

環境ポスターの掲示

会場内にてゴミの分別を実施

エアースポーツガンの射撃練習

大会参加者とスタッフの集合写真

(公社)日本山岳協会

Japan Mountaineering Association

●自然保護常任委員研修会

会期：2012年6月23日(土)～24日(日)
会場：長野県・浅間高原

●ジュニア登山IN立山

会期：2012年8月9日(木)～12日(日)
会場：富山県・立山

●IFSC世界ユース選手権大会

会期：2012年8月29日(水)～9月1日(土)
会場：シンガポール

●第36回自然保護委員総会

会期：2012年9月8日(土)～9日(日)
会場：北海道・大雪

●2012IFSCクライミングワールドカップ印西大会

会期：2012年10月27日(土)～28日(日)
会場：千葉県・印西市

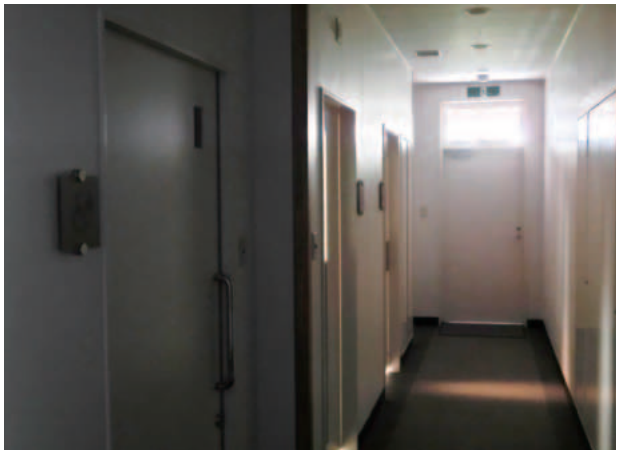
●なすかし雪遊び隊

会期：2013年3月27日(水)～28日(木)
会場：福島県・甲子高原

(公財)全日本空手道連盟

Japan Karatedo Federation

●日本空手道会館内の廊下の様子



ロビー、廊下の照明を消し、徹底した節電に努めた

●掲示物による呼びかけ

事務室内のポスター

道場に掲示されたエアコンの使用に関する掲示物

第40回全日本空手道選手権大会(於:日本武道館)にてごみ分別収集に協力する取り組み

第12回全日本少年少女空手道選手権大会(於:東京武道館)にて環境活動を訴える掲示物

(公財)全日本ボウリング協会

JAPAN BOWLING CONGRESS

●平成24年度第2回理事会

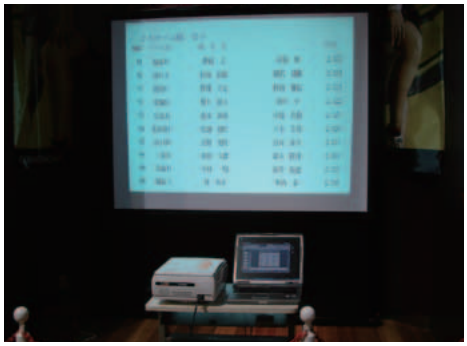
会期:2012年5月27日(日) ／会場:岸記念体育会館(東京都渋谷区)

会場側面にポスターを掲示

●文部科学大臣杯争奪第51回全日本ボウリング選手権大会

会期：2013年3月14日(木) ～ 17日(金)

会場：稲沢グランドボウル(愛知県稲沢市)



大型スクリーンで大会成績を公開

●JOCジュニアオリンピックカップ　第36回全日本高校ボウリング選手権大会

会期：2012年7月31日(火) ～ 8月1日(水) ／会場：品川プリンスホテルボウリングセンター(東京都港区)

左から、協会相澤隆也専務理事、男子優勝者・今北侑吾選手、女子優勝者・井口瑞貴選手

大会プログラムに啓発用広告を掲載

●平成24年度JBC公認第3種審判員認定会

会期：2012年8月18日(土) ～ 19日(日)

会場：千歳市福祉センター(北海道千歳市)

会場前面にポスターを掲示

●平成24年度JBC公認第1種・第2種審判員昇格試験

会期：2012年9月15日(土) ～ 17日(祝)

会場：田町ハイレーン(東京都港区)

会場側面にポスターを掲示

(公社)日本カーリング協会

JAPAN CURLING ASSOCIATION

●第30回 全農 日本カーリング選手権大会

会期：2013年2月12日(火)～17日(日)／会場：北海道・どうぎんカーリングスタジアム

トリノ五輪 代表 寺田桜子

日本カーリング選手権 決勝前

青森スポーツ会館 カーリングホールで ジュニアの選手たちと

第30回 全農 日本カーリング選手権大会 どうぎんカーリングスタジアム内にて

(公社)日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

●グリーントライアスロンin 横浜

会期：2012年8月20日(土)／会場：神奈川県・山下公園

1カ月後の大会開催に向け、スイムコースの海底にあるゴミを引き上げ、会場で展示を実施

山下公園の清掃(ゴミ拾い)の様子。スポンサーや一般参加者からも協力を得られた

●グリーントライアスロンin 横浜

会期：2012年9月29日(土)・30日(日)

会場：神奈川県・山下公園

9月の横浜大会での活動模様。来場者にグリーントライアスロンの活動をPRした

●グリーントライアスロンin お台場

会期：2012年11月11日(日)

会場：東京都・お台場海浜公園

11月の日本選手権での活動風景。横浜と同様に来場者へグリーントライアスロンの啓発を行った

●その他の環境活動

酒田大会(6月山形)の清掃活動。大会関係者および協賛社が集まり、開催当日の朝に清掃活動が行われた

イベントマネジメントの持続可能性に関する規格(ISO20121)の取得授与式の模様(11月28日)

(公社)日本スカッシュ協会

Japan Squash Association

●第26回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

会期：2012 年8 月3 日(金)～5 日(日)／会場：ヨコハマスカッシュスタジアムSQ-CUBE

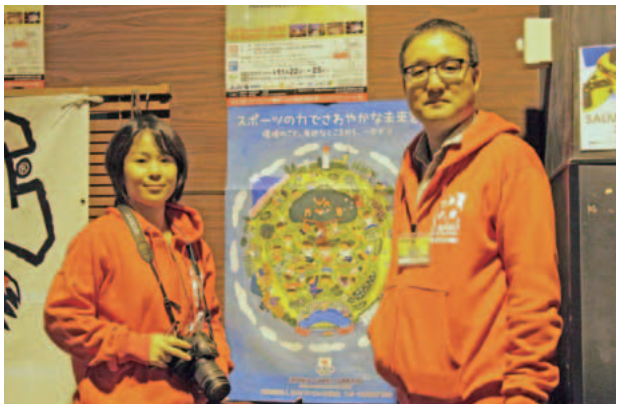
ジュニア選手がカップを使ってドリンクを飲むよう呼びかけた。ジュニア選手と宮城島環境対策委員長(常務理事)

会場に貼られたJSA のエコキャンペーンポスターの前で宮城島環境対策委員長(常務理事)とジュニア選手

●第41 回全日本スカッシュ選手権大会

会期：2012 年11 月22 日(木)～25 日(日)／会場：ヨコハマスカッシュスタジアムSQ-CUBE

会場に貼られたJOC の環境ポスターの前に立つ宮城島環境対策委員長(常務理事)



左から、広報ボランティアスタッフの品治恵子と日向孝知常務理事

●第30回北海道オープンスカッシュ選手権大会

会期：2012 年6 月15 日(金)～17 日(日)／会場：KGセントラルフィットネスクラブ山鼻、 サッポロスカッシュスタジアムSQ-CUBE

マイカップとペットボトルの分別を積極的に行った
(左から、北海道支部小幡博支部長と参加選手)

表彰式、閉会式ともにゴミの分別、資源再利用等エコ活動を推進
(JOC の環境ポスターを持って全体写真)

(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟

JAPAN BODYBUILDING&FITNESS FEDERATION

●第23回ジャパンオープン選手権

会期：2012年8月5日(日)／会場：三重県・四日市市文化会館

●第12回ミス21健康美大会

会期：2012年9月2日(日)／会場：品川区立総合区民会館

●第16回日本クラス別ボディビル選手権

会期：2012年9月9日(日)／会場：栃木県総合文化センター

●第24回日本マスターズボディビル選手権

会期：2012年9月16日(日)／会場：東京都・タワーホール船堀

●第58回男子日本ボディビル選手権／第30回女子日本ボディビル選手権

会期：2012年10月7日(日)／会場：メルパルク大阪

●第24回日本ジュニアボディビル選手権

会期：2012年10月7日(日)

会場：メルパルク大阪

(公社)日本ボート協会

Japan Rowing Association

●第90回全日本選手権大会

会期：2012年9月13日(木)～16日(日・祝)　会場：埼玉県戸田ボートコース

(公財)全日本軟式野球連盟

JAPAN RUBBER BASEBALL ASSOCIATION

●高円宮賜杯第32回全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント

会期：2012年8月12日(日)～17日(金)／会場：明治神宮野球場

環境バナーの掲出　公益財団法人 東京都軟式野球連盟 梅田勝利会長と優勝した福井県代表チーム

監督・主将会議場(日本青年館ホテル)にポスターを掲示

●第29回全日本少年軟式野球大会

会期：2012年8月19日(日)～23日(金)

会場：ナビオス横浜

監督・主将会議場にポスターを掲示

●日本体育協会公認コーチ養成専門科目講習会

会期：2012年11月3日(土)～7日(水)

会場：ホテルワイナリーヒル(志太スタジアム)

講習会場にポスターを掲出

(公財)日本自転車競技連盟

Japan Cycling Federation

●第15回全日本自転車競技選手権大会ロード・レース

会期：2012年4月28日(土)～29日(日)
会場：岩手県八幡平市

ロードレースコースのフェンスにバナーを掲示

●2012年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会

会期：2012年8月11日(土)～12日(日)
会場：静岡県伊豆市・伊豆ベロドローム

ドーム内フェンスにバナーを掲示

(公財)全日本弓道連盟

All Nippon Kyudo Federation

●第1回 アジア・オセアニア弓道セミナー

会期：平成24年4月13日(金)～15日(日)／会場：愛知県名古屋市　日本ガイシスポーツセンター

全日本弓道連盟　石川武夫会長と海外の弓友

スポーツと環境についてスピーチをする石川会長

ポスターの掲示とゴミの分別

(公財)日本ソフトボール協会

Japan Softball Association

●第45回日本女子ソフトボールリーグ　決勝トーナメント

会期：2012年11月10日(土)～11日(日)
会場：京都府京都市　わかさスタジアム京都

レフトフェンス側に設置した環境標語バナー

●第9回アジア男子ソフトボール選手権大会

会期：2012年10月25日(木)～28日(日)
会場：岡山県新見市　新見ピオーネ球場

会場正面入口に設置した大会看板と環境ポスターと大会ポスター
(左から、笹田専務理事、サリーアジア連盟事務総長、石橋副会長、
ベンチューアジア連盟会長、宇津木理事、福島理事)

(公社)日本カヌー連盟

Japan Canoe Federation

●平成24年度カヌーポロ日本選手権大会

会期：2012年8月11日(土)
会場：愛知県みよし市　保田ヶ池カヌーポロ競技場

「大会期間中、会場のあちこちに掲示したポスターはかわい～!と
大好評。選手達の環境意識もアップ!」

●平成24年度カヌーポロU21日本代表強化合宿

会期：2012年8月19日(日)
会場：愛知県みよし市　保田ヶ池カヌーポロ競技場

●平成24年度揖斐川チャレンジカップ

会期：2012年7月14日(土)
会場：岐阜県揖斐郡揖斐川町　特設カヌーコース

(公財)日本ラグビーフットボール協会

Japan Rugby Football Union

●ジャパンラグビートップリーグ公式使用球のリユース活動

会期：2013年3月3日(日)／会場：紀三井寺公園陸上競技場

ジャパンラグビートップリーグ公式使用球のリユース活動「『未来のトップリーガーへ』プログラム」使用済み公式使用球贈呈式。全国のラグビースクール11チーム、中学校ラグビー部1チーム、高校ラグビー部2チーム、計14チームへ各5球を贈呈。(写真はキャプテン会議代表のサントリーサンゴリアス・竹本選手から公式球を受け取る高校ラグビー部女子部員)

(公社)全日本銃剣道連盟

All Japan Jukendo Federation

●第43回全日本青年銃剣道大会

会期：2012年8月9日(木)／会場：日本武道館

大会役員と優勝選手による啓発活動
左から、片山幸太郎大会副会長、酒井健大会会長、酒井美香・女子個人戦優勝者、鈴木健大会委員長、佐藤安一大会審判長)

ゴミ分別の徹底

●各全日本大会での啓発活動

会場：日本武道館

大会役員会議でのポスターによる啓発活動

大会参加者に配布したゴミ分別の徹底を促すプリント

（一財）全日本野球協会

Baseball Federation of Japan

●アオダモ植樹キャンペーン2012

会期：2012年7月15日（日）／会場：北海道・苫小牧国有林

キャンペーンに参加した岩本勉氏（左から2人目）と古田敦也氏（同3人目）

（公社）全日本テコンドー協会

All Japan Taekwondo Association

左から全日本テコンドー協会の川津博環境副委員長、安田郁雄理事、黒江浩二環境委員長、石井直人理事

(公社)日本ダンススポーツ連盟

Japan Dance Sport Federation

●平成24年度理事会

会期：2012年6月10日(日)／会場：日本ダンススポーツ連盟会議室

事務所内に掲示してある環境ポスターの前で
(後列左から、仲野巽理事、浦環理事、山田淳専務理事、鈴木一夫監事
前列左から　西田善夫理事、中井眞一郎副会長、齊藤斗志二会長、市原則之理事)

●オールジャパンジュニアダンススポーツカップ2012in茨城

会期：2012年8月12日(日)

会場：取手グリーンスポーツセンター第一体育室

会場内にJOC環境横断幕を掲示
開会式

ジュニアスタンダード　部門競技

日本セパタクロー協会

Japan Sepaktakraw Federation

●JOCジュニアオリンピックカップ　平成24年度 第12回全日本セパタクロージュニア選手権大会

会期：2012年4月20日(土)、21日(日)(平成24年度事業の会期の遅れにより)／会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

今大会にてJOCジュニアオリンピックカップを受賞した2選手
女子MVP佐藤さおり選手(日本体育大学女子B)と男子MVP内藤利貴選手(日本体育大学A)

(一社)日本カバディ協会

JAPAN KABADDI ASSOSIATION

●第23回全日本カバディ選手権大会

会期：2013年1月19日(土)～1月20日(日)／会場：国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室

男子試合

女子の部　決勝戦

(公財)日本体育協会

Japan Sports Association

●日本スポーツ少年団創設50周年記念事業　スポーツ少年団全国清掃・美化・交流活動

会期：2012年4月1日(日)～12月31日(月)／参加人数：7,070団、220,418名

●「豊かなスポーツライフをサポートする情報誌　Sports Japan vol.3」への記載

2012年9月10日号、190,000部を発行

(特非)日本オリンピック・アカデミー

Japan Olympic Academy (JOA)

●JOAセミナー・JOAオリンピック・レクチャー 014

会期：2012年5月27日(日)／会場：東京都・明治大学アカデミーコモン

左から、笠原一也(JOA会長)、竹本理沙(JOA会員)、後藤光将(JOA会員)、杉並伸勉(JOA会員)、勝俣由里加(JOA会員)、猪谷千春(JOA名誉会長)、田原淳子(JOA会員)、真田久(JOA理事)、佐野総一郎(JOA会員)

●オリンピック教育の実践

会期：2012年12月1日(土)／会場：東京都・茗溪会館

写真中央、Lioumpi Paraskevi(国際オリンピック・アカデミー講師)
参加学生所属:国連平和大学、仙台大学、中京大学、筑波大学、フェリス女学院大学、明治大学、早稲田大学、筑波大学付属高校、私立長野高校

●第35回JOAセッション

会期：2012年12月2日(日)／会場：筑波大学東京キャンパス

前列左から、竹村瑞穂(JOA会員)、花岡勇太(筑波大学附属桐が丘特別支援学校)、池田めぐみ(オリンピアン)、宮崎明世(筑波大学)、Lioumpi Paraskevi(国際オリンピック・アカデミー講師)、真田久(JOA理事)
後列左から、東照雄(筑波大学副学長)、清水諭(筑波大学)、杉浦久弘(文科省スポーツ競技課長)、笠原一也(JOA会長)、Robin Kietlinski(ニューヨーク市立大学)、井上雅規(JOA会員)、佐野総一郎(JOA会員)

(一社)日本トップリーグ連携機構

Japan Top League

●第1回若手研修会

会期：2012年6月2日(土)～3日(日)／会場：東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター

キャリアデザイン

9競技12リーグの若手選手91名が参加

●審判研修会

会期：2012年8月25日(土)～26日(日)／会場：東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター

モチベーションアップ講習　松場俊夫講師

実技研修～走り方の技法～　新聞紙を再利用し活用

平成24年度　スポーツ環境専門部会活動報告書

JOC Sport and EnvironmentCommission Report 2012

■写真によるスポーツ環境の啓発活動報告……2
Photographic Report of Activities on Sport and Environment

本文目次

Contents

1.スポーツ環境専門部会員の意義について……47
Objective of the JOC Sport and Environment Commission

2.第8回JOCスポーツと環境・地域セミナー　開催報告……48
Report of the 8th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

3.第9回スポーツと環境担当者会議　開催報告……52
Report of the 9th JOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment

4.スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について……55
Issues Regarding Awareness and Inplementation Activities

(1)各競技団体等の活動……56
Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

(2)JOCスポーツ環境専門部会員の活動……97
Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

(3)スポーツと環境に関するアンケート集計結果について……101
Results of the Questionnaire Regarding Environmental Avtivities of NFs

(4)スポーツと環境についてのレクチャー原稿……104
Lecture draft on Sport and Environment

5.IOCスポーツと環境委員会について……115
IOC Sport and Environment Commission

6.東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた環境活動……116
Environmental Activity for TOKYO 2020 Olympic/Paralympic Games

7.関連資料 …… 118
References

(1)JOCスポーツ環境活動者一覧 …… 118
Activities Person of Sport and Environment

JOCスポーツ環境専門部会 …… 118
Member of Sport and Environment Commission

本会加盟団体スポーツ環境担当者一覧 …… 119
National Federation

(2)IOCスポーツと環境委員会 …… 122
IOC Sport and Environment Commission

(3)OCAスポーツと環境委員会 …… 122
OCA Sport and Environment Commission

(4)IOCスポーツ環境委員会小史 …… 123
Brief History of the IOC Sport and Environment Commission

(5)JOCスポーツ環境専門部会小史 …… 124
Brief History of the JOC Sport and Environment Commission

(6)オリンピックムーブメンツ　アジェンダ21(要約) …… 125
Summary of the Olympic Movement's Agenda21

1 スポーツ環境専門部会活動の意義について

Objective of the JOC Sport and Environment Commission

「華やかな舞台を支える地道な努力の継続を！」

平成24年度は、近年希に見るほどオリンピック・パラリンピックへの注目が集まった年であった。

平成24年7月27日から8月12日まで開催されたロンドンオリンピックでは、日本選手団が毎日メダルを獲得し、史上最多の38個のメダルに輝く大活躍を見せ、国民のオリンピックに対する関心を大いに高めた。そのことは、選手団帰国後間もない8月20日に銀座で行われたメダリスト達の感謝のパレードに50万人の人々が集まり声援を送ったことにも顕れていた。8月29日から9月9日まで開催されたロンドンパラリンピックも毎日放送され、多くの人が競技に関心を寄せ、認識を新たにしたところである。

ロンドン2012オリンピック・パラリンピックは、華やかなパフォーマンスを繰り広げ、大きな感動を多くの人々に与えて、その舞台を閉じたが、ここで忘れてはならないものとして、この華やかな舞台を支えた、選手達の日々の地道なトレーニングや様々な分野における関係者の努力がある。

環境問題関係もその一つとして挙げられる。ロンドン2012大会では、特に「持続可能性」を意識し、環境問題に対して特別な配慮がなされた。既存施設の有効活用はもちろん、新規施設の建設に当たってもいろいろと環境配慮へのアイディアを実現し、大会後の活用に工夫が凝らされた。選手村等の建設を都市再開発として位置付けるとともに、メイン会場となったスタジアムでは、軽量鉄鋼や低炭素コンクリートの使用等によりCO_2排出量を大幅に削減したばかりでなく、大会終了後は、観客収容規模を縮小してスポーツ以外でも活用できる公共施設にするなど、スポットライトを浴びる華やかな競技からは想像しがたい地道な努力がなされた。

ロンドン2012大会への注目・関心の高まりとともに、2020年のオリンピック・パラリンピック大会の東京開催招致への理解、支持が高まり、多くの人々が華やかな大会とともに日本選手の活躍や日本全体の活性化を期待している。平成25年1月7日に、招致のための立候補ファイルがIOCに対して提出されたが、この中で競技場や大会運営など幾つかの必須事項の一つとして、「環境」への取組みに関して質問に答える形での記述がなされている。質問事項は、公的及び非政府の環境関係機関との関係、環境保護目的、会場等を対象とした環境影響評価についてなど多岐にわたっている。すなわち、オリンピック・パラリンピック開催都市選定にあたって、財務状況や人々の支持とともに開催都市の環境問題に対する考え方や取組みが考慮されるのである。

このように画期的な平成24年度に、多くの競技団体が、本報告書に示されているようにそれぞれの華やかな競技を支えつつ、環境に対する地道な取り組みを行った。今後も地道な努力の継続が必要と考える。

公益財団法人日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門部会
部会長　佐藤 征夫

2 第8回JOCスポーツと環境・地域セミナー　開催報告

Report of the 8th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣　旨：公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、平成13年度からスポーツ環境専門部会を設置し、環境に係わる啓発・実践活動を推進してまいりました。この度、その活動のひとつとして、第8回の地域セミナーを札幌市で開催することとなりました。このセミナーでは、北海道地区のスポーツ関係者の皆様とともに、スポーツ界における地球環境保全の必要性について改めて考え、その活動をどのように実践に移していくか、スポーツ団体の具体的な実践例を交え一緒に学ぶことを目的に実施致します。
2. 主　催：公益財団法人 日本オリンピック委員会
3. 共　催：札幌市（JOCパートナー都市）
4. 後　援：文部科学省、環境省北海道環境事務所、北海道、公益財団法人 日本体育協会、公益財団法人 北海道体育協会、一般財団法人 札幌市体育協会
5. 日　時：平成24年10月19日（金）　13：30 ～ 16：30
6. 場　所：札幌市教育文化会館（札幌市中央区北1条西13丁目）
7. 参加者：JOC、日本体育協会、北海道体育協会、札幌市体育協会の役員及び加盟団体、スポーツ関係団体、JOCパートナー都市　他
8. プログラム：テーマ『スポーツと環境のつながり』

13：30　開会
主催者挨拶
橋本聖子 JOC理事
生島典明 札幌市副市長

13：50　基調対談「アスリートから見た環境問題」
平松純子 オリンピアン（JOCスポーツ環境専門部会部会員）
大林素子 オリンピアン（JOCスポーツ環境アンバサダー）
岩崎恭子　オリンピアン
鶴岡剣太郎 オリンピアン
コーディネーター：水野正人 IOCスポーツ環境委員会委員／ JOC副会長

15：00　休憩

15：15　プレゼンテーション「スポーツを通した環境保全の啓発・実践活動」
第１部「札幌市の活動について」
札幌市環境局環境都市推進部 環境計画課長　高木 浩

15：35　第2部「北海道日本ハムファイターズの活動について」
(株)北海道日本ハムファイターズ　管理本部総務人事グループ
グループ長　三好健二
コーディネーター：佐藤征夫 JOCスポーツ環境専門部会部会長

16：20　閉会の挨拶
水野正人 IOCスポーツ環境委員会委員／ JOC副会長

16：30　閉会

以上

■セミナー概要

日本オリンピック委員会（JOC）は10月19日、JOCパートナー都市で多くの国際競技大会を開催している北海道札幌市との共催で、「第8回JOCスポーツと環境・地域セミナー」を札幌市教育文化会館で開催しました。スポーツ界における地球環境保全の必要性について考え、その活動をどのように実践に移していくかを学ぶことを目的に、当日は北海道地区のスポーツ関係者らが参加し、大変意義のあるセミナーとなりました。

●開会挨拶

はじめに、JOCを代表して北海道出身の橋本聖子理事が挨拶を行い、「札幌では40年前に冬季オリンピックを開催されました。また、2017年には札幌市と帯広市の共同開催として、冬季アジア大会を受け入れていただいています。昨今、大変な地球温暖化に関して、冬季スポーツというのは危機的な状況を迎えているのではないかと危惧をしております。今日はオリンピアンのみなさまから、これからのスポーツと環境があるべき姿のお話をしてもらいます。環境にスポーツが今、何ができるかということを考えていくいい機会にできればと思っております」と話しました。

続いて、札幌市を代表して生島典明副市長が「札幌市はJOCとパートナー都市協定を結んで、オリンピック・ムーブメントの推進、競技力の向上、何よりも地域のスポーツ振興をJOCと協力をしながら進めています。札幌は四季の変化がくっきりしていて、192万人という大都市の近くに大きな自然が共存しているというのが魅力です。この環境を子どもたちのために残していかなければいけません。私たちの大切な地球環境の保全に向けて、スポーツの持つ力、みなさまの持つ力によって実現へ、今日がそのスタートになれば大変な喜びであります」と挨拶しました。

●第1部：基調対談「アスリートから見た環境問題」

第1部の基調対談は、「アスリートから見た環境問題」というテーマで行われ、フィギュアスケートで冬季オリンピックに2回出場し、現在はJOCスポーツ環境専門部会部会員、国際スケート連盟理事を務める平松純子さん、バレーボールでオリンピック3大会に出場し、現在はJOCのスポーツ環境アンバサダーを務める大林素子さん、バルセロナオリンピック競泳金メダリストの岩崎恭子さん、スノーボードでトリノオリンピックに出場した鶴岡剣太郎さんという4人のオリンピアンと、IOCスポーツ環境委員会委員を務める水野正人JOC副会長がコーディネーターとして参加しました。

冒頭、水野副会長から4人のオリンピアンの紹介、そしてIOCとJOCが環境活動に取り組むようになった経緯や現在行われている主な活動、さらに今年のロンドンオリンピックで行われた環境への取り組みについて写真などを交えて報告がありました。

続いて、平松さんが自らの体験を振り返りながら、スケート競技は氷なしではできない競技という点に触れて、「できるだけ省エネでリンクを作れないかという問題があります。来年、私の地元・神戸にリンクができるのですが、そこは建物の屋根に太陽光発電設備を作り、その電気を売って、コストを下げていくということを考えています。よくフィギュアスケートの試合中などに登場する氷を掃除するマシーンがあるのですが、それもガソリンではなく電気やプロパンガスで動くようにしたりと、私たちもできるかぎり、効率よく実施できるようにがんばっています」と語りました。

大林さんは屋外で行うビーチバレーについて、「選手の切実な問題として、浜辺などが温暖化で水位が上昇して、あと100年後にはプレーできる浜辺がなくなってしまうのではないかと言われています。さらに紫外線の問題もあります。女子選手が着用するビキニはルールで大きさが決まっていますが、普段の練習時には（紫外線から肌を守るために）長袖を着て練習しています。（オゾン層の破壊が進んでいる）オーストラリアはビーチバレー大国なのですが、選手は『地元の海岸では練習したくない』と言って、いろんなところに転戦するという大きな問題が起きています」と紹介しました。

岩崎さんは「初めて、海外遠征に行った時に水道の水って飲んじゃいけないのだということを知って、日本は本当に恵まれているのだと知りました」と自らの体験を語り、マイ箸や競技プログラムのインターネット上での公開による紙の削減、ゴミの分別の徹底といった日本水泳連盟の取り組みを紹介しました。最初は『どうしてそこまで？』という意識の人もいたのですが、当たり前になれば当たり前になるという環境ができているのではないかと思います。その影響もあり、日本水泳連盟は2011年にIOCから『スポーツと環境賞』という賞をいただきました」と話しました。

スキー、スノーボード選手として海外へ合宿や試合に行くことも多い鶴岡さんは、18歳の夏にスキーの合宿で訪れたフランスの氷河地帯がその10年後、ほぼ同じ季節に

再び訪れた時には、スキーができる状況ではなくなっていたという具体的な温暖化のエピソードと、一緒に生活をすることが多かったフランス人選手の環境への高い意識を紹介し、「その人は日本人が暗すぎると感じるほど、電気を消していました。われわれが今、住んでいる明るさは、そのフランス人からすれば『そんなに必要ないでしょ』と思うくらいなのでしょう」と海外の人たちの環境への意識の高さについて紹介しました。

●第2部：プレゼンテーション
「スポーツを通した環境保全の啓発・実践活動」

「スポーツを通した環境保全の啓発・実践活動」というテーマで行われたプレゼンテーションでは、開催地の北海道で行われているスポーツと環境の取り組みについて、報告が行われました。

まず、札幌市環境局環境都市推進部の高木浩環境計画課長が札幌市環境局と教育委員会が合同で行っている「かんきょうみらいカップ」という取り組みについて紹介しました。これはスポーツと環境について組み合わせたイベントとなっていて、自主的に子どもたちが環境について気づき、自発的な行動を喚起することを目的としていることが紹介されました。

このイベントは地域の小学生が参加し、サッカー、環境クイズ、クイズリレーの3つでポイントを競うイベントとなっていて、成績優秀のチームはJリーグ・コンサドーレ札幌の試合会場で試合開催当日に行われるイベントに参加できるものとなっています。

ただし、このイベントは単にサッカーが強いだけでは上位に進むことはできず「北海道の電力消費の中でもっとも多いものは？」などといった身近な話題などから作成した環境クイズに答えなければならないため、おのずと環境によい取り組みがどのような取り組みなのかを学ぶことができるものとなっています。また、環境に関する意識を高めるために、参加する子どもたちに普段取り組んでいる、あるいはこれからやってみたい環境活動に関する「環境体験活動カード」の提出というものを行っています。このカードを提出してもらうことで、コンサドーレ札幌の試合の観戦チケットがもらえます。

これらのイベントは地元の企業などの協力で開催されています。年々、参加希望者も増加していて、今年は参加者を抽選で選んだとのことです。子どもたちの参加の動機はJリーグのグラウンドでプレーできるということが多かったものの、このイベントをきっかけに環境について知ることができたというアンケート結果が寄せられたそうです。

続いて、北海道を本拠地とするプロ野球チーム・北海道日本ハムファイターズの取り組みについて、球団の管理本部総務人事グループの三好健二グループ長から報告がありました。

2004年に東京から北海道にフランチャイズを移転した同球団は、職員だけでなく、監督・コーチ・選手にも徹底している企業理念の社会貢献の一環として、環境活動に取り組んでいることが紹介されました。

環境活動として、スポーツ環境、生活環境、自然環境を守る活動を行っていて、なかでも北海道の自然環境を守る具体的な活動として身近なところでは、試合に来場した人へ「エコロジーポット」という紙でできた鉢とハーブの種を配布し、自然への意識を高めたり、レジ袋の削減を目指した「マイお買い物袋」の配布などの取り組みが紹介されました。

また大きな活動としては、台風によって倒木被害を受けた支笏湖周辺の土地、約18.5ヘクタールを球団が借り受けて、2008年から毎年春と秋に100名ほどが参加する植樹イベントを行い、現在までに1万8500本の苗木を植え、現在はそれの維持管理に務めているとの報告がありました。そのイベントの際には「森の教室」として子どもたちに自然教室を行い、木製バットの原料となるアオダモの木を見せて「これが木製バットの主な材料である」ということを教えると、子どもたちは目を輝かせていたそうです。

さらに今年からは地元のNPO法人と協力して、少年野球チームが練習をするグラウンドや本拠地・札幌ドーム周辺でもゴミ拾い活動を行い、それらの活動をまとめて札幌ドームや、選手のロッカーでも紹介したところ、選手にも好評だったとのことです。そのほか、新しい試みとして、古くなったユニフォームなどを再利用して製作したエコユニフォームを着用した試合を今季3試合行いました。

これらの活動は、球団、ファン、選手が三位一体となって行っているもので、単純に野球の成功だけを選手に求めるのではなく、ファンへの感謝、社会貢献という意識も持ち合わせている強い存在感を持つ人間が球団の求める選手像であるとも紹介されました。

●閉会挨拶

最後に、水野副会長が2020年東京オリンピック・パラリンピック招致のPR映像を交えて挨拶し、「私たち日本オリンピック委員会はスポーツの力を信じています。私たちは日本に元気をということで、来年9月7日のブエノスアイレスでのオリンピック開催地の招致決定に向けてがんばっています。そのなかでも環境を大切にする活動を続けていければと思っております」と挨拶し、セミナーは終了しました。

■出席者一覧

所　属　先	氏　名
（公財）日本オリンピック委員会	水　野　正　人
	佐　藤　征　夫
	尾　崎　正　則
	橋　本　聖　子
	藤　原　庸　介
	板　橋　一　太
	鎌　賀　秀　夫
	橋　口　陽　一
	平　松　純　子
札幌市	生　島　典　明
（一財）札幌市体育協会	島　本　俊　男
	高　橋　　学
（特非）恵庭市体育協会	森　田　大　輔
（特非）北広島体育協会	谷　中　　準
（公財）日本水泳連盟	佐　藤　美　幸
	清　松　美　保
（公財）日本スケート連盟	畑　中　悦　子
（公財）日本アイスホッケー連盟	大　越　孝　彌
（公財）日本セーリング連盟	菊　池　　透
（一社）日本ウエイトリフティング協会	加　納　　修
（公財）日本ソフトテニス連盟	運　上　琢　論
（財）全日本剣道連盟	花　田　　宏
全日本アマチュア野球連盟	松　田　　仁
（公社）日本武術太極拳連盟	金　子　るみ子
（公社）日本ダンススポーツ連盟	村　上　トミエ
	中　村　正　夫
	渋　谷　年　通
	米　田　勘　二
	久　保　孝　志
北海道乗馬連盟理事	村　上　恵　祐
北海道少林寺拳法連盟	阿　達　美恵子
北海道セーリング連盟	濱　田　　賢
北海道ソフトボール協会	加　藤　　敦
	竹　澤　満　子
北海道なぎなた連盟	大　井　孝　子
	石　塚　恒　子
北海道フェンシング協会	下　野　謹　也
	下　野　芳　枝
北海道ボーリング連盟	岡　村　順　一
	松　田　光　司
札幌柔道連盟	稲　葉　正　光
	湯　浅　茂　義
札幌少林寺拳法協会	白　戸　淳　一
札幌水泳協会	大　郷　裕　之
	中　村　耕　司
	佐々木　三枝子
	彦　坂　歌　子
	北　川　文　三
札幌スケート連盟	佐々木　正　隆
	梅　谷　　正
	鍛　冶　光　利
札幌ソフトバレーボール連盟	前　崎　義　雄
札幌ソフトボール協会	石　原　ヒサ子
	木之内　和　子
札幌ペタンク協会	平　原　健　三
札幌なぎなた連盟	小　野　聖　子
札幌市体育振興会連絡協議会	石　川　誓　志

所　属　先	氏　名
あいの里西体育振興会	阿　部　芳　彦
北地区新陽小体育振興会	神　山　周　二
	松　岡　照　子
新川体育振興会	星　野　武　司
	星　野　ケイ子
新川スポーツ振興会	山　田　孝　志
新琴似南体育振興会	中　嶋　憲　一
	吉　村　以津子
	田　島　留美子
	萬　谷　真知子
	六本木　道　子
拓北スポーツ振興会	村　中　美通子
屯田地区体育振興会	鎌　田　栄　治
本町体育振興会	畑　山　貞　男
白石地区体育振興会	藤　林　栄　一
白石共栄地区スポーツ振興会	吉　田　　勲
南郷地区体育振興会	田　中　　博
	成　田　博　美
北野平体育振興会	近　藤　照　男
	堀　　康　一
平岸体育振興会	松　本　鈴　子
平和体育振興会	松　本　敏　樹
	沢　田　剛　二
稲積体育振興会	能　代　順　子
札幌市スポーツ推進委員	堀　内　　修
	荻　原　絹　代
	川　口　恵　子
札幌市スポーツ推進委員	鈴　木　範　子
	齊　藤　仁　子
	西　　征　司
	向　井　一　洋
	楯　石　邦　雄
	桑　原　義　宏
	金　島　衣公枝
	向　山　俊　男
	吉　成　幸　子
	大　窪　　学
	工　藤　英　俊
	小　澤　光　之
	清　川　政　信
	高　橋　寿　枝
	上　口　　廣
	木　戸　英　雄
	吉　田　治　次
	高　谷　みち子
	佃　　幸　子
	藤　沢　伸　幸
	小　島　秀　則
	小　谷　秀　俊
	丸　山　美枝子
	松　尾　千　明
	小笠原　博　之
名寄市スポーツ推進委員	井　元　和　正
	高　橋　浩　一
（一社）エスポラーダ北海道	小野寺　隆　彦
	丸　山　香奈子

所　属　先	氏　名
（一社）ノルディーア北海道	三　浦　雅　之
	大　原　大　樹
	村　上　有希子
	前　田　智　美
（財）さっぽろ健康スポーツ財団	佐　藤　照　幸
	鈴　木　直　之
	大　西　直　勝
	重　村　浩　司
（財）さっぽろ健康スポーツ財団	川　島　行　雄
	樋　口　智　也
（株）札幌振興公社	高　橋　里　枝
	白　取　史　之
（株）札幌ドーム	高　橋　活　二
	渡　辺　勝　彦
	竹　髙　康　博
	江　口　修　司
北翔大学	晴　山　紫恵子
札幌大学	東　原　文　郎
	野　中　佐　紀
北海道環境生活部文化・スポーツ課	馬　場　英　一
	鈴　木　芳　彦
熊本市スポーツ振興課	村　上　誠　也
	國　本　樹　子
秋田県観光文化スポーツ部スポーツ振興課	藤　原　正　喜
札幌市中央区市民部地域振興課	広　瀬　久　之
（公財）日本オリンピック委員会事務局	阿　部　幹　雄
	黒　川　仁　美
	尾　畑　雄　志
札幌市観光文化局スポーツ部	高　橋　　稔
	高　橋　克　則
	山　崎　久　嗣
	石　崎　勝　則
	山　川　環　奈
	佐　藤　貴　亮
	余　湖　充　裕
	齊　藤　　学
	藤　田　亜　季
	小　中　隆　史
	塚　本　慈　彦
	照　井　志　暢
	竹　田　陽　一
	福　島　　敦
	淡　路　　儀
	工　藤　　宏
	皆　上　強　志
	重　野　　智
	梶　浦　健　司

3 第9回スポーツと環境担当者会議　開催報告

Report of the 9th JOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣　旨：スポーツと環境に関する啓発･実践活動の理解を深めると共に、環境保全について多くの関係者・関係団体との連携、活動の推進を図るために標記会議を開催する。

2. 主　催：公益財団法人 日本オリンピック委員会

3. 後　援：文部科学省、環境省、公益財団法人 日本体育協会

4. 日　時：平成25年3月4日(月)　15：00 ～ 17：15

5. 場　所：味の素ナショナルトレーニングセンター　1階　大研修室

6. 出席者：本会役員、本会スポーツ環境専門部会員、本会加盟団体環境担当者

7. プログラム：テーマ『スポーツ界における環境保全・啓発活動の促進に向けて』

15：10　開会挨拶
佐藤征夫　JOCスポーツ環境専門部会部会長

15：10　『競技団体における環境啓発・実践活動の取り組みについて』
橋口陽一　JOCスポーツ環境専門部会部会員
(公財)日本バレーボール協会 業務執行理事／環境委員長
宮﨑三美　世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会事務局次長
公益財団法人 横浜市体育協会スポーツ事業局国際スポーツイベント推進室
コーディネーター：佐藤征夫 JOCスポーツ環境専門部会部会長

16：00　休憩

16：15　『スポーツと環境保全・啓発活動の理念と実践について』
水野正人 JOC副会長／ IOCスポーツ環境委員会委員

17：00　閉会の挨拶
水野正人 JOC副会長／ IOCスポーツ環境委員会委員

17：15　閉会

■会議概要

日本オリンピック委員会（JOC）は2月4日、味の素ナショナルトレーニングセンターで「第9回スポーツと環境担当者会議」を開催しました。この会議はスポーツと環境に関する啓発・実践活動の理解を深めるとともに、環境保全について関係者・団体との連携、活動の促進を図るために行われ、今回はJOCや加盟団体の環境担当者ら56名が参加しました。

●開会挨拶

冒頭、JOCの佐藤征夫理事兼スポーツ環境専門部会長から、「本会議は、各団体が環境啓発実践活動に関する理解を深め、かつ実践へとつなげるにあたり意見交換を行う場として開催するものです。ご参加の皆様には、活発なご討議を交わしていただき、それぞれの競技団体において、今後の活動に結び付けていただければ幸いです」との挨拶があった。

［第1部］
●ボールを再利用する「バレーボールバンク」

第1部では、「競技団体における環境啓発・実践活動の取り組みについて」と題し、2団体の事例が報告されました。

日本バレーボール協会の業務執行理事・環境委員長で、JOCスポーツ環境専門部会員でもある橋口陽一さんは、「バレーボールバンク」という取り組みを紹介。バレーボールでは、2009年の国際バレーボール連盟による統一球の制定により、試合では使えないボールが大量に発生し、廃棄せざるを得ないという問題が生じました。そこで同協会が中心となって、国内のチームからボールを回収する活動をスタート。集められたボールのうち、使用できるものは東日本大震災の被災地や海外へ寄付され、ボールとしての使用が難しいものは小銭入れやペンケースなどに加工されているそうです。

今後の課題について橋口さんは「現在はボールの回収、送付にかかる費用をいずれも各自に負担頂いています」と語り、ボールの輸送にかかる費用が、バレーボールバンク事業拡大の課題になっていると語りました。

この取り組みについては他団体からも質問があり、日本ラグビーフットボール協会からは「同じ球技でボールを消耗する競技として、ボールを加工した小物に興味を持ちました」という意見が出るなど、聴衆の関心を大いに引きつけるプレゼンテーションとなりました。

●日本初のISO20121を取得したトライアスロン横浜大会

世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会事務局次長の宮崎三美さんは、2012年9月29・30日に開催された「2012世界トライアスロンシリーズ横浜大会」が、大会終了後にイベントの持続可能性について定めた国際基準である「ISO20121」を国内で初めて取得した経緯について紹介しました。宮崎さんは「環境への配慮、大会を続ける持続可能性へのマネジメント力、横浜の先進性などをアピールし、自治体からの補助金を受けずに大会を運営するため、大きなメリットがあると考えました」と話し、さまざまな面で「持続可能な大会運営」に規格取得が役立つという考えを明らかにしました。

実際に行われた事例として、トライアスロンのスイム（水泳）を横浜港で実施するという試みが紹介されました。一部からは「横浜港の水質はよくないのでやめた方がいい」との意見もありましたが、調査してみると横浜港の水質は海水浴場並みで問題はなく、その上で暑さが残る9月の大会ということで、外海からの赤潮流入防止対策を施して大会が行われたことが説明されました。

質疑応答では規格の取得や申請に関する質問などがあり、宮崎さんは「審査を受けることで細かい作業が多くありましたが、新しい発見などもできて取得するメリットがわかりました」と答えていました。

［第2部］
●2012ロンドンと2020東京で取り組む環境対策について

第2部では「スポーツと環境保全・啓発活動の理念と実践について」と題し、国際オリンピック委員会（IOC）スポーツと環境委員でもあるJOCの水野正人副会長が、ロンドン

オリンピックで行われた環境対策の事例と、招致活動中の2020年東京オリンピック・パラリンピックで計画されている環境に関する取り組みについて報告しました。

水野副会長はまず、1月にオーストラリアのシドニーを訪問した際に、屋外で予定されていた陸上競技が猛暑の影響で中止になったというエピソードを挙げ、地球規模の環境悪化の現状を伝えました。

続いて、2003年に開催された第5回IOCスポーツと環境世界会議で採択された、持続可能な開発に向けた協働体制の確立・維持・育成に関する決議を紹介し、会場の参加者に「国内のスポーツ大会の現場で環境保全活動を行う組織はどこでしょうか？」というクイズを出題しました。「国内競技団体」という参加者の答えを引き出した水野副会長は、「国内のスポーツ界における環境保全の推進には、さまざまな大会を開催している競技団体のみなさんの力が欠かせません」と、さらなる活動の推進を呼びかけました。

ロンドンオリンピックの事例報告では、「持続可能性を実現するために、運営や競技会場の開発に大胆でゆるぎない決断を行った」と紹介し、利害を共有するステークホルダーに対する優先事項を絞った上で、環境保全に取り組んだことを紹介しました。

2020年東京オリンピック・パラリンピックで計画されている環境保全対策については、1月にIOCに提出された立候補ファイルの内容に沿って説明。「環境負荷の最小化」「自然と共生する都市環境計画」「スポーツを通じた持続可能な社会づくり」という3つの方針とそれぞれの詳細なプランについて、「環境を優先する2020年東京大会」という考えを伝えました。

●閉会挨拶

引き続き、閉会のあいさつを行った水野副会長は「環境とスポーツは別の世界と思われがちですが、私たちがしっかりした気持ちを持って環境保全を推進しないと、『スポーツ界は何をしているのか』と思われてしまいます。ぜひ、いろいろなところで活動に取り組んでください」と述べ、会議を締めくくりました。

■出席者一覧

敬称略・順不同

所　属　先	氏　名
日本オリンピック委員会	水野正人
	青木　剛
	大塚眞一郎
	佐藤征夫
スポーツ環境委員会	佐野和夫
	板橋一太
	鎌賀秀夫
日本陸上競技連盟	風間　明
日本水泳連盟	泉　正文
	丸笹公一郎
	野原　亨
	江口和美
	小川知伸
日本サッカー協会	玉利 聡一
全日本スキー連盟	宮沢 賢一
日本テニス協会	吉田友佳
	関口久美
日本ホッケー協会	寺田一夫
日本アマチュアボクシング連盟	吉森照夫
日本バレーボール協会	橋口陽一
日本体操協会	遠藤幸一

所　属　先	氏　名
日本バスケットボール協会	長谷川光世
日本スケート連盟	森村直樹
日本アイスホッケー連盟	鈴木三祝
日本レスリング協会	白井正良
日本セーリング連盟	長嶋匡之
日本ウエイトリフティング協会	松尾謙資
日本ハンドボール協会	川上憲太
	兼子　真
日本自転車競技連盟	飯田太文
	白崎孝紀
日本ソフトテニス連盟	井上清一
	柳下秋久
日本卓球協会	鈴木一雄
全日本軟式野球連盟	清野　祐
日本相撲連盟	高橋英夫
日本馬術連盟	本城敬文
	佐藤新悦
全日本柔道連盟	中村淳子
日本ソフトボール協会	清田一正
日本バドミントン協会	今井茂満
	本田修治

所　属　先	氏　名
全日本弓道連盟	戸部考仁
日本ライフル射撃協会	佐藤陽介
日本近代五種協会	坂下俊雄
	市川祥宏
	黒臼昭二
日本ラグビーフットボール協会	児玉隆一郎
	小宮山　弘
日本山岳協会	石倉昭一
	松隈　豊
全日本アーチェリー連盟	大倉有子
全日本銃剣道連盟	坂田安太郎
全日本ボウリング協会	宮内久美子
全日本アマチュア野球連盟	柴田　穣
日本武術太極拳連盟	渡辺敏雄
日本カーリング協会	倉本憲男
日本トライアスロン連合	中山正夫
	宮崎三美
日本ゴルフ協会	塩田　良
日本ダンススポーツ連盟	岸尾政弘
	嶋田洋子
日本カバディ協会	河合陽児
日本チアリーディング協会	久保田友代

4 スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

Issues regarding awareness and inplementation activities

(1)各競技団体の活動

(公財)日本陸上競技連盟……56
(公財)日本水泳連盟……57
(公財)日本サッカー協会……59
(財)全日本スキー連盟……61
(公財)日本テニス協会……62
(公社)日本ボート協会……63
(公社)日本ホッケー協会……63
(公財)日本バレーボール協会……64
(公財)日本体操協会……65
(公財)日本バスケットボール協会……66
(公財)日本スケート連盟……67
(公財)日本アイスホッケー連盟……68
(公財)日本レスリング協会……69
(公財)日本セーリング連盟……70
(一社)日本ウエイトリフティング協会…71
(公財)日本ハンドボール協会……72
(公財)日本自転車競技連盟……73
(公財)日本ソフトテニス連盟……74
(公財)日本卓球協会……75
(公財)全日本軟式野球連盟……76
(公財)日本相撲連盟……77
(公社)日本馬術連盟……77
(公財)全日本柔道連盟……78
(公財)日本ソフトボール協会……79
(公財)日本バドミントン協会……80
(公財)全日本弓道連盟……81
(公社)日本ライフル射撃協会……81
(一財)全日本剣道連盟……83
(公財)日本ラグビーフットボール協会・83
(公社)日本山岳協会……84
(公社)日本カヌー連盟……85
(公財)全日本空手道連盟……86
(公社)全日本銃剣道連盟……87
(公財)全日本ボウリング協会……87
(一財)全日本野球協会……88
(公財)日本カーリング協会……89
(公社)日本トライアスロン連合……90
(公社)日本スカッシュ協会……91
(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟・92
(公社)全日本テコンドー協会……93
(公社)日本ダンススポーツ連盟……93
(一社)日本カバディ協会……94
日本セパタクロー協会……95
(公社)日本チアリーディング協会……96

(2)スポーツ環境専門委員の活動

板橋一太委員……97
小林　光委員……99
松岡修造委員……100

(公財)日本陸上競技連盟

1. 実施概要

世界規模で「地球環境保全」が叫ばれている現在、スポーツ界においても環境問題は避けては通れない大きなテーマ。オリンピック開催に際しても、環境への配慮が大きな関心を集めており、本連盟はいち早くこの問題に対処すべく、2006年に総務委員会に環境プロジェクトを設け、その後、「JAAFグリーンプロジェクト」を立ち上げ、環境省ともタイアップし「チームマイナス6%」→「チャレンジ25」の募集活動と地球温暖化防止のPR・啓発活動を主催競技会会場等において積極的に展開してきた。

さらに、本連盟が地域活性化イベントとして展開している「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」とタイアップし、小学生を中心に将来トップアスリートを志す子どもたちに環境問題の大切さを訴えている。

2. 平成24年度事業活動

●啓発ポスターの活用(JOCポスターの掲示)
●花の種の作成と配布
●競技会プログラムでの「温暖化防止のPR」の掲載
●競技会会場とキッズアスリート・プロジェクト会場に環境PRの横断幕を掲示
●IT化の推進によるプログラム、リザルト等の紙減量運動の展開
●ごみ分別の指導

3. 具体的な活動実施内容とその成果(事業活動)

花の種の配布を、キッズアスリート・プロジェクト4会場において実施した。

・11月22日	愛知会場	(名古屋市立橘小学校)	350袋
・11月26日	佐賀会場	(佐賀市立神野小学校)	800袋
・11月30日	岡山会場	(岡山市立福浜小学校)	1,000袋
・12月7日	宮古島会場	(宮古島市陸上競技場)	600袋

その他、上記を含むキッズアスリート・プロジェクト約10会場において、横断幕の掲出やポスターの掲示を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

主催競技会会場等にて実施した環境活動(陸連独自の横断幕等の掲示、掲載・競技会プログラム紙上でのPR・植樹・花の種の配布等)の成果には手ごたえを感じている。今後は啓発、啓発活動から一歩前進し実践活動へ移行し、競技会の運営のなかに資源、エネルギーの節減に努めるよう競技会のＩＴ化を促進させ特に紙減量を目標に掲げていく。関係者一人ひとりが環境保全の重要性を十分に認識し、身の回りのできることから実践頂けるよう啓発、啓発活動を継続していきたい。

また、「キッズアスリート・プロジェクト」を中心に、将来を担う子どもたちをターゲットにした環境保全の行動を進め、地球温暖化防止をともに考えていく。

5. JOCスポーツ環境専門部会副部会長　風間明

屋外で行われる多くのスポーツにとって、大気汚染や温暖化は、競技の存続に直結する問題であり、率先して対応するべき課題である。個々人の意識に訴え、小さな波紋が幾重にもなり、陸上競技界からスポーツ界、そして社会を巻き込む大きな波となるよう、地道に啓発活動を続けていきたい。

（公財）日本水泳連盟

1. 実施概要

地球で最も重要な資源である『水』にかかわる競技団体の使命と考え、今年度も積極的に環境保護活動を行ってきた。国内の水泳競技に関係する団体（日本スイミングクラブ協会、日本マスターズ水泳協会）と連携しながら、『エココンテスト』を共通軸に、水泳界全体として環境啓発活動に取り組んでいる。まずは水泳競技会場から、ゴミの分別や紙の削減など、身近な活動を継続的に行っていくことを心がけている。

2. 平成24年度事業活動

●第4回水泳3団体主催エココンテスト「スイムエコグッズコンテスト」の実施
●第5回水泳3団体主催エココンテスト「エコTシャツデザインコンテスト」の企画
●大会会場でのペットボトルの削減 ●バナー掲示等による啓発活動 ●ゴミ分別収集
●競技会監督者会議における環境啓発活動の説明および協力実施依頼
●競技会等における継続的環境啓発ポスターやバナーの掲示、フォトセッションの実施
●OWS大会におけるビーチクリーニングの実施

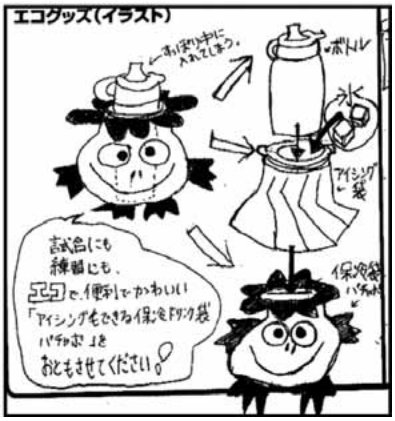
3. 具体的な活動実施内容とその成果

①第4回エココンテストの実施

水泳3団体主催で「スイムエコグッズコンテスト」を実施し、応募総数207点の中からグランプリおよび準グランプリを決定し、「ジャパンオープン2012」大会開始式（平成24年5月25日）にて表彰式を行った。

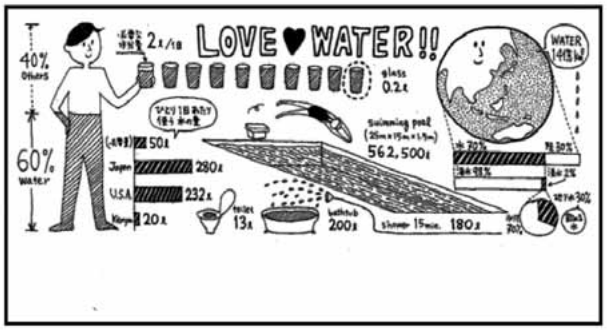
【グランプリ受賞作】

『ペットボトルキャップ』
（濱野圭佑さん・スウィン越谷SS）
※プールサイド等での給水にペットボトルのリユースを考えている人も多いと思います。せっかくなので楽しくリユースしましょう。



【準グランプリ受賞作】
日本スイミングクラブ協会会長賞

『アイシングもできるドリンク保冷袋“ぱちゃぽ”』
(富田康暉さん・平針SS)
※練習の時、アイシング氷の袋とドリンクを用意しています。アイシング氷で、飲み物を保冷。ひとつに持ち歩ける袋を考えました。ペットボトルも可能なサイズにし、外袋は保冷できる材質の、あの人気者ぱちゃぽです。



【準グランプリ受賞作】
日本マスターズ水泳協会会長賞

『イラスト入りセームタオル』(今飯田佳代子さん・東京工業大学)
※すぐ乾くため1枚あれば充分、コンパクトで洗濯もかさばらず、それ自体エコな商品であるセームタオル。そこにプリントされた「水の話」は水不足という大きな環境問題を考えるきっかけを提供します。スイマーにとって欠かせない水。知識を深めることできっと個々に水を大切に思う意識が芽生えます。そんなエコグッズの提案です。

②エコグッズの作成

エコグッズの商品化：第4回エコグッズコンテストにてグランプリ・準グランプリを獲得した作品を商品化・具体化に向けてトライした。商品化には、様々な難題が発生したが、既存の商品等との組合せをした形で、製品化を行い、各大会の参加記念品として参加選手や関係者に配布された。

③紙削減プロジェクト、環境バナー・ポスター・チラシの配布、マイ箸・マイボトル・エコバッグの推進などの継続的活動の実施

4. 全体的な成果と今後の課題

水泳界全体として環境活動に取り組むという目的のもとに始まった水泳3団体（日本水泳連盟、日本スイミングクラブ協会、日本マスターズ水泳協会）主催のエココンテストは5年目を迎えた。今回は「エコTシャツデザインコンテスト」を実施している。回を追うごとに応募者数も増え、毎年恒例のイベントとして定着しつつある。水泳愛好者が楽しみながら、継続できるこの活動を今後も広げていきたいと考えている。

5. JOCスポーツ環境専門部会副部会長　佐野和夫

公益財団法人日本水泳連盟では、スポーツ環境活動の重要性をいち早く認識し、2005年にスポーツ環境委員会を発足させるとともに、水泳界における各種の環境活動の基礎を築いてきた。

今後も、身近な環境活動を地道に続けるとともに、選手はもちろん指導者や保護者、ファンをまきこんだエコ活動を展開していきたい。

(公財)日本サッカー協会

1. 実施概要

JFAの「理念」、および「国連グローバル・コンパクト」における環境3原則（2009年7月に署名）、そして、環境省「チャレンジ25キャンペーン」(2010年1月に登録）に基づき各種活動を継続。

2. 平成24年度事業活動

●主催／後援競技会等におけるゴミ分別や公共交通機関利用の啓発
●主催競技会におけるクリーンスタジアム活動の継続
●JFAグリーンプロジェクトの推進へも掲載し、環境への啓発活動を実施
●環境プロジェクトを通じた各種啓発活動の推進
●国連グローバル・コンパクトの国内分科会活動参加(環境経営分科会)
●オフィス(JFAハウス)における環境への配慮(クールビズの実施等)

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①競技会における代表的な活動

クリーンサポーター活動は、3競技会／ 339名の参加、通算117回の開催、約2万2,376名の累計参加となった(2012年10月時点)。

②JFAグリーンプロジェクト

前年同様、都道府県協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗の提供等を実施。今年度は、約66万株の芝生の苗を全国44箇所に提供し、合計157,421㎡(サッカーピッチ22面分相当)を芝生化。

③環境プロジェクト

中西哲生特任理事を新リーダーに迎え、今後の活動を再検討中。11月に国連グローバル・コンパクト／環境経営分科会にてサッカー界のケーススタディについて勉強会を実施。又、4月開催予定のリーダーによる講演の企画調整を実施した。

④地域／ Jリーグ

リーグをはじめ各種クラブにて活動を実施しているが、一部事例を下記に記載。

アルビレックス新潟	2005年より導入開始したリユースカップ活動やサポーターと連携したゴミ拾いクリーン活動等の総合的な取組の評価から、2012年11月、新潟県環境省を受賞した。
セレッソ大阪	大阪ガス、ヤンマーと共に「CO_2ゼロチャレンジ」を開始。ホーム開催試合で排出されるCO_2を大阪市内の中小企業のCO2削減でオフセットされる先進的取組。
徳島ヴォルティス	「ポカリスエットスタジアム クリーンアップ活動」、選手・スタッフ・サポーター一体となり、活動を継続中。

ヴィッセル神戸	2010年から実施のエコPJTの一環で神戸市内の公立小学校を対象に㈱アシックスが開催するスポーツ環境校外学習に参画。床発電システムをツールとして子供たちに体験型エコ学習の場を提供。
ヴァンフォーレ甲府	2004年からゴミ削減活動等（リユース食器導入含む）の取組を継続、9年間/209試合での実績を誇る。現在では、試合開催時の大型ビジョンでのCO_2削減量発表なども実施中。
清水エスパルス	「エスパルス エコチャレンジ」の一環として、県内の小中学校、幼稚園・保育園の校庭・園庭の芝生化支援を実施中。2012度は14の幼稚園・保育園の園庭が芝生化（補修・拡張含む）。
ガンバ大阪	2009年より追手門学院大学の学生がエコボランティア（環境保全意識の啓発およびゴミ分別活動）を実施。企画から運営まで学生がアイデアを出して主体的に行っています。
横浜F・マリノス	横浜市が推進するごみ減量と脱温暖化の取組計画「ヨコハマ３Ｒ夢プラン」に協力。又、2012シーズンから、Ｊクラブ初の試みとして、スタジアム内全面禁煙を実施しています。

4. 全体的な成果と今後の課題

●JFA

例年通りの活動を継続。事務局では、新たにペーパーレス化プロジェクトなど新しい業務効率向上と合わせた活動も検討に着手している。しかし、リーダー変更等体制再構築を行う中で、一部活動について中断を行った。

●Jリーグ

2013年2月6日（水）、東京国際フォーラムにて開催された「カーボン・マーケットEXPO2013」（環境省・カーボンオフセットフォーラム主催）に出展した。昨年に続き2回目の出展となる清水エスパルスをはじめ、ヴィッセル神戸、大宮アルディージャ、栃木SCなど合計12のクラブが各クラブ独自のCSR活動をパネルや実物などを使って展示、啓発活動に協力。継続して、リーグ、クラブ、選手、サポーターが一体となり活動を継続している。各クラブからは、「このような、CSR活動のPRの場がもっと欲しい」という声が聞かれた。

5. JOCスポーツ環境専門部会員　岡田武史氏

中国サッカーリーグ監督就任に伴い、日本サッカー協会の理事及び環境プロジェクト・リーダーを退任させて頂くことになりました。しかしながら、本年も地域に根ざすＪリーグをはじめ、全国津々浦々で地域行政・企業・各種団体・サポーターを巻き込んだエコ活動が実施されたことに満足しています。アルビレックス新潟の事例は、過去その他クラブでもあったものですが、積年の活動がまさに地域の皆様の評価を勝ち得たものだと思います。今後も、こうした根強い活動が中断することなく、継続されていくことを期待しています。

(財)全日本スキー連盟

1. 実施概要

本連盟は冬季スポーツ競技団体として、地球温暖化による雪不足を切実な問題として捉え、「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し8年目を迎えている。このキャンペーンでは、「自然に対する感謝を表す活動」、「雪を通じた感動体験の共有」、「親子の絆を深める機会の提供」、「健康や楽しみを得るための機会の提供」という四つのキーワードを掲げ、「雪」を通して環境保全に対する啓発活動を行っている。

2. 平成24年度事業活動

①チャレンジ25キャンペーンへのチャレンジャー登録活動
②「I LOVE SNOW エコアクション」の展開
③「I LOVE SNOW」One's Handsキッズフェスタ2013の開催

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①チャレンジ25キャンペーンへのチャレンジャー登録活動

本連盟会員（約9万2百人）のチャレンジ25キャンペーンチャレンジャーとしての登録活動を推進し、環境保全に対する啓発活動を行った。

②I LOVE SNOW エコアクションの展開

小さなことでも具体的なアクションに繋がる活動を目指そうという主旨のもと、温室効果ガス削減の啓発活動として、カーボンオフセットによるCO2の削減（I LOVE SNOW エコアクションロゴマーク入りのマグネットを販売し、その収入の一部をカーボンオフセットプロバイダーを介してニュージーランドの森林管理プロジェクトに使用する）を推進している。

また、「I LOVE SNOW キャンペーン」ホームページに、多くの選手、スキーヤー等のエコへの思いを掲載している。

③「I LOVE SNOW」One’s Handsキッズフェスタ2013の開催

現役選手、スキーヤーをゲストに迎え、東日本大震災で被災した東北地方の子供たちを対象とした雪上イベントである「I LOVE SNOW」One's Handsキッズフェスタ2013を福島県と岩手県で開催した。参加した子供たちがイベントを通して選手と直接ふれあうことで、復興に向け元気を取り戻すと同時にスノースポーツの素晴らしさや雪の大切さを実感してもらう機会を提供した。

＜成果＞

これらの活動により、雪や自然を守ることの大切さ、継続して実践することが環境保全に繋がることをアピールできた。

4. 全体的な成果と今後の課題

「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し8年目を迎え、本キャンペーンの主旨や活動が定着し、環境保全に対する啓発活動ができてきている。今後もこの活動が継続的に行えるよう努

めていきたい。

5. JOCスポーツ環境専門部委員　谷　雅雄

世界各地で発生する地震や異常気象。ここ近年、自然の驚異と地球環境の変化を実感させられる機会が、増加している。世界中の人がこれらの現象に危機を感じ、環境保全に努めなければならない状況の中、本連盟は冬季スポーツ競技団体として、「雪」をキーワードに地球温暖化防止や環境保全に関するメッセージを発信し、自らも継続して活動を行っていきたいと考えている。

(公財)日本テニス協会

1. 実施概要

本協会では、環境保全活動推進を始めて8年となり、スポーツに共通のフェアプレイ、協会全体のチームワーク、グローバルな視野の三つを掲げて取り組んでいる。「環境保全の活動は、人々のこころの問題に帰するのではないか？　まわりのひとや美しい日本の自然、かけがえのない地球の未来に思いをはせること」と考え、「心の環境にエースをねらえ！」をスローガンに環境保全活動を推進している。

2. 平成24年度事業活動

●協会主催大会におけるポスターおよびバナー掲示
●協会主催のジュニアの大会時に「ごみゼロ運動」なるキャンペーンの実施
●日本で行われる国際大会での啓発活動
●講習会等において環境啓発講義を行う
●ホームページ活用

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①松岡修造委員直筆ポスターによる啓発活動

このポスターは協会主催の大会、ジュニアの大会時にもとてもインパクトがあり、大会に参加している人たちだけでなく幅広くみんなの心に残る啓発活動といえる。「心の環境にエースをねらえ」はまさしくスポーツのフェアープレーを心掛けること、その心がけが環境に配慮した行動を行うことに繋がる。

②グローバルスポーツアライアンス(GSA)を通じてボールの回収とリユース

③楽天オープン2012における環境啓発活動

ビーチテニスチャンピオンシップス2012と合同で、有明に特設されたビーチテニスコートでテニスを楽しむとともにトークショーを開催。試合を見に来ている観客の方々へのメッセージとして伝えることができた。

④日本テニス協会のホームページの活用

「環境レポート」をホームページへ今後載せることにより、より幅広い人たちに見てもらえる内容としていきたい。

4. 日本テニス協会スポーツ環境委員会　副委員長　吉田友佳

日本テニス協会環境委員長の生沼氏が急逝され、本協会では生沼氏が先頭に立って行ってきた活動、「いつまでもスポーツが楽しめる社会であるために」をしっかり委員全体で受け継ぎ、更に邁進していきたいと考えている。

(公社)日本ボート協会

1. 実施概要

日本ボート協会では、社会的な環境問題への意識の高揚やボート活動そのものが自然の中で行われるスポーツであることを考慮し、2007年度に「安全・環境委員会」を設立した。

「身の周りのできることから実行しよう」をモットーに、環境保全活動の基本となる環境方針を制定し地道な日常活動を継続している。

2. 平成24年度事業活動

●環境啓発ポスターの掲示
●大会会場でのゴミの分別収集・清掃
●練習水域付近の危険物の除去やゴミの回収等の清掃
●セイフティアドバイザー(各部道府県に1名)を通した各団体への啓発活動

3. 活動実施内容とその成果

①大会プログラムへの環境啓発ポスターの掲載
②学生や社会人選手を中心に練習水域(荒川)での流木等の除去作業
③セイフティアドバイザー講習会では環境に関する講習、および各県講習会等での啓発活動推進の依頼

4. 全体的な成果と今後の課題

活動を通じ、環境とスポーツは切り離すことのできない密接な関係にあることの理解が深まりつつある。これからは広報や普及など他の委員会との連携を強化し、啓発・実践活動の推進に努めていきたい。

(公社)日本ホッケー協会

1. 実施概要

当協会は主管協会・連盟とともに、環境活動の重要性を促し、啓発・実践活動を行った。今後も全国の方々に広めていけるように、より多くの啓発・実践活動に取り組む。

2. 平成24年度事業活動

①大会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示

②競技会等における環境活動
③研修会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示
当協会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。
②競技会等における環境活動
当協会主催大会において、ゴミ箱の設置、清掃活動を行った。
③研修会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示
当協会の各種研修会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、横断幕の掲示などの啓発活動を実践してきた事が実り、選手・開催地等の関係者に環境活動の啓発が徐々に理解されてきた。今後は啓発活動に加えて、スポーツと環境保全の内容をより理解して頂き、実践活動を一人一人が行えるように促していきたい。

(公財)日本バレーボール協会

1. 環境報告の前に、全日本チームの現状について

女子はロンドンオリンピックで28年ぶりにメダルを獲得したが、海外のトップチームは2m級の若手長身選手による新陳代謝が進んでおり、このままでは低身長の日本チームが2016年のリオ大会でメダル獲得する事は容易ではない。再任された眞鍋監督以下、若手を中心とした新チームを編成し、まずは本年夏のワールドグランプリに向けて活動開始した。一方ロンドンオリンピック出場を逃がした男子は、新たに米国人ゲイリーサトウ監督を招聘し捲土重来を図る事となった。2016年のリオ大会出場や2020年のメダル獲得を目標に、有望若手エリート選手の発掘・育成・強化を体系的・戦略的に進めて行く必要があり、まずは7月のワールドリーグに向け活動開始した。

2. 平成24年度の事業活動

①試合会場に、環境啓発のポスターやバナーの掲示
試合会場でアナウンスすると共に、取材の新聞記者等にも案内した。
②試合会場に、分別回収の促進を目的に、ダストボックスやビニール袋の設置
試合開始前の代表者会議等の場で、分別回収、整理整頓を強く要請した。
③試合会場、事務所、会議室の室温や照明の調整を行い、省エネへの貢献
エアコンや照明スイッチに、設定温度等の表示を添付した。
④試合結果報告等は、紙量をできるだけ減らし、ウェブサイトやモバイルで速報
大会実行委員会や事務局に、紙量削減を要請すると共に、速報を拡充した。
⑤JOC環境ポスターの縮小版を、各大会のパンフレットに掲載
天皇皇后杯、全日本大学選手権大会、春高バレー等のパンフレットに掲載した。
⑥ボールバンク事業の拡充

当事業は本年2月4日のJOC環境セミナーにおいて報告した内容である。2009年に新球種に統一した際に使用不能球が大量発生した事が契機。新球販売は年間約10万個。老朽球や使用不能球の廃棄が困難になったため、当協会がボールを収集し、アジア・アフリカの発展途上国や東日本大震災被災地に寄贈している。またリユースできないボールは解体し小銭入れやポシェットに再生しリサイクルしている。回収は2年間で約5,500個、寄贈約1,000個、廃棄約1,000個で、約3,500個が倉庫に保管中。情宣が進み、使用済ボールの回収は徐々に拡大しているが、発送元や寄贈先が運賃を負担する方式のため荷動きが停滞している。

3. 全体的な成果と今後の課題

●パンフレットや横断幕を通し、啓発活動が徐々に浸透してきたが、まだまだ参加選手、スタッフ、観客等への浸透は不十分であり、今後は会場入口でも情宣活動も実施したい。

●ボールバンクは発送元に運賃負担をお願いしているため、なかなか回収が進んでいない。また海外への贈呈も受取人に通関費用や海上輸送賃の負担をお願いしているため、贈呈も進んでいない。このボールバンク事業は素晴らしい企画であり、スポンサーや海外支援組織との連携を密にし、少しでも協力者や受益者の負担を減らす努力が必要である。

(公財)日本体操協会

1. 実施概要

これまで継続して実施してきた環境保全活動を引き続き実施していく。

2. 平成24年度事業活動

①環境啓発横断幕の設置
②炭酸マグネシウム対策
③ゴミ分別回収

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①環境啓発横断幕の設置

これまで実施してきた国内で実施される競技会とイベントの会場に、環境啓発に関する横断幕を設置した。これらは、すでに各加盟団体においても横断幕を独自に作り、それぞれの事業において横断幕設置が慣例化されている。

②炭酸マグネシウム対策

継続的に問題視されている炭酸マグネシウム対策は、これまで同様に、ビニールシートの設置、大会主催者の準備する炭酸マグネシウム以外の利用禁止、競技前後の清掃活動など、従来の方法を踏襲して進めている。

③ゴミ分別回収

ゴミの分別回収ボックスを設置し、継続的な分別意識を啓もうした。特に役員の弁当箱などは、それ独自に回収し、円滑に業者回収ができるように対応した。

4. 全体的な成果と今後の課題

各加盟団体が環境啓発横断幕設置などをイベントごとに必ず行っていることが慣例化したことについては、継続性が重要な本活動にとって意義あることである。引き続き、炭酸マグネシウム対策やゴミ分別回収活動と並行して意識醸成が必要である。ただし、前回も課題としてあげていたメダリストなど著名選手の協力による活動が減っており、それらの活動を再開していきたい。

(公財)日本バスケットボール協会

1. 実施概要

【次世代を担う子どもたちが、ずっとバスケットボールを楽しめるように！】のスローガンの下、スポーツ活動が地球温暖化と無縁ではないことを自覚し、傘下の連盟・団体、プレイヤー及びファンの方々も共有できるような環境関連のメッセージを発信することで、環境保全活動を積極的に推進している。

2. 平成24年度事業活動

①『環境啓発ポスター』及び『環境PR横断幕』の掲示
②『環境取組みメッセージ』広告の掲載
③ 環境委員会取組み活動の改善
④ 協会内部における環境活動強化
⑤『内閣府からの節電要請』の周知徹底

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①『環境啓発ポスター』及び『環境PR横断幕』の掲示
・協会主催の大会会場で、ポスター、横断幕を掲示し観客にアピール。
②『環境取組みメッセージ』広告の掲載
・協会主催大会公式プログラムに、環境ページを掲載し広く訴求。
③環境委員会取組み活動の改善
・協会主催大会実行委員会へ出席し、環境に対する提案を実施。
・大会スタッフの、観客席巡回によるゴミ回収を実施。
④協会内部における環境活動強化
・クールビズ(夏季期間)、ウォームビズ(冬季期間)の実施。
・会議資料の電子化及び裏紙再利用による紙の削減を実施。
・パソコン、オフィス内蛍光灯の小まめな電源切断を実施。
⑤『内閣府からの節電要請』の周知徹底
・内閣府が定める「推奨設定温度」及び内閣府通達「節電の取り組みについて(依頼)」<府益担第9118号>を傘下連盟・団体へ周知徹底。

4. 全体的な成果と今後の課題

平成24年度は、例年通り実施している環境活動の取組み(横断幕、ポスターの掲出、プログラムへの啓発広告)が定着し、選手からスタッフ、バスケットボールファン(観戦者)に至るま

で、環境に対する意識が確実に向上してきていると感じる。今後は、慣例化されたこのような活動を継続していくことは当然のことながら、選手、スタッフ、協会、連盟・団体が一致団結して、バスケットボールファンへさらなる訴求の呼びかけをしていかなければならない。そのために来年度以降は、 **1. トップ選手参加による訴求活動、2. バスケットボールファン（観戦者）を巻き込んだ訴求活動、**を検討していきたい。

（公財）日本スケート連盟

1. 啓発対象競技会

【フィギュア】

国内競技会	全日本ノービス選手権	24年10月	ポスター	
	全日本ジュニア選手権	24年11月	ポスター	バナー
	全日本選手権	24年12月	ポスター	バナー
国際競技会	世界国別対抗戦	24年4月	ポスター	バナー
	グランプリＮＨＫトロフィー	24年11月	ポスター	バナー
	四大陸選手権	25年2月	ポスター	バナー

【スピード】

国内大会	全日本スプリント	24年12月	ポスター	バナー
	全日本選手権	24年12月	ポスター	バナー
国際大会	ワールドカップ長野大会	24年12月	ポスター	バナー

【ショート】

国内大会	全日本選手権	24年12月	ポスター	バナー
国際大会	ワールドカップ名古屋大会	24年11月	ポスター	バナー

2. フィギュア審判セミナー

東セミナー	24年9月	新横浜プリンスホテル	158名	ポスター
西セミナー	24年9月	大阪府立体育館	176名	ポスター

スポーツと環境保全セッションにて啓発スピーチ

3. フィギュア新人発掘合宿　野辺山　24年7月　ポスター

A・Bコース開校式でスポーツと環境のかかわりについてレクチャー

4. 実践活動

●競技会におけるゴミ分別の徹底

●ペーパーレスの推進

競技会結果等をHP掲載閲覧に振り替え記録紙の使用量削減

●シールタンブラーを推奨し、紙コップ・ペットボトルの使用削減に努めた

5．JOCスポーツ環境専門部会員　平松純子

日本スケート連盟では平成16年にスポーツ環境委員会を立ち上げ、国内、国際の主要な大会でのポスター、バナーの掲示、ごみの分別の徹底を行うと同時に、様々な角度より紙の使用の削減をめざした取り組み等を行っている。

フィギュア部門ではこの数年審判役員セミナー又、小中学生を対象にした夏の合宿練習等で環境問題に関するレクチャーを行い、連盟全体としてスポーツを通じての地球環境問題を考えるよう促しているがこれをもっと広範囲に広げたいと考えている。環境啓発運動を通じスポーツ人として、安心してスポーツができる環境つくりに今後も地道に組んでいかなければと思っている。

（公財）日本アイスホッケー連盟

1. 実施概要

「この星にスポーツを」をスローガンに、全国大会開催期間中にバナー掲示及びエコ活動ブース等を設置し大会参加選手及び関係者に周知し、「チャレンジ25キャンペーン」を推奨し、大会運営費等の削減を図った。

2. 平成24年度事業活動

●全日本アイスホッケー各種大会開催時に、啓発ポスター及びバナー等の掲示

●全国大会時における選手及び団体に、チャレンジ25キャンペーン環境保全活動を推奨した。尚、対象大会は下記のとおり

第80回全日本アイスホッケー選手権大会	神奈川県、横浜市
第7回日光杯全日本女子中学・高校生 アイスホッケー大会	栃木県、日光市
第68回国民体育大会冬季大会	東京都、東大和市、西東京市
第17回全日本女子アイスホッケー選手権大会(B)	岡山県、岡山市、倉敷市
第32回全日本女子アイスホッケー選手権大会(A)	北海道、帯広市
第１回Ice Hockey Japan Cup U9	岩手県、盛岡市、花巻市

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示

全国大会開催時に環境啓発ポスター、バナー掲示、エコ運動ブース設置、エコ活動実施等を行い、啓発活動を実施した。

・エコ運動ブース設置内容はCO_2削減、ゴミ減量（分別、リサイクル）、地球環境（温暖化、身近なことでできること）等、10枚のパネル掲示を行った。

・エコ活動内容は、大会開催時に、地域ボランテア（主婦及び観光協会職員）によるおもてなし活動を通して、選手や観客等にゴミの分別や再生容器の活用をアピールし、エコ活動に参加してもらった。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターの掲示、バナーの掲示、エコ運動ブース設置等、啓発活動を行なった成果が、選手を初め多くの観客や関係者に周知され、徹底されるようになってきた。

各種大会においてチャレンジ25キャンペーンを推奨しながら、各地方連盟に対し環境保全を積極的に取り入れ、大会運営費等の削減が図れるよう通達して行きたいと考えている。

(公財)日本レスリング協会

1. 実施概要

環境保全活動の啓発を中心に実践活動への移行、そしてペーパーレス化に向けて始動する。

2. 平成24年度事業活動

●傘下団体の大会時の環境保全に関する紹介や会場内アナウンス
●会場内のポスターとバナーの掲示及びゴミの分別処理
●大会パンフレットおよび、協会機関誌、大会要項での啓発
●大会でのペーパーレス化(大会要項など)

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時の活動

環境バナー、ポスターの掲示、大会プログラムへの掲載、会場内での環境活動啓発のアナウンスを実施した。

上記の啓発活動はそれぞれの大会で浸透してきた。

②公認レスリング指導員講習会の講義でスポーツと環境活動について講義を実施

対象者が都道府県の監督・コーチということで、平成24年度「ぎふ清流国体」期間中の選手控室の写真を見てもらった。弁当箱の空箱やゴミが散乱している県があり、該当する受講者にそれぞれコメントをもらった。言葉より一枚の写真にインパクトがあり、競技以外の指導の在り方について考えてもらえる良い機会となった。

③その他

協会機関誌への環境活動の掲載

4. 全体的な成果と今後の課題

啓発活動を重ねてきた成果として概ねゴミの量は減ってきている。しかし、大会によっては分別されていなかったりする大会もある。今回、国体会場の控室がどのように利用されているか写真で残した。そして、国体の監督・コーチが受講する公認指導委員講習会時にその写真を見てもらった。該当する県の受講者にその場でコメントをもらい、試験問題にも写真の感想と会場利用について、マナーを含め今後の指導の在り方を記述してもらった。言葉での説明より、一枚の写真にはインパクトがあり、ゴミの減量化は勿論のこと、ゴミの分別処理、そして「来た時と同じように綺麗にして帰る」という、会場の利用方法、マナー面も指導しなければならない」という動機づけとなったと思う。後日、この講義の内容を実践した指導者から、「大会結果も良くなった」という手紙をいただいた。

実際に選手を指導される指導者への啓発活動とペーパーレス化に向けて継続して検討・準備・実践していきたい。

5. JOCスポーツ環境専門部会員　鎌賀秀夫

本年度は啓発から実践に向けて歩き始めた1年であった。協会主催の大会を始めローカル大会でのペーパーレス化に向けての啓発に取り組んだ。しかし、会場内の電光掲示板で結果を案内できないことから、大会リザルトの減量はできず、これまで通り紙による情報提供となった。

実践としては、リザルト以外の大会要項や申込書をウェブでのダウンロード、メール配信、そして申込みもウェブやメール申込みへと徐々に移行しつつある大会が出てきている。これらの事例を協会ホームページなどで紹介し、ペーパーレス化に向けて実践活動が加速できたらと思う。

(公財)日本セーリング連盟

1. 実施概要

海、湖で主に行うセーリング競技は直接環境へその影響が跳ね返ってくるスポーツであり、公益財団法人日本セーリング連盟では常に、また積極的に環境保全への取り組みを推進していく義務があると考えている。平成24年度も「残したいのはきれいな海」をスローガンに全国に環境保全活動を推進してきた。

2. 平成24年度事業活動

①32の全日本選手権において環境キャンペーンを実施、支援
②2012海の絵画コンテストを実施
③Used Sailの活用

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①32の全日本選手権において環境キャンペーンを実施、支援
- 環境フラッグ、横断幕等掲示により環境保全への意識の向上を推進。
- レースの帆走指示書にレース中に海にゴミを捨てた場合のペナルティ、失格条項等を記載、厳しく対処。
- 競技参加者、運営関係者、観覧者等延べ約4000名に広くキャンペーンを浸透。

②2012海の絵画コンテストを実施
- 海の日に合わせ、「残したいのはきれいな海」をスローガンに小中学生を対象にした海、船の絵画コンテストを実施。子供の頃からの環境啓発を推進。
- 前年度の最優秀作品を海の日のポスターにし、全国に配布。またそのポスターを活用した絵画コンテストの募集要項を作成。全国各地より561点の応募作品の中からグランプリ、小学校低学年、小学校高学年、中学生の各部より、金賞、銀賞、銅賞を選び、表彰。

③Used Sailの活用
- 廃棄予定のセールを活用し、リサイクル、リユースを推進。エコバッグ等へリメークし再活用。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境キャンペーンも徐々に選手、及び運営関係者には浸透し、自ら大会開催前にゴミ拾いを行う団体等も見受けられるようになった。ゴミの海上投棄の禁止等ルール化し、明文化する大会も増え、少しづつでも意識の向上が見受けられるようになった。2013年は4年に一度のセーリング競技規則改定の年にあたる。国際セーリング連盟の方針に合わせ公益財団法人日本セーリング連盟でも4月1日より新規則を採用、施行。その中の基本原則には「環境責任」という項目が新設される。これは選手のみならず、運営役員、支援者、応援者等全てが対象となるもので、いかに‘環境’が国際的にも重要視されているかが分かるものである。今年度は新たな視点も取り入れて、内容の拡充を図っていきたい。

(一社)日本ウエイトリフティング協会

1. 実施概要

スポーツ活動における環境問題を改善するために、事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、バナーの掲示により大会関係者及び観客に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

2. 平成24年度事業活動

①競技会での環境啓発活動
②競技会等における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①競技会等における環境啓発ポスター、バナーの掲示

前年度より継続して、各競技会や催事等において環境啓発のポスター、横断幕を会場内に設置した。

②競技会等における環境活動

当協会においては、より環境負荷の少ない競技会運営を目指し、審判・監督に協力を呼びかけながら、継続的に活動を行っている。

大会の運営にあたっては、できるだけ廃棄物を出さないことはもちろん、飲み物の容器・食器についても再利用や原材料としての再生利用を考慮している。北九州市において開催した全日本選手権大会では、役員の弁当に紙と経木でできた容器を使用した。大阪府羽曳野コロセアムで開催する学生連盟主催の全日本学生新人大会・全日本大学対抗選手権大会(2部)では、競技役員の昼食に会場内食堂の通常の食器を使用して、廃棄物をできるだけ出さないようにしている。

国民体育大会・全国高校総体・社会人選手権大会・レディースカップ全日本女子選抜大会などでは、開催自治体の協力によるゴミの分別収集も定着した。全日本学生連盟では、清掃班を編成して競技会場トイレを巡回し、清掃活動を行うだけでなく、ゴミの減量化・分別・持ち帰りを呼びかけるなど、環境への配慮を促している。

また、競技会自体の運営については、炭酸マグネシウム対策として、粉の粉塵化を最小限に抑えるため上部へ2カ所の取り出し口のあるものを活用しているとともに、滑りにくいプ

ラットフォームを使用することによって靴底の滑り止めの松ヤニを使用せずに競技会を行い、競技会場の床や競技者の靴底の汚れを防止している。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全啓発ポスター、バナーの掲示などの活動を通して、環境保全の重要性をアピールした。今後も、会場地等との協力のもと、環境保全の活動を行うとともに、主催者・参加者の意識向上に向け、今後も様々な取り組みを行っていきたい。

(公財)日本ハンドボール協会

1. 実施概要

全世界的な環境問題を改善してゆくためには、我々一人一人の自覚が不可欠である。そこで、スポーツ団体が取り組める環境活動として、多くの方々が集まる大会等での啓発活動が可能と考え、会場へのバナー・ポスター掲示、プログラムへのポスター掲出等を行った。これからは、各都道府県協会、各連盟とも積極的に連携し、個人個人の環境問題への意識が更に高まるように取り組みたい。

2. 平成24年度事業活動

●全国大会開催時の会場に環境バナー、ポスターを掲示
●大会プログラムへの環境ポスター掲出
●「チャレンジ25キャンペーン」の推進

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会における環境啓発活動
・環境バナー、環境ポスターを会場内に掲出し広報した。
・環境ポスターを大会プログラムに印刷するようにした。

②チャレンジ25キャンペーンの推進
・協会ホームページからチャレンジ25ページにリンクし啓発に努めた。
・都道府県協会・連盟・役員に「チャレンジ25キャンペーン」News Letterを再配信し、キャンペーン参加を促進した。

③事務局におけるクリーン購入・エネルギー節約
・事務用品の利用にあたり、エコ商品の購入に努めた。
・資料配付にあたりメール添付を多用し、ペーパーレス化に努めた。
・夏季はクールビズとした。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境バナー、ポスターの大会や集会会場への掲出により環境問題への啓発活動を行って来たが、必ずしも十分に意識浸透したとは言えない。これからは、より具体的な例を挙げて啓発活動を行うことが必要と考え、他のNFの取組を参考に、その方法を検討していきたい。

（公財）日本自転車競技連盟

1. 実施概要

自転車競技、とくにロードレースに関しては、元来自然の中を走るスポーツである。また自転車自体が、有害物質を排出しない、健康的で環境にやさしい乗り物として広く国民に利用されている。環境と自転車のつながりを今一度再認識し、より一層の環境保全を目指し取り組んでいく。

2. 平成24年度事業活動

●大会時の環境啓発ポスター、バナーの掲示
●大会会場での環境パンフレットの配布
●紙消費量の削減
●ゴミの分別回収
●ロードレース中におけるゴミ廃棄の禁止徹底

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時の環境啓発ポスター、バナーの掲示
大会会場に環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

②紙消費量の削減
大会におけるコミュニケの配布を可能な限り掲示に変更。事務連絡における郵送の削減およびメールの活用。コピーの際は集約コピーをし、紙消費量の削減。

③ゴミの分別回収
大会会場でのゴミを分別回収し、廃棄でなくリサイクルへと繋げた。

④ロードレース中におけるゴミ廃棄の禁止徹底
レース中に摂取した補給飲食料の包装紙等をむやみに廃棄することが無いように、廃棄区間を設定し回収を実施した。またこれについては競技規則にも定められており、違反者には罰則が与えられる。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全の意識は多くの関係者が持っており、日常業務や大会において少しずつであるがゴミの分別・削減は進んでいる。しかしながら、特に大会においてまだまだ可能なことはあると感じており、可能なことから具体化しさらに推進して行きたい。

(公財)日本ソフトテニス連盟

1. 実施概要

公益財団法人日本ソフトテニス連盟環境部会は、平成23年度に環境・教育部会に変更し、公益財団法人移行とともに平成24年度からは環境・教育プロジェクトとし、特別委員会とした。

特別委員会設置の目的は、公益財団法人としての高い社会的信用を維持し、公益目的事業を行うために、ソフトテニスを通じて環境と教育に取組むことにある。ソフトテニスを通じて環境保全を図っていくとともに、自己責任及びフェアプレーの精神を身につけ、マナーを重んじる教育を推進し、青少年の健全育成を図ることとした。

環境対策については、「この星にスポーツを」の横断幕を傘下47都道府県支部と日本学生連盟に2枚ずつ配布し、各支部の施設に常設するとともに大会や会議での啓発活動として掲載していただいている。またゴミの分別等エコ意識の高揚を図る活動を継続している。

平成24年度には、下記の全国大会会場で上記横断幕の掲載の他、環境ポスター掲示、機関誌・大会プログラムに「スポーツの力でさわやかな未来を」の刷り込み、分別ゴミ箱の設置、ゴミの持ち帰り、マイペットボトルにより紙コップ削減のリデュース活動等々を継続実施し、スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進するための物を大切にする生活習慣の徹底を図った。

また、新たに「教育」の視点に立って青少年の健全育成の推進、スポーツマンとしての倫理教育を推進するとともに日体協の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに呼応し、ソフトテニス連盟としてフェアプレイとマナーへの取組みとして、全国指導者研修会議（小中高の指導者を各県から召集し25年2月実施）において「フェアプレイで日本を元気に」をテーマに（公財）日本体育協会広報スポーツ情報委員・田中安人氏を講師としてお迎えし講演をいただいた。

平成25年度からは、環境・教育プロジェクトを中心に、引き続き上記の活動を各支部との連携を図り推進していく予定である。

主な大会名	開催日	会場	主管団体
アジア選手権大会日本代表予選会	5／3～5／5	大阪市	大阪府ソフトテニス連盟
全日本シングルス選手権大会	5／19～20	山形市	山形県ソフトテニス連盟
全日本実業団選手権大会	7／27～29	東京都	東京都ソフトテニス連盟
全日本小学生選手権大会	8／2～5	出雲市他	島根県ソフトテニス連盟
全日本高等学校選手権大会	8／7～8／14	新潟市	新潟県ソフトテニス連盟
全国中学校大会	8／17～19	甲府市	山梨県ソフトテニス連盟
全日本社会人選手権大会	9／1～2	新潟市	新潟県ソフトテニス連盟
JOC杯・全日本ジュニア選手権	9／8～9	広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本シニア選手権大会	9／14～16	白子町	千葉県ソフトテニス連盟
全日本選手権大会	10／26～28	鹿児島市	鹿児島県ソフトテニス連盟

主な大会名	開催日	会場	主管団体
西日本選手権大会	7／21～22	佐賀市	佐賀県ソフトテニス連盟
東日本選手権大会	7／14～15	笛吹市	山梨県ソフトテニス連盟
国民体育大会	9／30～10／3	瑞浪市他	岐阜県ソフトテニス連盟
日本実業団リーグ	11／2～4	福知山市	京都府ソフトテニス連盟
全日本クラブ選手権大会	11／3～4	白子町	千葉県ソフトテニス連盟
ジュニアジャパンカップ	11／23～26	宮崎市	宮崎県ソフトテニス連盟
日本リーグ	12／6～9	広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本インドア選手権大会	H25　2／24	大阪市	大阪府ソフトテニス連盟

（公財）日本卓球協会

1. 実施概要

公益財団法人日本卓球協会は平成24年度も前年度の活動を継承し、これまでの活動の範囲を広げた。

2. 平成24年度事業活動

各カテゴリー（一般・大学・高校・中学）における全国大会・ブロック大会・県大会等の環境保全活動並びに啓発活動を実践した。

- ●大会会場におけるごみの分別について、缶・ペットボトル・燃えるごみ・燃えないゴミの分別ごみ袋の設置回収
- ●弁当・持ち込み商品などの持ち帰り運動実施
- ●ペーパーレス化によるコピー用紙削減活動実施（各県協会・各カテゴリー連盟）
- ●平成24年度全日本卓球選手権大会プログラムに「チャレンジ25キャンペーン」みんなで止めよう地球温暖化　のページ掲載　環境保全に関する啓発活動の促進を図った。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①各大会でのゴミ処理費用の削減が図られ且つ参加選手のごみを出さない意識が高まった。
②コピー用紙の削減及びコピーした用紙の再活用する意識が根付いた。
③卓球界での環境保全に対する意識が高まり、これまでの活動以外に不要ラバーの有効活用・

不要ユニホームの有効活用・不要ゼッケンについての検討課題として話し合われるようになった。

4. 全体的な成果と今後の課題

2011年東日本大震災が起き、特にごみ問題は社会問題となりマスコミでも盛んに取り上げられた事柄で国民一人一人考えさせられたことと、原発問題から日本のエネルギー問題でCO_2削減の意識が薄れたことも否めないが、改めて環境保全で個人ができることを一つでも実施する意識並びに啓発活動を引き続き実施していきたい。

(公財)全日本軟式野球連盟

1. 実施概要

公益財団法人全日本軟式野球連盟はスポーツ振興に寄与する目的から、平成17年度に環境担当委員会を設置し事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、チラシを作成、競技会場で掲出・配布し当連盟関係者・大会参加者及び観客者に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

平成24年度からは、一部の事務連絡等の文書配布において、ペーパーレス化を図り、加盟団体支部(47支部)に電子メールで配信を実施している。

また、使用済軟式野球用具を各支部から集め、軟式野球用具が入手しづらい国や地域へ寄贈し、環境保全に繋がる実践的活動も継続的に行っている。

2. 平成24年度事業活動

①競技会等での環境啓発活動
②競技会等での環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①競技会等での環境啓発活動

連盟主催大会及び講習会にて、JOC環境啓発ポスター、JOC環境啓発バナーの掲出、全軟連環境啓発ポスターの掲出、JOC環境啓発パンフレット、全軟連環境パンフレットの配布を行った他、ゴミの分別・ゴミ持ち帰りの呼び掛けなど、参加者や観戦者に対して環境啓発活動を行った。

②競技会等での環境活動

野球用具の再利用を目的に、使用済みの野球道具を国際協力機構（JICA）の「世界の笑顔のために」プログラムに申請し、グローブやキャッチャー用具、ヘルメットなどをタンザニア、コロンビア、ニカラグア、ウガンダに寄贈した。

その他、他団体や個人で海外の野球を支援している方々を通じて、使用済み野球用具の寄贈を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナーの掲出、環境パンフレットの配布やゴミ分別・持ち帰りの呼び

掛けにより、全国大会においては参加者の環境への意識向上に繋がってきた。今後は、各都道府県大会においても積極的な環境啓発活動を行えるよう、加盟団体支部へも呼びかけていきたい。

屋外スポーツである軟式野球は、地球温暖化等による異常気象や大気汚染が進むことにより、競技に与える影響を理解した上で、改めて環境保全に対する取り組みを積極的に行っていきたい。

(公財)日本相撲連盟

1. 実施概要

相撲大会会場は、国技館や各県の県立武道館特設土俵など屋内の場合と靖国神社相撲場や堺市大浜公園相撲場など屋外の場合に分かれる。

これらの大会では、一般のごみの分別は徹底されており、また持ち込んだごみは各自持ち帰るという活動も十分に効果をあげている。

2. 会場別対策

・屋内の大会で、ごみが放置されていることは殆ど見当たらない。
・屋外においても、持ち帰りを指導しているため、ゴミについての問題はない。

3. 相撲競技に特異な注意点

・屋内相撲場では砂の扱いに注意が必要である。
特に、小中学生の大会では、少年選手達が砂を付けたまま観覧席に入ることがある。
砂は、足などのほか、まわしにも付いているため、国技館の枡席などにはまわしを付けたまま入ることを禁止している。砂を取るための清掃費は数十万円かかるのである。
監督会議で注意をするほか、大会当日の放送や見回りを繰り返しており現在では殆ど問題がなくなってきている。

4. 全体の成果

平成24年度の全日本相撲選手権大会では、国技館の向正面に「Play true…」の横断幕を掲載し、選手、監督、役員など関係者全員に「心身の環境」についても注意を促した。

(公社)日本馬術連盟

1. 実施概要

子どもたちと一緒に取り組む「環境とスポーツのあり方」をスローガンに、継続的活動を積極的に行った。

2. 平成24年度事業活動

●馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示

●ジュニア競技大会時に子どもたちに対し環境活動の啓発
●連盟機関誌「馬術情報」に、定期的に「スポーツの力でさわやかな未来を」のJOCスポーツ環境専門部会ポスターを掲載。同様に全日本大会プログラムへも掲載し、環境への啓発活動を実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示
日本馬術連盟主催大会において、環境啓発ポスター及びバナーの掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動に努めた。また、ゴミの分別収集を徹底した。
②ジュニア競技大会に子どもたちに対し、環境活動の啓発
ジュニア選手に対し、競技大会前に環境パンフレットの配布を行い、大会役員から環境活動について説明を行った。

大会名（開催場所）	参加選手数
第29回全日本ジュニア馬場馬術大会（御殿場市馬術・スポーツセンター）	94名
第33回全日本ジュニア総合馬術大会（山梨県馬術競技場）	58名
第36回全日本ジュニア障害馬術大会（山梨県馬術競技場）	260名

4. 全体的な成果と今後の課題

平成24年度は、引き続きジュニア選手たちを中心に啓発活動を行った。この活動を積極的に続けることにより、啓発から実践に繋がるものと考える。今後も馬術競技大会を通じて、多くの方に環境に対する啓発活動を続けていきたい。

（公財）全日本柔道連盟

1. 実施概要

公益財団法人全日本柔道連盟では、前年度に引き続き、事務局が中心となって、環境保全にかかわる啓発・実践活動に取り組んだ。

当連盟主催の下記大会・イベントにおいて、横断幕・ポスターを会場内に掲示し、選手や当連盟役員とも協力して、スポーツと環境保全活動の啓発に努めた。練習会場や観覧席においては、担当の係員を配置し、選手や観客による自発的なゴミ分別とゴミの持ち帰りを徹底した。

2. 平成24年度事業活動

●第27回皇后盃全日本女子柔道選手権大会（平成24年4月15日、横浜文化体育館）
●平成24年全日本柔道選手権大会（平成24年4月29日、日本武道館）
●平成24年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（平成24年9月8日～9日、埼玉県立武道館）
●平成24年度柔道フェスタ（平成24年10月14日、山形県、長野県、大阪府、広島県、熊本県の

5県）

●平成24年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（平成24年11月10日～11日、千葉ポートアリーナ）

3. 全体的な成果と今後の課題

柔道ルネッサンス委員会の活動は平成23年度をもって終了したが、平成24年度も、全国レベルの大会だけでなく、都道府県柔道連盟・協会における柔道ルネッサンス委員会が主導し、多くの都道府県において、大会時の観客や保護者に対するゴミ持ち帰りの呼び掛け、ゴミ分別の徹底、参加者全員による大会終了後の会場内清掃等、会場美化運動、あるいは社会奉仕として地元地域の清掃活動を実施している。今後も活動を続けていく予定である。

柔道界としては、嘉納治五郎師範の遺訓である「精力善用」「自他共栄」という柔道の根本原理を、「人と自然との共存」というテーマにおいて応用実践することで、今後も環境保全に努めていきたいと考えている。

（公財）日本ソフトボール協会

1. 実施概要

屋外競技であるソフトボールが、地球温暖化等による天候不順や、大気汚染によって実施できなくなる事を危惧し、JOC環境委員会のスローガンである「この星にスポーツを」、また公益財団法人日本ソフトボール協会の環境スローガンである「ホームラン　入ったスタンド　ゴミはなし！」を、大会毎にバナー掲示をし、継続的活動を積極的に行った。また、平成24年度より各大会のプログラムに、環境に関する標語もしくはメッセージを入れ、より積極的な活動を進めた。また、本会主催のソフトボール講習会、ソフトボールフォーラムにおいて、環境啓発を行った。

2. 平成24年度事業活動

●大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示

●各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れる

●講習会等でのオリンピアンを中心とする講師による環境啓発

3. 具体的な活動実施内容とその成果

本会主催大会にて、環境啓発ポスター、バナー掲示を行い、啓発活動を行った。

また、本協会が主催する各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れ、啓発活動を行った。

また、本会が全国9地区で行うソフトボールフォーラムにおいて、講師を務める指導者（主にオリンピアン）に、講習の際、環境問題の啓発のためのソフトボール版「5分間スピーチ原稿」を作成配布し、講師に環境啓発を講演の内容に織り込んだ。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示や、ソフトボールフォーラムでの講演などの啓発活動を行ってきた成果が実り、選手をはじめ多くの関係者及び観客に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

来年度以降も引き続きより多くの方々の環境に対する理解を求めて、より積極的に環境保全に努めていきたい。

(公財)日本バドミントン協会

1. 実施概要

一スポーツ団体として環境活動の重要性を認識し、環境委員会を中心に、地道に「できることから始める」をスローガンに登録会員全員に向けて、環境保全の意識を高めるための継続的な活動を実施。そこから本会だけの活動に止まらず、より多くの人に発信していけるような活動を目標に取り組んだ。

2. 平成24年度事業活動

①大会時環境啓発ポスターの掲示
②大会の要項への環境啓発項目の記載他、大会時の環境活動
③環境保全として、大会時、合宿時にゴミの分別活動実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスターの掲示

本会評議員会、日本リーグ全国17カ所他、主催20大会において、環境啓発ポスター、パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

②大会の要項への環境啓発項目の記載他、大会時の環境活動

本会主催20大会の要項に以下の三つの事項を必ず記載し、環境活動の重要性を認識させている。

(1)ゴミの分別収集に協力してください。
(2)部屋から出るときにはエアコン、テレビ、ライトのスイッチを消してください。
(3)マイ歯ブラシを持参して大会に参加して下さい。

また、大会開催にあたり、本会の案内、大会要項の申し込み方法、連絡方法などにあたり電子メールを活用して紙の削減を行い、より環境保全の意識を高めることを徹底した。

③環境保全として、大会時、合宿時にゴミの分別活動実施

大会時における役員、参加選手へのゴミの分別を徹底させている。

本会強化合宿のナショナルチームからジュニアナショナルチームまでの選手に対しては味の素ナショナルトレーニングセンターの練習における年間のドリンク類の使用量の多さに注目し、キャップと本体の分別、ゴミの分別を徹底し、環境活動の重要性を認識させている。

4. 全体的な成果と今後の課題

本会では環境委員会を正式に平成18年4月1日より立ち上げ、主に大会時においてのポスター掲示、パンフレット配布など地味な活動を中心に行ってきた。選手を始め、加盟団体の関係者、登録会員には環境啓発の知識、理解を得られたと認識している。今後は継続的に現在の活動を続けるとともにより環境にやさしい、具体的な実践活動を目指して、スポーツと環境のかかわりを多くの方に理解していただくように活動していきたい。

(公財)全日本弓道連盟

1. 実施概要

スポーツ団体として環境活動参加の重要性を認識し、行事参加者各位へ啓発活動を行った。

2. 平成24年度事業活動

①主催行事における環境啓発活動
②主催行事における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①主催行事における環境啓発活動
・本連盟主催講習会にて環境啓発ポスターを掲示し啓発活動を行った。
・本連盟主催大会において主催者挨拶の中で環境に関する内容を話した。
②主催行事における環境活動
・ゴミの分別を徹底し、資源の再利用に努めた。
・照明、空調の調整をこまめに行い、CO2削減について取り組んだ。
・大会速報を掲示のみに留め、紙の使用を削減した。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターの掲示など啓発活動により、参加者に環境保全を促すことができた。特に24年度は国際的なセミナーでの活動により日本の枠を超えてメッセージを発することができた。

これからも個々の意識を高め、実践活動に繋げていくことが必要だと考えている。

(公社)日本ライフル射撃協会

1. 実施概要

公益社団法人日本ライフル射撃協会は、環境保全に関する活動の重要性を認識し、総務委員会内に「環境部会」を設置している。環境保全に関する取組みと会員の環境意識の向上を図る活動を行っている。

2. 平成24年度事業活動

①競技会、会議等での環境ポスター掲示

②射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施
③競技後の使用銃弾(鉛弾)の回収と適切な処理作業
④環境保全に関する内容を講習会で実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①競技会、会議等での環境ポスター掲示

全国加盟団体に環境ポスターを配布するとともに全国競技会で環境ポスターを掲示し、会員への啓発に努めた。

②射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施

射撃場施設でのゴミ分別収集を徹底するとともにゴミを持ち帰ることによる施設から発生するゴミの減量化に努めた。

施設駐車場でのアイドリング禁止や施設内照明等の電力省エネを呼び掛け、施設利用者全員の協力で活動を展開した。

③競技後の使用銃弾(鉛弾)の回収と適切な処理作業

競技に使用する鉛弾の回収について、各射撃場において適切な処理を行った。

④環境保全に関する内容を講習会で実施

日本体育協会公認コーチ講習会で、環境保全についての取り組み内容を講義で説明することにより指導者への意識の向上に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

競技会での環境に関する啓発を多くの機会で行うことにより、会員の意識の向上に成果があった。今後、競技会場や都道府県事務局等への環境ポスターの掲示をはじめ、機関誌やウェブ上への環境に関する記事掲載、講習会及び研修会での環境教育のカリキュラムの導入等を計画する。

ゴミの分別収集の徹底とゴミの減量化はかなり進んでいると思われる。特に、使用銃弾(鉛弾)の回収と適正な処理は全国で適切に処理されている。

施設利用時の場内清掃の励行(クリーン運動)やゴミのポイ捨て禁止の徹底、ゴミの持ち帰り、場内駐車場での静かな運転とアイドリングの禁止、射撃場施設への緑化と花の栽培の推進及び施設管理上の省エネの実践、グリーン購入について、会員の理解と協力を得る中で拡大する。

今後も地道な活動ではあるが、具体的な行動指針を示す中で、身の周りのできることから実施する。

(一財)全日本剣道連盟

1. 実施概要

全国の剣道愛好家から中古剣道具をいただき、剣道具の入手が困難な海外の剣道連盟や団体へ寄贈する継続的な活動を通じて、身近なところから「地球規模の環境保全」の意識を啓発・実践していくことに重点を置いた。

2. 平成24年度事業活動

①中古剣道具の海外寄贈の継続
②環境保全啓発ポスターの活用
③大会等でのゴミの分別回収等の実践

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①中古剣道具の海外寄贈の継続
平成24年度にも全国から寄せられた中古剣道具を補修し、セルビア共和国をはじめ7カ国に各10セット寄贈した。
②環境保全啓発ポスターの活用
全国剣道大会等の開催時、また日常の職場においてもポスターを掲示し意識の啓発に努めた。
③大会等でのゴミの分別回収等の実践
全国剣道大会等でのゴミの分別回収（弁当箱・ペットボトルの専用回収)、事務所内にリサイクルボックスを設置した。

4. 全体的な成果と今後の課題

中古剣道具の活用により剣道の国際的普及の一翼を担うことができた。国内においては、「剣道と環境」への取組みの意識と活動を一層高める必要があると考えている。

(公財)日本ラグビーフットボール協会

1. 実施概要

日本ラグビーフットボール協会は、管理委員会に環境部門を設置してから6年目を迎え、環境部門委員によりスポーツにおける環境活動への取り組み事例の研究及び検討を行い、『社会貢献活動の一つと位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を図る』ことをテーマとして下記の事業を実施した。

2. 平成24年度事業活動

●日本協会『環境保全活動推進宣言』に基づいた推進活動の展開
●地球温暖化防止のための『チャレンジ25キャンペーン』(環境省主管) 加盟メンバーとして環

境保全活動への協力
●協会内各委員会との連携・協力体制により環境PR活動推進を図る
●日本代表チーム、トップリーグとのコラボレーションによる相乗効果を図る
●2013年2月4日開催のJOC環境担当者会議に参加し他団体の取り組み事例の研究
●2016年リオデジャネイロオリンピック（公式競技決定）、2019年ワールドカップ（日本開催決定）に向けての環境PRの発信

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①広報活動（環境啓発ＰＲ）
広報委員会との連携によりホームページ、機関紙、大会プログラム、メンバー表等への掲出により関係者、ファンへの環境保全運動を推進した。
・「FOR ALL，FOR EARTH」の日本協会環境タイライン活用
・「チャレンジ25キャンペーン」の露出PR
②試合（競技場）を観客・ファンへの環境啓発活動のチャンスと捉えてのPR推進、場内アナウンスにより、ゴミ分別回収協力の呼び掛け
③秩父宮ラグビー場での「エコキャップ運動」をスタートし、ペットボトルキャップを回収し、資源の再利用促進することでCO2排出量の削減、キャップの再資源化で得る売却益を以って発展途上国の子どもたちにワクチンを届ける活動を行った。また、キャップの回収した総数、それを焼却した際に発生する。CO2の量、提供できるワクチン数は定期的にホームページ等で報告している。
④試合開催時にチャレンジ25イベントブースを設置しファンへの参加協力呼びかけ
⑤トップリーグ参加チームと日本協会による「Try For Greenプロジェクト」を展開。トライ数に応じた寄附により、網走市の植林ならびに森林保全活動「トップリーグの森」への支援を行う（1月28日トップリーグ年間表彰式にて北海道網走市水谷市長に寄付金を寄託）
⑥省エネルギー、エコ商品利用、試合観戦時の公共交通機関利用の推奨

FOR ALL, FOR EARTH.

（公社）日本山岳協会

1. 実施概要

当協会における環境保全に関する活動は、登山者がフィールドとしている山岳地域での自然環境保護活動を主体的とし、自然保護委員会を組織してスポーツ環境活動を取り組んでいる。

2. 平成24年度事業活動

●独自制度である「自然保護指導員制度」（現在1500名を超える登録）の普及
●自然保護委員総会（各都道府県に委員を1名配置）の開催
●環境省や日本を代表する山岳団体などとの連携した山岳自然保護活動

●山岳地域におけるゴミ持ち帰りやトイレマナーの向上などの推進
●各地における清掃登山や登山道の補修などの実践
●環境省自然公園指導員を推薦し、自然公園内の適正利用や安全指導を推進
等を年間を通して実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

平成24年度の特記する活動としては、北海道（突哨山）、群馬（浅間高原）にて、里山における自然環境保全と民間活動の実態について、現地の環境保全NPOとの交流を行った。里山は登山者のフィールドである奥山と人間社会との接点であり、過疎荒地化や野生鳥獣被害などの問題が山積しており、地球規模的な気候変動とともに、こうした問題が山岳地にも著しく影響を及ぼしている。

◆登山者のマナー
1）自然を大切にする
この恵多い自然を、末永く後世に伝えるため、自然を友達のように接し大切にする。
2）水資源を大切に
水は山からの恵みであり、あらゆる生命の源であるから、水源を汚さない
3）ゴミは持ち帰る
山に持ち込んだものは必ず持ち帰る。山にはゴミを残さない。
4）トイレマナーを守る
登山口で用を済ませて、携帯トイレをの使用を習慣付ける。山岳トイレでは利用ルールを守る。
5）ローインパクトに心がける。
野生動物への配慮（餌やり、ペット同伴など）、移入植物の侵入への配慮（靴の泥に混入）

（公社）日本カヌー連盟

1. 実施概要

本連盟では、「環境対策委員会」において従来より「クリーンリバー・クリーンウォーター活動」を推進し、JOCスポーツ環境委員会提供ポスター及び横断幕を国内主要競技大会期間中に掲示することで環境保全に対する啓蒙活動を行ってきた。

「クリーンリバー・クリーンウォーター活動」は1981年より各種大会において利用する河川、湖等において競技会開催期間中の水上及び周辺施設内の清掃を行うことを主にして継続的に活動している。

2. 平成24年度事業活動

①大会時環境啓発ポスター、横断幕の掲示
②競技会等における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスター、横断幕の掲示
本会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕掲示を行い、啓発活動を行った。
②競技会等における環境活動
分別収集用のゴミ箱を設置し、競技会場周辺の自然環境を美しく保つよう呼びかけた。競技会終了後は、選手も加わって撤収、清掃活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

元々自然環境下で行うスポーツであることから、環境保全に関しては選手・役員共に関心は高いが、今後は観客を含め、更に環境に対する意識を高めるべく活動を行っていきたい。

(公財)全日本空手道連盟

1. 実施概要

昨年度に引き続き、日本空手道会館内の節電や、その他会館内で環境保全に関する取り組みを行った。

2. 平成24年度事業活動

①徹底した節電
②大会や講習会等におけるゴミ分別収集徹底の呼びかけ

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①徹底した節電
日中は廊下の電気をすべて消した。また、エレベーター、エアコンのスイッチの近くに掲示物を張り、日本空手道会館を利用するすべての方に節電への意識付けを行った結果、冷暖房の使用を控えたり、エレベーターの使用を可能な限り回避し、階段で移動を行う姿が多くみられた。
また、日常の業務においても、職員は夏は窓を開け放ちエアコンの使用を控え、冬は暖房の温度を控えめに設定し、上着を着たりひざかけを使用したりして、節電に努めた。
②大会や講習会等におけるゴミ分別収集徹底の呼びかけ
大会会場や、日本空手道会館を利用するすべての団体に対しゴミの分別を呼び掛けた。

4. 全体的な成果と今後の課題

当連盟では継続して徹底した節電を行っている。
掲示物を利用した呼び掛けは効果があり、日本空手道会館で行なわれる強化合宿や講習会等では温度が控えめに設定された。本館を使用する団体の中には、真冬の寒さの中でも暖房の使用をしないという、協力的な団体も見られた。今後も節電に対する取り組みを継続していく。

(公社)全日本銃剣道連盟

1. 実施概要

環境保全活動の重要性を認識し、当連盟主催の各種大会・講習会において、参加者に対し積極的な啓発活動を行った。

2. 平成24年度事業活動

●大会会場に環境啓発ポスターを掲示
●プリントを配布して、大会参加者に対するゴミ分別の徹底
●照明、空調等の調整による節電

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会会場に環境啓発ポスターを掲示し、選手や関係者に対し啓発活動を行った。
②事務室や道場の電気、空調をこまめに管理し、使用していない電化製品のプラグは抜く等、節電に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全の重要性を幅広くPRすることができ、選手や参加者の意識も向上してきている。今後もこの活動を継続して行い、環境保全に貢献できるよう努めていきたい。

(公財)全日本ボウリング協会

1. 実施概要

スポーツと環境保全への啓発活動は、「施設を大事にすることが、自分の最高のプレーを引き出す」ことを選手に認識させることを方針として、平成24年度も引き続き「普及開発委員会」が担当した。具体策としての大会における活動については、「競技委員会」と「情報技術(IT)委員会」が協力した。

2. 平成24年度事業活動

①協会の大会、行事における環境啓発ポスター掲示とパンフレット配布
平成24年度理事会、評議員会、協会主催各大会、審判員資格試験等
②協会主催の各大会、行事での環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導
③記録用紙の使用量削減を実施
競技成績の大型スクリーンによる公開、データ活用によるスコアシート使用削減

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①協会の大会、行事における環境啓発ポスター掲示とパンフレット配布
②協会主催の各大会、行事での環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導

協会が主催する全国大会や、理事会・評議員会などの会場に環境啓発ポスターを提示した。一部の大会ではプログラム冊子に環境啓発の広告を掲載し、選手・役員への環境啓発パンフレットの配布を行った。またすべての協会主催大会の「監督会議」や「選手ミーティング」では、環境保護とルール、マナーの遵守について注意喚起を行い、大会中は場内アナウンス等により、選手、役員、観客など、大会に関わるすべての人がマナーを意識し守るよう導くことを目標とし実施した。

③記録用紙の使用量削減を実施

「競技成績の大型スクリーンによる公開」と、平成23年度に導入した「データ活用によるスコアシート使用削減」を、平成24年度はより多くの大会で実施した。この2つの方法によりコピー用紙や専用の複写式スコアシートの消費量は格段に減らすことが可能となった。また主催全国大会の約8割ではwebサイト（携帯版試合速報）で成績公開を実施した。これらを組み合わせて実施することで、選手側の「結果を素早く、スムーズに知りたい」というニーズに応えつつ、記録スタッフの負担やコストの削減も実現でき、好評を得た。こうした対策が実現していない大会においても同様の対応を望む声はあり、早期に実施可能となるよう対策を進めていきたいと考えている。

4. 全体的な成果と今後の課題

大会において、選手・スタッフともに最も重要視される「記録・成績」の部分でエコにつながる対応を実施したことで、実際の資源保護の効果を上げるだけでなく、競技と環境のつながりを体感してもらうことができた。具体的な事例を全国大会だけでなく、地区・都道府県レベルでも実践してもらえるよう、今後はノウハウの蓄積と指導に力を入れていきたい。

（一財）全日本野球協会

1. 実施概要

日本野球界全体が環境活動の重要性を認識し、「～愛する自然と野球のため～アオダモ植樹キャンペーン2012」をスローガンに、北海道において植栽環境保全に貢献しながら、バット材として世界一と言われているアオダモの“バットの森”を育てる取組みを展開している。

2. 平成24年度事業活動

●植林活動
●木製バットリサイクル活動
●募金活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①植林活動

・日程：平成24年7月8日（日）10：00～11：30
　場所：新冠国有林　2101林班る小班
　参加者：帯広工業高校野球部員、帯広南商業高校野球部員、地元ボランティア、国有林・道有林及びアオダモ資源育成の会関係者以上　148名

植樹本数：1000本

・日程：平成24年7月15日（日）10：00 ～ 11：30
場所：苫小牧国有林　1357林班い2小班
参加者：古田敦也、岩本勉（元プロ野球選手）、苫小牧駒澤大学野球部員、苫小牧西高校野球部員、苫小牧南高校野球部員、地元ボランティア、国有林・道有林及びアオダモ資源育成の会関係者以上　180名

植樹本数：200本（シカ対策との同時併行作業）

・日程：平成24年9月29日（土）10：00 ～ 11：30
場所：由仁町道有林　119林班2小班
参加者：東海大学北海道キャンパス野球部員、札幌西高校野球部員、栗山町少年野球3チーム、セガサミー杯参加チーム12チーム、地元ボランティア、国有林・道有林及びアオダモ資源育成の会関係者以上　185名

植樹本数：300本

②募金活動

ミニバット「BAT　FOREVER」募金の実施。本会の主旨を広く一般に理解していただくとともに、全野球人のこの運動への参画を願い、募金商品としてミニバットを製作した。破損バットをリサイクルしたこのミニバット2本を購入することで1本のアオダモの苗木を植える事ができる。

4. 全体的な成果と今後の課題

野球界はスポーツと環境が大きなかかわり持つことを以前から考え、その啓発と実践に努めてきた。すでに「NPO法人アオダモ育成の会」ができて10年以上経過している。今後も変わることなく環境保全に努めていきたい。

（公社）日本カーリング協会

1. 実施概要

本年も環境活動の基盤となる活動を主催大会と位置づけ、選手、スタッフへ活動の重要性をアピールし、具体的な活動も行った。

2. 平成24年度事業活動

●主催大会時に環境啓発ポスターを掲示
●主催競技会等における環境活動
●カーリング専用施設での環境ポスターの掲示（下記参照）

北見市常呂カーリングホール
どうぎんカーリングスタジアム
妹背牛町カーリングホール
河西建設カーリングホール

空知川スポーツリンクスカーリング場
稚内市スポーツセンターカーリング場
北海道立サンピラーパークカーリング場
カールプレックスおびひろ
青森市スポーツ会館
カーリングホール御代田
スカップ軽井沢

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①本会の主催大会の会場には環境啓発ポスターを掲示し、ゴミの分別回収等を通して啓発活動を行った。

②カーリング専用施設（全国12カ所）へも環境啓発ポスターの掲示を依頼し、施設関係者および選手へ環境活動への取り組みの推進をアピールした。

4. 全体的な成果と今後の課題

本会内での環境委員会設置に向け選手及び関係者の意識をより向上させていくための活動を今後も推進したい。

（公社）日本トライアスロン連合

1. 実施概要

「グリーントライアスロン」（※1）をスローガンとする環境保全活動の実施

（※1）「グリーントライアスロン」とは、国際トライアスロン連合（ITU）と日本トライアスロン連合（JTU）が共同で取り組む、「トライアスロン」を通じて行う環境活動。主にスタッフ・選手・スポンサー・来場者を対象とし、①リデュース（減らす）、②リユース（再利用）、③リサイクル（再資源化）の3つをテーマとして環境保全活動を大会主催者と連携して実施。

2. 平成24年度事業活動

①グリーントライアスロンin横浜〔2012年8月20日（土）山下公園〕

②グリーントライアスロンin横浜〔2012年9月29日（土）・30日（日）山下公園〕

③グリーントライアスロンinお台場〔2012年11月11日（日）お台場海浜公園〕

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①グリーントライアスロンin横浜〔2012年8月20日（土）山下公園〕

・大会開催１カ月前にスタッフ・スポンサー・一般来場者の協力にて、会場内清掃およびスイムコースの海底清掃を実施。

・付帯イベントとして、山下公園来場者に対し、海の生物紹介や海底中継を実施。トライアスロンを通じた、自然環境の周知につながった。

・海底清掃後、試泳を実施。水質の安全PRにつながった。
②グリーントライアスロンin横浜〔2012年9月29日（土）・30日（日）山下公園〕
・大会EXPO会場にブースを出展し、啓発パネルやのぼりを掲出。
・MCの呼びかけにて「グリーントライアスロン」活動の周知を実施。
・大会ホームページにて公共交通機関の来場を促進。
・グリーングッズ着用によるイベントを実施し、来場者の意識向上につとめた。
③グリーントライアスロンinお台場〔2012年11月11日（日）お台場海浜公園〕
②と同内容を実施

4. 全体的な成果と今後の課題

昨年より継続した「グリーントライアスロン」のフレーズとマークの効果によって、各会場で周知活動ができた。今後、大会開催時に常に実施する環境活動として全国に浸透させていきたい。そのために、ホームページによる事業周知と、全国加盟団体へ啓発ツール提供を実施していく。

5. その他

全国各地で開催されている大会においても、ゴミの分別やコース周辺のゴミ拾いなどを一般的に実施している他、なお大会協賛社の協力を受け、実施している大会や活動が増加している。

2012世界トライアスロンシリーズ横浜大会（9月29日、30日）において、イベントマネジメントの持続可能性に関する国際標準規格（ISO20121）」が国内で初めて認定された。

（公社）日本スカッシュ協会

1. 実施概要

今年度は昨年のキャンペーンを継続して行った。コートを保有するクラブ利用時の心構えなど、すべてのライフスタイルに環境意識を取り込むように促し、生活の基本となるように取り組んだ。

また、全国の地区支部への浸透を深めるために説明を行った。

2. 平成24年度事業活動

●大会開催時に会場に応じたエコキャンペーンの実施（マイカップ・靴袋リユース）
●大会会場にJOC制作の環境啓発ポスターを掲示
●大会表彰式に環境啓発のスピーチを入れる
●協会公式サイトで啓発

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会開催時の実施状況

当協会主催のすべての大会でJOC啓発ポスターを掲示。当協会エコキャンペーンは3年目に入るため、周知されており、さらなる啓発を行った。全国の支部への浸透が十分ではなかっ

たので、支部長に説明を行った。

②エコキャンペーンの具体的内容

ジュニア大会ではドリンクはマイボトル、マイカップを利用する様に給水タンクを用意する。この活動は何年も継続してきているため、すでに定着している。

全日本選手権では会場への公共交通機関の使用を促し、上履き使用のための靴袋は観客が自発的にリユースを行い、スタッフは持参のマグカップやマイボトルでドリンクゴミを減らす努力を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

4年目となるエコキャンペーンは、ジュニア大会では意識が定着し、子供達が率先してキャンペーンへ参加している。大人を対象とした大会でもスタッフを中心にエコ意識の向上が見られている。この意識が選手や観客に波及し、より広がって行く事を期待したい。

当協会主催のすべての大会では上記のように実施しているが、全国の支部ではまだ浸透不足の所がある。すべての支部に再度説明を行った上で、JOCの環境啓発ポスターのデータを送付して4月以降の各支部大会にて協会同様に様々な環境エコ活動を実施していただき、写真を送っていただけるような取り組みを始めている。

今後も当協会⇒支部⇒学連⇒団体会員主催大会の各大会にまで取り組みを広げたい。

（公社）日本ボディビル・フィットネス連盟

1. 実施概要

役員が中心となり全国の公認クラブ、選手、大会観客、関係者等の方々に環境問題の啓発活動を進め、環境保全意識の浸透と高揚を図っている。

2. 平成24年度事業活動

●事務局での書類を電子化
●競技会等における環境美化活動
●大会プログラムへ啓発資料の掲載
●大会会場での広報活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①書類の電子ファイルによりペーパーレス化を図っている

②ボディビル全日本選手権大会をはじめ各ブロック大会、地方大会等年間約50回開催される大会会場でゴミの分別化

③大会プログラムへ啓発資料の掲載

④環境標語横断幕の設置による広報

⑤ポスター掲示等の広報活動

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示、プログラムへの掲載など啓発活動を行った結果、役員、選手、

観客などに徐々に環境問題意識が高くなってきた。
「出来ることからやる」「STOP！　地球温暖化」をスローガンに役員一丸となり環境問題に積極的に取り組む。

(公社)全日本テコンドー協会

1. 実施概要

公益社団法人テコンドー協会では、環境にやさしい大会運営を軸として、環境委員への意識改革を推進し、国内主要大会や、各都道府県でのオープン大会開催時においても、各委員による啓発活動および指導実施を行い、環境問題への取り組みについて広げていく事を目標とした。

2. 平成24年度事業活動

●大会時環境啓発ポスター掲示
●会長挨拶文での環境啓発文挿入
●大会時ゴミの分別回収及び持ち帰り運動の推進
●事務局内での裏紙使用・ペーパーレス化推進
●各都道府県大会時への環境啓発活動
●大会終了後の巡回による清掃確認

3. 具体的な活動実施内容とその成果

各都道府県選手権大会、全日本選手権大会、選考会、オープン大会等においてゴミの分別回収、会場内環境ポスターの掲示、啓発活動を実施した。その結果、ゴミの量も減り、ゴミの持ち帰りも徹底されてきた。

4. 全体的な成果と今後の課題

当協会では、「環境にやさしい大会運営」をテーマに環境問題を考えてきたが、ポスター、パンフレットの配布などの啓発活動の結果、より環境にやさしい大会運営に繋げて行く事ができた。今後の課題としては、積み重ねた経験を活かし主要国内大会同様に、当協会加盟団体等への環境問題の意識を高め、さらに環境活動への啓発を継続し、共同体制への確立を目指していく。

(公社)日本ダンススポーツ連盟

1. 実施概要

2012年1月から12月までに当連盟(JDSF)が公認して開催されたダンススポーツ競技会は323回で、このうち、199回が加盟団体である都道府県連盟等が開催した。これらの大会ではゴミの分別・持ち帰りを啓発するとともに、実践を促した。

2. 平成24年度事業活動

●JDSF及び加盟団体主催の競技会での環境横断幕の掲出
●JDSF事務所会議室への環境啓発ポスター掲示
●競技会等における環境活動
●事務所における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発横断幕の掲示

JDSF主催の競技会のほか、加盟団体である神奈川県ダンススポーツ連盟主催の競技会において、JDSFロゴマークをも配したJOC環境横断幕を掲出し、環境保全の必要性と運動の意義について訴えた。

②事務所会議室への環境啓発ポスターの掲示

来客があった場合等にJOCの環境保全活動について説明し、理解を求めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

大会時のゴミ分別は、多くの会場で実践されるようになり、主催者及び会員の環境保全に対する意識向上が見られた。引き続き、JDSF及び加盟団体の各イベントにおいて、JOCポスターの張り出しや環境横断幕の掲示などを行い、環境保全の重要性を訴えていきたい。一方、化粧落としのために洗面所が荒らされるといった事例に見られるように、一部大会では環境保全活動に逆行する報告もあったので、より具体的な行動提起をしていきたい。

また、事務所や大会開催時での紙使用及びコピー数の削減の必要性をこれまで以上に訴えていきたい。

(一社)日本カバディ協会

1. 実施概要

日本カバディ協会では、平成19年4月に環境委員会を設置以来、引き続きスポーツと環境保全の啓発、実践活動を行っている。これからは、より積極的な活動を全国に展開できるよう、組織を強化していく。

2. 平成24年度事業活動

①大会での環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布
②競技会等における環境活動
③事務局における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会での環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布

当協会が主催した大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会、インドア大会）にて環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布を行った。

②競技会等における環境活動

ゴミの分別、持ち帰りの徹底、冷暖房の電源には触れない等の環境保護の呼びかけを行い、大会プログラムに注意事項を記載した。また、式典でのアナウンスを併せて行った。
お昼時間を設け食事はなるべく食堂を利用するなど、ゴミが出ないようにした。

③事務局における環境活動
ペーパーレス化推進のため、文書データは郵送やFAXでの送受信を避け、Eメールによる連絡事項のやり取りを極力行った。コピー、FAX用紙の両面使用を徹底し、ゴミの削減、資源節約に努めた。また、事務所を出るときは電源を抜くなどのエネルギー、コスト削減も心がけている。

4. 全体的な成果と今後の課題

大会におけるバナーや呼びかけの成果が実り、自主的にごみの分別を行う選手が今まで以上に出てきた。カバディは、ほとんど道具を必要としないエコなスポーツである。

そのようなスポーツだからこそ、今後選手を始め、関係者の環境問題への意識付けをより一層行い、積極的に環境保全に貢献していきたい。また、会議などでも議論を重ね、全国規模で展開していけるよう、より一層の環境保全に努めていきたい。

日本セパタクロー協会

1. 実施概要

日本セパタクロー協会では、環境委員会及び事務局メンバーが中心となり、平成24年度もスポーツと環境保全に関する啓発・実践活動を積極的に推進してきた。

事務局では、チャレンジ25キャンペーンで紹介されている6つのチャレンジ、25のアクションで紹介されている地球温暖化防止につながるアイデアなどを参考にして、極力温室効果ガスの排出量をおさえる努力をし、低炭素化社会づくりの重要性について、大会などを通して会員に啓発する活動を進めてきた。

2. 平成24年度事業活動

●大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
●事務局におけるエコを意識した業務の実践
●大会時の啓発活動及びCo ２削減活動の実践
●環境活動団体への賛同

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①事務局の空調温度管理及び稼働時間の短縮、照明のこまめな消灯
②不使用時のPC電源OFF
③ゴミ分別の細分化及びエコキャップの推進(収集・寄付)
④大会開催時のゴミの分別・持ち帰り、公共交通機関利用の呼びかけ
⑤大会会場でのスポーツと環境保全に関するポスター掲示
⑥エコフラッグムーブメントへの賛同

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示やパンフレットの配布などの啓発活動により、実施前に比べ多くの選手・関係者の意識が変わってきている。

今後もクールビズ、ウォームビズの実践、マイバッグ・マイボトルの使用、公共交通機関の利用など、継続して取り組んでいきたい。

(公社)日本チアリーディング協会

1. 実施概要

公益財団法人日本チアリーディング協会は、地球環境問題の重要性を認識し、スポーツ活動環境保全に関する啓発と実践活動を推進する。

2. 平成24年度事業活動

①大会会場における分別回収の促進
②省エネ・省資源活動の実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会会場における分別回収の促進

大会会場内のダストボックスの分別を徹底し、ビニール袋使用による回収を実施した。

②省エネ・省資源活動の実施

大会会場や控室の照明、空調温度を調整し省エネを実施した。

加盟団体等との各種事務手続きをWEBシステム化し、ペーパーレス、省資源を実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題

スポーツと環境問題の認識が向上した。今後も、競技者をはじめ関係者・関係団体への啓発活動を推進するとともに、計画的な活動を実践し積極的に環境保全に努める。

(2)JOCスポーツ環境専門部会員の活動

Activities of the menber of JOC Sport and Environment Commission

板橋 一太　部会員

スポーツ界は温暖化防止活動の旗振りを続ける

地球温暖化は止まらない

春も過ぎまもなく夏に向かおうという時期に、北海道の旭山動物園で、寒冷前線の影響で気温が零下まで下がり、季節はずれの雪に見舞われた猿たちは天井に吊るされた暖房機の下で身体を寄せ合っている。一方、大型動物のシロクマは震え上がるような寒さの中、いかにも嬉しげにのっしのっしとプールのまわりを行ったり来たりしている。

これはテレビで放映された場面である。いつだったか、夏のことだが、異常な暑さの日で、シロクマが息も絶え絶えに口を開け、ハアハア息を弾ませながらプールの縁にへばりつきくたばっていた姿を見た記憶もある。

異常な豪雪、豪雨、積雪、洪水、旱魃……と近年の異常気象はその全てが人間の活動に起因するものではないにしても、人間の生産活動が生み出すCO_2の増加がその大きな原因の一つであることは否定のしようがなく、動物たちにもなんだか申し訳ない気がする。

国境のない環境問題

先頃、東日本大震災の瓦礫が太平洋を漂い、米国西海岸に漂着して、米国の自治体や住民が沿岸と砂浜で回収を行い日本のNPO団体がそれに協力する姿が報じられた。海流の流れから想定されていたことではあるが、今や環境問題には国境が無くなった感がある。

中国から季節風に乗って日本に運ばれる黄砂は毎年のことだが、最近は呼吸器に深刻な影響を及ぼすというPM2.5の問題が関心を呼んでいる。つい最近、日中韓三か国の環境行政のトップ（日韓は大臣、中国は事務次官）による会議が北九州市で開催され、「大気汚染問題で協力」するという共同声明が出された。中国のPM2.5も主要テーマの一つだったらしい。原因発生国も被害を受けている国も、お互いに非難するのではなく、協力しあって原因の解明と防止策を話し合っていくという姿勢は重要である。

スポーツ選手やスポーツ団体は環境問題について大きな旗振り役を果たしている。各国のスポーツ界が環境問題でも連携協力すれば大きな影響力を発揮できるに違いない。

京都議定書に代わる枠組みは未定だが

地球温暖化対策の枠組みを定めた京都議定書は昨年末の第18回締約国会議（COP18）で延長（第

2約束期間：2013年～ 2017年）されたが、日本はアメリカや中国が参加しない現行議定書の延長に反対し延長を拒否したために、2013年からは国際約束を負わず自主的な削減に取り組むことになっている。日本の他にカナダやロシアも拒否しており、新たな枠組みの決定が急がれている。

新たな枠組みは2014年内に素案を作って2015年のCOPで採択することになっているが、予定のスケジュール通りに進むかどうかは予断を許さない。しかし、その作業の進み具合がどうであろうと地球温暖化は着実に進行している。温暖化防止のための一人ひとりの取り組みを停止して待つわけにはいかない。

スポーツ界から発信しよう

日曜日の早朝、野球のユニフォームを着た子どもたちがビニール袋とごみ挟みを手に練習場のまわりでごみ拾いをしていた。サッカーチームの少年たちがごみ拾いをする光景をみることもある。子どもたちがこのようにして環境問題への意識を強く持つことは心強い。この子たちの活動はまた次の世代に引き継がれていくだろう。

昨年10月に札幌で開かれた「第8回　JOCスポーツと環境・地域セミナー」で札幌市の関係者から子どもの環境体験・活動を競う「かんきょう未来カップ」や「みんなで省エネリレー」など特色のある取り組みの紹介があった。また、日本水泳連盟が水泳を楽しむ子どもを対象に「エコアクション」や「エコグッズ」コンテストなど様々な活動を継続的に展開していることはよく知られている。

大震災以来環境問題への社会的関心が薄くなっているのではないかという指摘もあるが、そのような背景の中でもこのような活動がスポーツ界で熱心に行われていることは心強いことである。

小林 光　部会員

私の本務は、大学や大学院で、環境保全に関する教育を行うこと、そして必要な研究を行うことである。そこで、私の活動報告としては、この本務の活動を通じた環境保全への貢献を紹介し、併せて、公務その他の仕事、さらには家庭での環境保全などの私事における活動にも触れることとする。

（1）慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスでの活動

2012年度は、私にとっての大学教員生活第2年度目であり、大学のいろいろな場面にも慣れてきた。学部学生を対象にしては、主に国内の環境対策を教える「環境政策」、国際社会における政策を教える「地球環境政策」、そして、具体的な環境問題への主体的な取組みの発想を教える「環境対応プラクティス」といった授業を行った。大学院レベルでは、低炭素な社会やビジネスづくりに関する授業や演習を担当した。このほか、学部生を対象としたゼミで、学生それぞれの関心に応じた研究を指導したが、その中には、スポーツと環境を取り上げる学生もいた。ロンドンオリンピック施設の環境対策などがその研究テーマであった。

以上のような定常的な教授業務に加え、2012年度には、新しい大学院レベルでの授業科目の設計を行った。これは、大学院終了後に、国際機関などにおいて環境保全に関する国際ルールを立案できる能力を養うものである。

大学として進める研究の面では、コミュニティベースで再生可能エネルギーを一層活用することを支援する政策に関する調査研究を担当した。

（2）大学外での環境活動

三菱地所などの企業と協力し、企業が進める優れた環境ビジネスに関する事例を調査研究し、「環境でこそ儲ける」という著作（編著）を上梓した。また、水俣市における、環境を軸とした地域再生の動きに参画し、水俣環境大学院構想などの立案に貢献した。このほか、行政官としての政策立案経験を吟味することにより、次世代の環境政策の在り方を提言する論文によって博士の学位を授与された。

（3）家庭における環境活動

昨年度に引き続き、自宅エコハウスにおける環境負荷の経年的な測定、追加的な対策の実施などを行った。CO2ベースでの排出量は、建て替え前比で、約67％削減となった。この成果は随時、雑誌等で公表し、削減ノウハウの普及に努めた。

松岡 修造　部会員

日本テニス協会における啓発活動

「修造チャレンジトップジュニアキャンプ」開催時に、会場内におけるポスターの掲示や横断幕の提示、ゴミの分別など啓発活動を積極的に行った。

●修造チャレンジトップジュニアキャンプ開催概要

日程	対象	会場
2012年6月5日（火）～8日（金）	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された14歳以下の男子ジュニア選手17名	エストーレホテル＆テニスクラブ
2012年9月12日（水）～17日（月）	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された13歳以下の男子ジュニア選手18名及び18歳以下の男子ジュニア選手15名（前半と後半に分けて開催）	12（水）・13（木）　荏原湘南スポーツセンター 14（金）～17（月）　味の素ナショナルトレーニングセンター／有明コロシアム
2013年3月5日（火）～8日（金）	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された14歳以下の男子ジュニア選手19名	味の素ナショナルトレーニングセンター

(3)スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

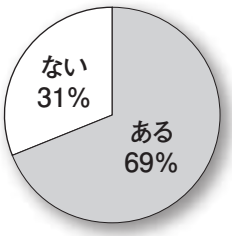
Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

平成24年度JOC加盟団体を対象に9年前から、「スポーツと環境」に関するアンケートを実施。活動の現状や浸透状況を把握しつつ、今後の指針づくりにも役立てている。

その約7割の団体で「スポーツ環境委員会」あるいは「環境保全プロジェクト」が設けられていると解答を得た。

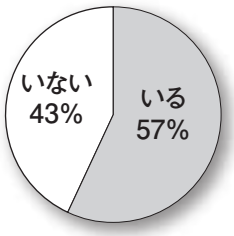
【平成24年度】

1 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等はありますか

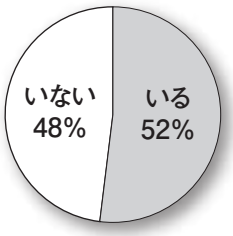


2 貴団体で環境保全啓発のため実施されている活動について

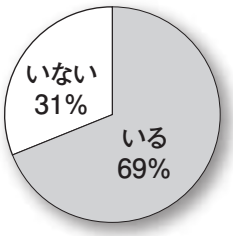
ア 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している



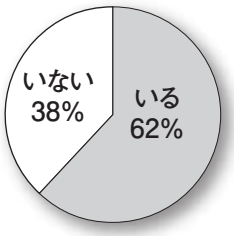
イ 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



ウ トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするようにすすめている

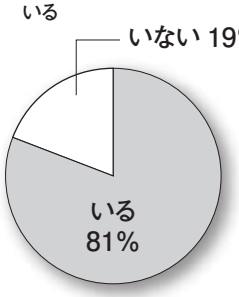


エ 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している

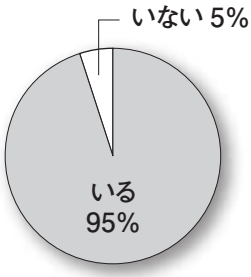


3 競技会における環境保全のため実施されている活動について

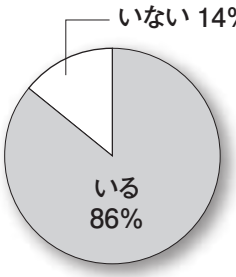
ア 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮している



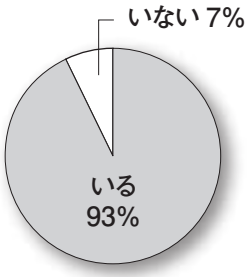
イ ごみの分別を実施している



ウ ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している

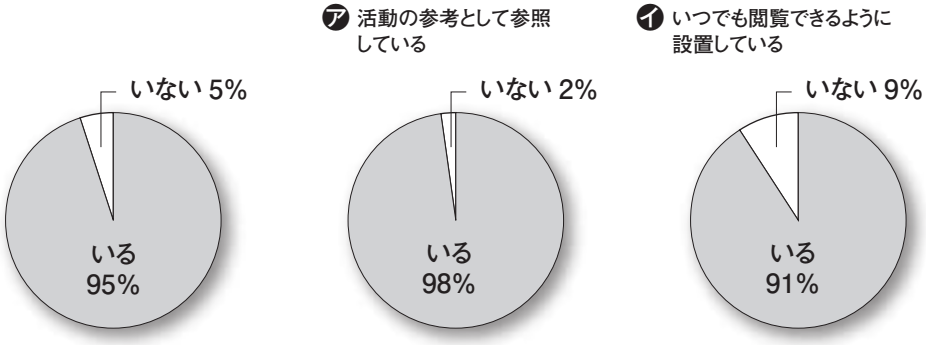


エ 会場設営、運営の際、環境に配慮されるよう働きかけている

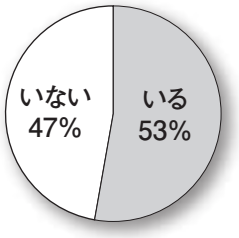


4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

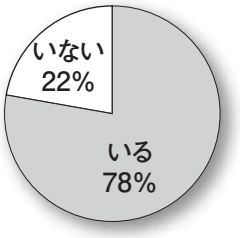
いると答えられた場合：どのように活用していますか



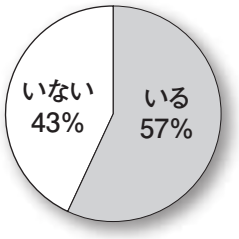
5 機関誌、大会プログラム等に環境保全について掲載していますか



6 事業実施の時に、横断幕、ポスターおよびパンフレットを配布していますか



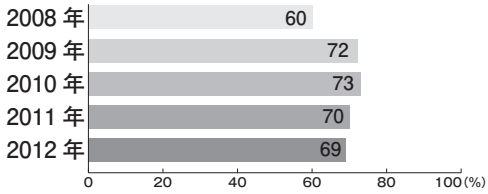
7 会議、大会開催時に環境についてのスピーチを行っていますか



【年次推移】

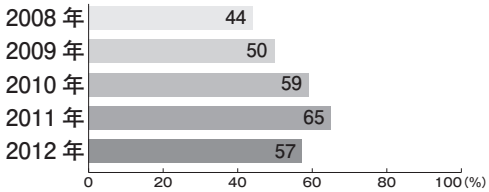
※数値はすべて
「はい」の割合
※過去5年の推移

1 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等はありますか

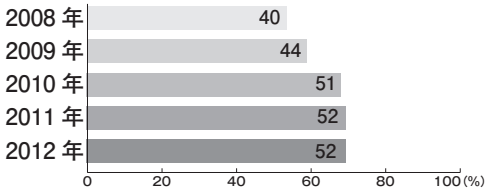


2 貴団体で環境保全啓発のため実施されている活動について

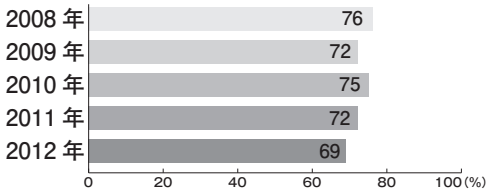
ア. 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している



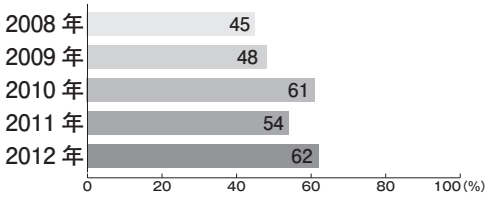
イ. 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



ウ. トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするよう勧めている

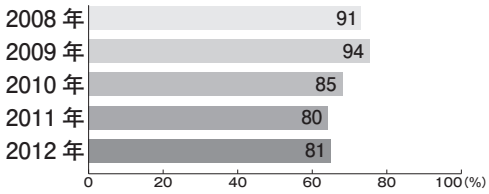


エ. 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している

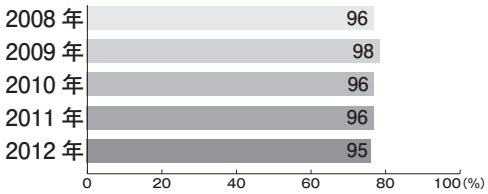


3 競技会における環境保全のため実施されている活動について

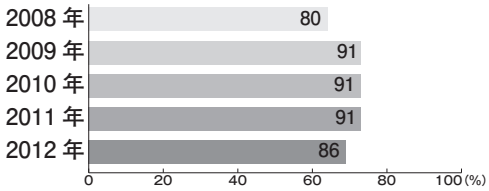
ア. 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮をしている ※2010 年より具体的な活動の説明を求めた



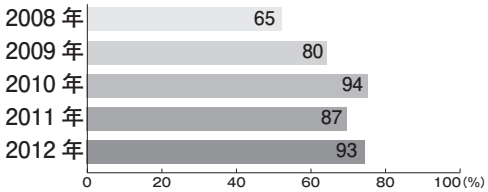
イ. ゴミの分別を実施している



ウ. ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している

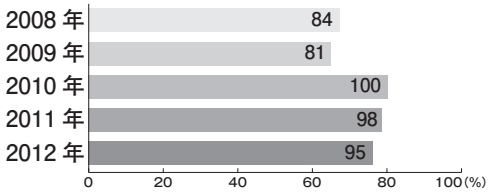


エ. 今後競技会場建設が計画されるときは環境保全に配慮する（2011 年：会場設営、運営の際、環境に配慮されるよう働きかけている）

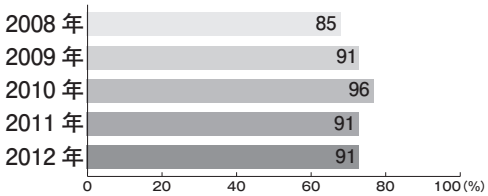


4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

ア. 活動の参考として参照している



イ. いつでも閲覧できるように設置している



(4)スポーツと環境についてのレクチャー原稿

Lecture draft on Sport and Environment

短い一言のご挨拶の機会がある時は次の一言をお願いします。
「私たちスポーツを愛するものは環境保全の大切さを理解し温暖化防止などにエネルギー・資源の節減やゴミの分別などできることから実行しましょう」

スポーツと環境について 5分レクチャー原稿

5分のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1．スポーツと環境についての理解

(1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人

①スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかもしれませんがそれは幻想です。

②人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

(2) 私たちの宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

①地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行くことは不可能なのです。

②ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。

③よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うための環境保全を実行する必要があります。

(3) Think globally, Act locally（地球規模で考え、身の回りのできることを実行する）

①環境保全を推進するにあたり大切なことはまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、またその原因がどこにあるかをしっかり知ることです。

②そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単なことです。

2．協力依頼

(1) まず、環境でどのような問題があるかを理解しましょう

①地球規模で温暖化が進み、それが原因で気候が大きく変動し、私たちの環境が破壊されています。

②農業、漁業、多くの産業が気候変動によって大きな打撃を受けています。

③生態系の根本である食物連鎖が途切れて絶滅種が多くなりつつあります。

(2) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

①エネルギー資源を節減する為に3R（Reduce、Reuse、Recycle）の実行。

a. 削減（Reduce）。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。（例：電気や紙の削減）

b. 再使用（Reuse）。同じ物をできるだけ多い回数使うように工夫することです。例えばサイズの問題で着ることができなくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。

c. リサイクル（Recycle）。使えなくなった物を上手に分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。（例：ペットボトル→繊維）

②夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減。

a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をすることで暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)

b. 夏はできるだけ涼しい服装をし、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げることができます。(クール・ビズ)

③ゴミは分別してリサイクルをしやすいように工夫する。

a. 『混ぜればゴミ、分ければ資源』の言葉通り、廃棄物を分別することで資源として再利用やリサイクルが可能になります。

b. 日常生活やスポーツ活動の中でも分別を心がけましょう。

④温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用(二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用)をする樹木を増やす手伝いをしましょう。

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行しましょう。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進することが大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について 15分レクチャー原稿

15分のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私たちは全員地球人です(宇宙船地球号の乗組員)

①46億年前に地球は形成されました。

②300万年前に人類が地上に出現しました。

③1万年前に大家族制による農業革命が起こりました。

④20世紀は人類の転換期(文明の急速発達)でした。

⑤便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費することによって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染が進んでいます。

⑥環境問題を列記してみましょう。

a. 地球温暖化

b. オゾン層破壊

c. 酸性雨

d. 野生生物種の減少

e. 森林の減少

f. 地球規模の砂漠化

g. 海洋汚染

h. 有害廃棄物の越境移動

i. 大気汚染

2. スポーツと環境についての理解

(1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人

①スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかもしれませんがそれは幻想です。

②人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

(2) 私たちの宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

①地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行くことは不可能なのです。

②ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。

③よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うための環境保全を実行する必要があります。

(3) Think globally, Act locally（地球規模で考え、身の回りのできることを実行する）

①環境保全を推進するにあたり大切なことはまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、またその原因がどこにあるかをしっかり知ることです。

②そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単なことです。

3. スポーツと環境活動の経緯を見てみましょう

①1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林。

②1976年デンバーオリンピック大会開催返上（経済・環境問題）。

③1990年まで IOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。

④1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）。

⑤1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名。

⑥1994年IOC100周年パリ・コングレスでスポーツと環境分科会開催。

⑦1995年IOCにスポーツと環境委員会設置。

⑧1995年第1回IOCスポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催。

⑨1997年第2回IOCスポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催。

⑩1999年第3回IOCスポーツと環境世界会議（ブラジル・リオディジャネイロ）でOlympic Movement's Agenda 21（オリンピック運動の環境保全規約書）を採択、IOCで承認された。

⑪2001年4月JOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始。

⑫2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催。
“Give The Planet A Sporting Chance”Olympic Movement's Agenda 21の実践。

⑬2003年第5回 IOCスポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催。
スポーツ関係者（選手、役員、IOC、IF、NOC、NF、OCOG、地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など）が有機的に連繋を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された。

⑭2005年第6回IOCスポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催。

⑮2007年第7回IOCスポーツと環境世界会議を中国・北京で開催。

⑯IOCジャック・ロゲ会長がIOCのスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画

から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた。

⑰IPCC（気候変動に関する国際パネル）の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞。

⑱IOCはUNEPが進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明。

4. 協力依頼

(1) まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べてみましょう

(2)「持続可能な開発」と「持続可能性」

①『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスを丁度いい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な社会の開発をしようというものです。

②『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ社会のどのような要素にもどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3) 循環型社会の形成

①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。

②例えば、食品の生ゴミをある一定期間（約25日）酵素処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環していることになります。

③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。

④これを繰り返すことにより新しい資源の節減が図られるのです。

(4) ゼロ・エミッション

①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。

②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物を分別回収すれば、それらはまた資源となるのです。

③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。

④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です。

(5) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

①エネルギー資源を節減する為に3R（Reduce、Reuse、Recycle）の実行。

a. 削減（Reduce）。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。（例：電気や紙の削減）

b. 再使用（Reuse）。同じ物をできるだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着ることができなくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。

c. リサイクル（Recycle）。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。（例：ペットボトル→繊維）

(6) 夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減

a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をすることで暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)
b. 夏はできるだけ涼しい服装をし、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げることができます。(クール・ビズ)

(7) 温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用（二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用）をする樹木を増やす手伝いをしましょう

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進することが大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について　30分レクチャー原稿

30分のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1．私たちは全員地球人です（宇宙船地球号の乗組員）

①46億年前に地球は形成されました。
②300万年前に人類が地上に出現しました。
③1万年前に大家族制による農業革命が起こりました。
④20世紀は人類の転換期（文明の急速発達）でした。
⑤便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費することによって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染が進んでいます。

2．環境問題を列記し問題とその影響を見てみましょう

Ⅰ．地球温暖化

二酸化炭素などの「温暖化ガス」が増加することによって地球の平均気温が上昇
①海面水位上昇による土地の喪失
②豪雨や干ばつなどの異常気象の増加
③生態系への影響や砂漠化の進行
④農業生産や水資源への影響
⑤マラリアなど熱帯性の感染症発生数の増加

Ⅱ．大気汚染と酸性雨

化石燃料の燃焼などにより生じる硫黄酸化物や窒素酸化物などが大気中で酸性の化合物となり、雨などに取り込まれ地上に降る現象

①森林の衰退
②湖沼や河川などの酸性化とそれによる生態系への影響
③歴史的な遺跡や建造物などへの影響

Ⅲ. オゾン層の破壊

「CFC」などの人工化学物質が地球を取り巻く「成層圏」に存在しているオゾン層を破壊すること
①皮膚がんや白内障の増加
②疫抑制などによる人の健康への影響
③動植物の生育阻害など生態系への影響
④大気汚染などの影響

Ⅳ. 野生生物の減少

森林（熱帯林）の破壊、海洋汚染、砂漠化、地球温暖化、酸性雨によって野生の動植物が減少し種の絶滅問題
①遺伝子資源の減少
②観光・レクリエーション資源の減少
③生態系の破壊
④食物連鎖の破壊

Ⅴ. 森林の減少

焼畑耕作や放牧地・農地への転換、過度の薪炭材採取、不適切な商業伐採などによる熱帯雨林、ロシア、カナダの北方針葉樹林の減少問題
①そこに生息する野生生物種の減少
②土壌(表土)の流失
③森林に蓄積された炭素がCO_2となって放出されることによる温暖化の進行
④水源の涵養機能や熱循環、海と陸との相互作用機能の低下

Ⅵ. 地球規模の砂漠化

干ばつなどの気候的要因のほかに、放牧地の再生能力を超えた家畜の放牧や薪炭材の過剰採取などによる砂漠化
①食糧生産基盤の悪化
②生物多様性の喪失
③貧困の加速
④気候変動への影響
⑤都市への人口の集中
⑥難民の増加

Ⅶ. 海洋汚染

タンカー事故や海洋への汚染物質の投棄、河川などを通じた陸起源の汚染物質の流入、沿岸の開発など様々な人為的要因により進行

①生態系の破壊

②漁業資源や観光資源の喪失

③有害物質汚染による海洋生物への影響と海洋生物経由の人体への影響

Ⅷ. 有害廃棄物の越境移動

海洋に投棄されたり、沿岸から流出する汚染物質や工業廃棄ガスなどが海や大気の流れにより世界中に広がる問題

3. スポーツと環境についての理解

(1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人

①スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかもしれませんがそれは幻想です。

②人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

(2) 私たちの宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

①地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行くことは不可能なのです。

②ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。

③よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うための環境保全を実行する必要があります。

(3) Think globally, Act locally（地球規模で考え、身の回りのできることを実行する）

①環境保全を推進するにあたり大切なことはまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、またその原因がどこにあるかをしっかり知ることです。

②そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単なことです。

4. スポーツと環境活動の簡単な経緯を見てみましょう

①1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林。

②1976年デンバーオリンピック大会開催返上（経済・環境問題）。

③1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。

④1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）。

⑤1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名。

⑥1994年IOC100周年パリ・コングレスでスポーツと環境分科会開催。

⑦1995年IOCにスポーツと環境委員会設置。

⑧1995年第1回IOCスポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催。

⑨1997年第2回IOCスポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催。
⑩1999年第3回IOCスポーツと環境世界会議（ブラジル・リオディジャネイロ）でOlympic Movement's Agenda 21（オリンピック運動の環境保全規約書）を採択、IOCで承認された。
⑪2001年4月JOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始。
⑫2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催。
“Give The Planet A Sporting Chance”Olympic Movement's Agenda 21の実践。
⑬2003年第5回IOCスポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催。
スポーツ関係者（選手、役員、IOC、IF、NOC、NF、OCOG、地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など）が有機的に連繋を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された。
⑭2005年第6回IOCスポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催。
⑮2007年第7回IOCスポーツと環境世界会議を中国・北京で開催。
⑯IOCジャック・ロゲ会長がIOCのスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた。
⑰IPCC（気候変動に関する国際パネル）の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞。
⑱IOCはUNEPが進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明。

5. 協力依頼

(1) まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べてみましょう

(2)「持続可能な開発」と「持続可能性」

①『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスを丁度いい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な社会の開発をしようというものです。
②『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ社会のどのような要素にもどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3) 循環型社会の形成

①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。
②例えば、食品の生ゴミをある一定期間（約25日）酵素処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環していることになります。
③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。
④これを繰り返すことにより新しい資源の節減が図られるのです。

(4) ゼロ・エミッション

①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。
②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物を分別回収すれば、それらはまた資源となるのです。
③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としてい

ましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。

④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です。

(5) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

①エネルギー資源を節減する為に3R(Reduce、Reuse、Recycle)の実行。

a. 削減(Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例:電気や紙の削減)

b. 再使用(Reuse)。同じモノをできるだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着ることができなくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。

c. リサイクル(Recycle)。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例:ペットボトル→繊維)

(6) エネルギーを節減する工夫、夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫をして冷暖房の負荷を下げる

①冬には暖かい下着を着用し、またもう一枚重ね着をすることで暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)

②夏はできるだけ涼しい服装をし、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げることができます。(クール・ビズ)

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください

6. スポーツと環境に関与する要素には次のようなものがあります

(1) 会場立地

①スポーツ施設の立地について、まわりの空気や水が基準以上でなければ選手・コーチの健康を損なう可能性がある。

②施設建設が自然を大きく破壊することがないように配慮する。

③特に冬のスポーツ施設の立地が天然記念物の生息地に掛からないように配慮する。

(2) 施設

①施設建設に当たっては自然との調和を図るよう最善を尽くすこと。

②空調のエネルギー節減のため天窓を上手く配置し、冬は温室効果で暖かく、夏は窓を開放することで暑い空気を天窓から出すことで涼しさを保つ工夫をする。

③アイスアリーナなどはアンモニアの直接製氷法から間接にし、アンモニアの漏れでの環境破壊や選手の競技環境を損なわないように努める。

(3) 運営

①スポーツ大会、競技会、スポーツ教室などの運営に当たっては、資源・エネルギーの節減に努める。特にコピーは両面を使い、できればパソコンなどのディスプレイ画面で仕事の処理ができるように努める。

②運営全体での資源・エネルギーの消費量を数値化し計測し、削減に努めるとともに次回にはより削減できるよう工夫をする。

(4) 役員

①競技・運営役員はスポーツ環境保全の重要性を認識し、スポーツ界全体の環境保全が実践

されるよう啓発活動を行う。

②役員は身の周りのできる環境保全活動を率先垂範で実践する。

(5) 選手・コーチ

①選手・コーチは清潔でクリーンな競技環境で競技や訓練が実施できるよう最善を尽くす。

②選手（特にトップ選手）は衆目を集めるので、環境保全に対しての理解を深め啓発活動の一環としてチャンスがあるごとに環境保全の大切さをアピールする。

(6) オフィスワーク

①スポーツにかかわるオフィスはスポーツ環境の概念をよく理解してオフィスワークに活用する。

②資源・エネルギーの削減、またグリーン購入法に基づいて物品購入を行う。

(7) 観客

①スポーツ競技会の観客にはポスターやパンフレットでスポーツ環境の意義の理解を深める啓発活動を行う。

②ゴミの持ち帰り運動を推進し、会場清掃量を削減する。また各々の観客が持ち帰ったゴミは分別してリサイクルに回されるのが望ましい。

(8) 用具

①スポーツ品メーカーは環境に配慮した製品を企画製造する。

②完全リサイクルができる「ナイロン6」素材のもの。

③準完全リサイクルは元の原材料には戻らないが形を変えて製品化できるもの。

④リサイクル素材の活用。回収ペットボトルから作られた繊維を利用した製品。（混紡をするゆえ品質機能には全く問題はない）

⑤製造技術を改善し省資源・省エネでスポーツ品を製造する。

⑥有害物質は全く使わない。（塩化ビニール・フロンなど）

(9) メディア

①スポーツを報道するメディアにもスポーツ環境の大切さに対する理解を促進し協力を依頼する。

②メディア活動においても省資源・省エネを促進する。

7. 低炭素社会（ローカーボン・ソサエティ）の構築

地球温暖化が気候変動を顕在化させる中、2007年にIPCC（気候変動に関する国際パネル）と温暖化を明快に解説し警鐘を鳴らす映画「不都合な真実」を制作したアル・ゴア米前副大統領にノーベル平和賞が授与された。

高度文明で排出される二酸化炭素ガスやCO_2の23倍の温室効果があるメタンガスなどが温室効果ガスとして温暖化を引き起こしている。

二酸化炭素ガスを吸収し酸素を放出する炭酸同化作用（光合成）を用いて炭酸ガスを減少させ酸素を多くするため植樹を促進しつつある。

各種活動で排出される温暖化ガスを植樹することで相殺することをカーボンオフセットと言い、その植樹の費用を対価として支払うことも可能とされる。

エネルギーと資源の削減などと植樹で大気中の温暖化ガスを減少させることで低炭素社会の構築を目指すことが求められている。その結果として地球温暖化の進行を遅くし、地球の持続可能性を向上できると考えられている。

8. スポーツ環境の活動に必要な要素を列記しました。この活動にゴールはありません。啓発や実践を地道に継続的に進める忍耐力が必要です。

①気の長さ
②忍耐力
③継続力
④適正なペース
⑤実効性
⑥リーダーシップ

9. 関係者のパートナーシップと環境保全道具箱の理解と実践

スポーツ界で環境保全活動を進めるために二つの有効な提言がなされています。

(1) 関係者のパートナーシップ

スポーツ界ではオリンピック大会運営からグラスルーツのスポーツ活動に至るまでスポーツの現場で活動にかかわる関係者（Stakeholders）が環境保全に対して明確な方針の下、協力する所謂パートナーシップが求められています。例えばオリンピック大会を考えると、関係者はIOC、NOCs、IFs（国際スポーツ競技連盟）、NFs（国内競技連盟）、競技者、役員、組織委員会、政府、地方自治体、観客、メディア、スポンサー、公式サプライヤー、運送業者、施設建設業者、施設管理者などで、これら関係者が組織委員会の環境方針を理解してパートナーシップによる協働体制で保全活動を実践することが大切です。

(2)「持続可能なスポーツとイベントの道具箱」

バンクーバー組織委員会とスイスのAISTSがSSET（Sustainable Sports and Event Toolkit）「持続可能なスポーツとイベントの道具箱」を考案しました。これはイベントなどで包括的に対策を実践できるように必要な要素を網羅しています。それらは1. 持続性への信念と戦略立案　2. 遣り繰り・管理　3. 会場立地と建設手法　4. 会場とオフィスの管理　5. 地域社会と商流　6. 輸送と宿泊　7. 食堂、食事・飲物　8. マーケティングとコミュニケーションの８つです。スポーツの現場、イベントの現場でこの要素を一つずつ検証して明確な考えを入れ込んで有効な活動にすることが大切なのです。

10. スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進することが大切です。できればスポーツマンが社会の中で模範的環境保全のリーダーとなるように願っています。

5 IOCスポーツと環境委員会について

IOC Sport and Environment Commission

「地球的に考え、自らの出来る範囲で実行しましょう」

「スポーツ」「文化」に次いで「環境保全」はオリンピック運動の3本目の柱であるとサマランチ前会長は」1990年代初頭に明言されIOCにスポーツと環境委員会が編成されて18年になります。環境保全に対する啓発・実践活動をスポーツ界、特にオリンピック大会をその模範として進め、社会で発信力の あるオリンピッアン、アスリートに強力なメッセージを伝えて貰おうと活動を進めてきました。

冬季大会は大自然の中で開催されることから、自然保護が中心になりますが、夏季大会は都市で開催されるので都市型の環境保全対策が中心になります。そして時と共にオリンピック大会における様々で効果的な各種活動も進化しつつあります。又世界のNOCが各々にユニークな保全活動を進めています。

10年以上に亘り、JOCと加盟競技団体が結束し連携を取り合い各種活動は定着すると同時に進化しつつあります。各競技団体は各々の日本選手権大会を始め地方大会、そしてグラスルーツに至るまで地道で継続的な活動を推進して頂いている事に心より敬意を憶え感謝を申しあげます。そして日本水泳連盟は2011年にその卓越した活動が評価されIOCスポーツ環境賞を受賞しました。また、時と共に環境保全という表現も持続可能性を追求するという表現に変化しつつあります。

しかし、私達の進化よりも速く変化をしているのが気候変動なのです。

テレビニュースや新聞報道で良く見るのが、記録的豪雨や豪雪、竜巻、突風そして異常な気温など環境汚染に起因すると思われる気候変動を日常的に体感する事が多くなりつつあります。

近くのビルが霞むほどのスモッグの中で走る事はできません。汚れた水の中で泳ぐ事も出来ません。スポーツ界だけでこの地球規模の変動を改善することは出来ない事は明らかです。でも地球に住むものとしてスポーツ界もこの持続可能性を高める努力を進める義務があるのです。

私たちは爽やかな未来を見据えて環境問題を良く理解して、この活動を「他人事」ではなく「自分の事」として自らができることを実行しましょう。

日本オリンピック委員会　副会長
IOC スポーツと環境委員会　委員
東京オリンピック・パラリンピック招致委員会　副理事長／専務理事
水野正人

6 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた環境活動

Environmental Activity for TOKYO 2020 Olympic/Paralympic Games

◇環境理念「環境を優先する2020年東京大会」

オリンピックには、競技自体のすばらしさに加えて、環境学習及び環境意識に影響を与える偉大な力、他に比べるもののない発信力がある。世界最大規模かつ先進的な都市の一つである東京の中心でオリンピックを開催することは、総合的な環境政策を示し、いかにして都市・人間・環境保護の必要性を密接に協調させるかの典型的な実施例を示すことになる。

2020年東京大会における環境への取組は、アスリートや大会関係者のみならず、観客、テレビ視聴者、メディア、地域など世界中のあらゆる人々の参加を促す。地域を取り込んだ環境に関わる活動・展示会等を実施、普及させる。

◇環境ガイドラインの基本的な考え方（3つの柱）

柱1：環境負荷の最小化

環境ガイドラインの柱には、カーボンニュートラルな大会を実現するため、再生可能エネルギー、公共交通機関、低エネルギー車両の活用、廃棄物の再生利用の考え方などを据え、エネルギー・資源の消費や二酸化炭素の排出を縮小する。

柱2：自然と共生する都市環境計画

2020年東京大会は、都市の緑化を促進させる契機にもなり、自然環境と共生する快適な都市環境をより楽しめるようになる。

会場設計・施設は、エネルギー・資源・水の保全の観点から持続可能なデザインとする。2020年東京大会の会場及びその周辺は、東京臨海部を中心に緑地と緑の回廊で東京の中心部と結ばれ、そこに息づく多様な生物に特別に配慮する。

柱3：スポーツを通じた持続可能な社会づくり

2020年東京大会は、スポーツを通じて地球環境・地域環境の大切さを発信する大会である。

良好な環境は、優れたパフォーマンスを引き出す必要条件である。

一方、スポーツの与える喜び・感動や、模範となるモデルや優れた手本による影響力は、人を具体的な行動へと駆り立てる力を持つ。

したがって、スポーツを通じた持続可能な社会づくりも、2020年東京大会の柱であり、強力かつ重要な指針として、教育・参加・協調などの様々なアプローチにより推進していく。

上記の基本的な考え方（3つの柱）に基づき、環境ガイドラインにおける、オリンピック競技大会前・期間中・終了後の環境に対する影響を防止及び削減するための対策を以下に述べる。

◇持続可能な会場設計及び建設

2020年東京大会の37競技会場のうち、15会場が既存施設である。また、28会場を選手村から8km圏内に配置することで、公共交通機関の最大限の利用を通じて移動による環境負荷を最小化するとともに、大会の効率的な運営にも寄与する。

競技会場は、厳しいグリーン・ビルディングの基準や環境ガイドラインに従って建設・改修される。新設の競技会場は、市街地内の未利用地等に建設するため、地域社会や自然・文化資源に悪影響を及ぼすことはない。

東京都は、「2020年の東京」に位置づけられている「建築物環境計画書制度」により、民間事業者が大規模開発を行う場合、現在の標準的な建物より35%エネルギー使用を削減するよう誘導している。

2020年東京大会の関連会場の建設に当たっては、この取組を実現する。

◇環境負荷の少ない輸送

2020年東京大会は、世界で最も発達し効率の良い東京の公共交通機関を最大限活用することで、二酸化炭素の排出量を抑制し、大気汚染への影響をより引き下げるなど、環境対策に大きな効果が得られる。

観戦チケット保有者が、公共交通機関を無料で利用できるようにするとともに、競技会場について公共交通機関でアクセスしやすいようにコンパクトに配置することで、観客が100%公共交通機関・徒歩で会場等に移動することを実現する。

また、大会関係車両は、全て、電気自動車、燃料電池自動車やハイブリッド車などの低公害かつ低燃費な自動車を使用する。

◇廃棄物から資源へ

2020年東京大会は、徹底的に廃棄物を無くす大会である。総合的に廃棄物を管理する戦略は、廃棄物の発生を最大限抑制（リデュース）した上で、再使用（リユース）の徹底や、再利用（リサイクル）の促進（最も効率的に再利用できる廃棄物処理の仕組みづくり）を行い、やむを得ず残った廃棄物も可能な限りエネルギーへの活用(バイオガス等)などを行なう。

その実施に当たり、大会組織委員会は、包装や使い捨て容器利用の削減などについて、スポンサー・ライセンシー・サプライヤー・場内売場などと連携する。

「もったいない」の精神を世界に普及させる5R【発生抑制（Reduce)、再使用（Reuse)、再利用（Recycle)、エネルギー回収（Recover Energy)、都市の自然環境の再生（Restore the UrbanNature)】モデルを採用し、次世代を中心とした地域社会へのレガシーとして啓発し、意識の向上を図る。日本中の関係機関と協力し、この大会で得られる循環型社会の取組を、オリンピックレガシー委員会による監督のもと、大会開催後もレガシーとして活かしていく。

- **発生抑制（Reduce）**
  既存会場の最大限の活用、新設会場の建設や大会運営における環境負荷の抑制、会場での使い捨て用品の使用抑制 等
- **再使用（Reuse）**
  既存施設の継続利用、新設施設の長寿命化、会場・施設でリユース食器利用、仮設建築・資材の再利用徹底等
- **再利用（Recycle）**
  各会場共通の標識や案内といった分別の分かりやすい表示、リサイクル品やリサイクル材を利用した製品と最小限の包装といったグリーン購入・調達等
- **エネルギーを回収（Recover Energy）**
  清掃工場の排熱利用や食品廃棄物からのバイオガス等エネルギーを回収、様々なリサイクル・再生施設を擁する「スーパーエコタウン事業」（既に運営中）等
- **都市の自然環境の再生（Restore the Urban Nature）**
  都市における緑地の創出、植栽プログラムの実施等

◇戦略的な会場計画

戦略的な会場計画として、既存施設の最大限の利用や輸送に係るカーボン排出を大幅に削減するコンパクトな配置計画を行うとともに、同様に効果的である世界有数の公共交通網の活用などによるカーボン排出の削減を行う。

◇低エネルギー・低カーボンの大会施設・会場

大会施設・会場の建設・運営に際しては、自然採光･通風などのパッシブ利用による低エネルギー化や、海水を利用したヒートポンプなど最高水準の省エネルギー技術導入等により、CO2を抑制する。

特に、選手村については、日本の気候に応じた伝統的な建築技術と最先端の環境設備とを融合した環境負荷の少ないまちづくりを体現する一つのモデルとなることを目指している。日本の伝統的な建築材料である木材を多用し、自然の光や風を取り入れるパッシブデザインの居住空間は、エネルギーを最小限に抑え、快適な環境を提供する。

◇再生可能エネルギーの積極的な導入・利用

大会施設・会場において、再生可能エネルギー（太陽光発電･太陽熱利用機器　等)の導入･利用とともに、グリーン電力・熱証書の活用により、グリーンエネルギーを100％使用する。

◇低公害・低燃費車

競技運営の輸送では、電気自動車・燃料電池自動車やハイブリッド車などの低公害かつ低燃費な車両を使用する。

◇CO2削減キャンペーン

環境ガイドラインの一部として、また「2020年の東京」と整合して、都民・企業との連携・協働による独自のCO2削減のムーブメントを強化し、低炭素社会への移行を継続的に促進させる。

7 関連資料

References

(1)JOCスポーツ環境活動者一覧

Member of Sport and Environment Commission

JOCスポーツ環境専門部会

JOC Sport and Environment Commission

平成 25 年 3 月現在

役職名	氏　名	所属
部 会 長 Chairman	佐　藤　征　夫 Yukio SATO	公益財団法人　日本オリンピック委員会（理事） Japanese Olympic Committee（Executive Board）
副部会長 Vice-Chairman	佐　野　和　夫 Kazuo SANO	公益財団法人　日本水泳連盟 Japan Swimming Federaion
部 会 員 Member	板　橋　一　太 Ichita ITABASHI	一般財団法人 日本スポーツ仲裁機構 The Japan Sports Arbitration Agency
〃	岡　田　武　史 Takeshi OKADA	公益財団法人　日本サッカー協会 Japan Football Association
〃	風　間　　明 Akira kazama	公益財団法人　日本陸上競技連盟 Japan Association of Athletics Federations
〃	鎌　賀　秀　夫 Hideo KAMAGA	公益財団法人　日本レスリング協会 Japan Wrestling Federation
〃	小　林　　光 Hikaru KOBAYASHI	慶應義塾大学 Keio University
〃	谷　　雅　雄 Masao TANI	財団法人　全日本スキー連盟 Ski Association of Japan
〃	中　村　淳　子 Junko NAKAMURA	公益財団法人　全日本柔道連盟 All Japan Judo Federation
〃	橋　口　陽　一 Yoichi HASHIGUCHI	公益財団法人　日本バレーボール協会 Japan Volleyball Association
〃	平　松　純　子 Junko HIRAMATSU	公益財団法人　日本スケート連盟 Japan Skating Federation
〃	松　岡　修　造 Shuzo MATSUOKA	公益財団法人　日本テニス協会 Japan Tennis Association
アドバイザー Adviser	水　野　正　人 Masato MIZUNO	公益財団法人　日本オリンピック委員会（副会長）／IOC スポーツと環境委員会委員 Japanese Olympic Committee（Vice President）／ IOC Sport and Environment Commission, Member

本会加盟団体スポーツ環境担当一覧

National Federation

平成24年度JOCスポーツ環境活動　加盟団体スポーツ環境担当者

平成 25 年 3 月現在

競技団体	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
（公財）日本陸上競技連盟	JAAF グリーンプロジェクト 委員長／小松 邦江	副委員長／橘川 眞佐志、戸松 哲男、中村 要一 委　員／永野 良一、大西 清司、日隈 広至、奥 裕之、宮永 正俊、阿座上 泰宏、川嶋 史章、高村 佐太郎、櫻井 治男、上野 祐紀子、幸地 美由紀、井上 有美、星野 敦志、小林 晃	風間 明
（公財）日本水泳連盟	スポーツ環境委員会 委員長／佐野 和夫	副委員長／ー 委　員／泉 正文、岩崎 恭子、末弘 昭人、山口 善久、齋藤 由紀、鷲見 全弘、岡田 奉代、草分 容子、長谷川 雪惠、有久 暢、丸笹 公一郎、原田 早穂、林 正洋、小川 知伸	小川 知伸
（公財）日本サッカー協会	環境プロジェクト 委員長／中西 哲生（リーダー）	副委員長／ー 委　員／室石 康弘、濱口 博行、中村 典宏、星野 公平、首藤 久雄、安達 健、島田 信男、青木 克史、玉利 聡一、根本 敦史、藤ノ木 惠	玉利 聡一
（財）全日本スキー連盟	スポーツ環境委員会 委員長／谷 雅雄	副委員長／ー 委　員／吉田 英一、冨田 政利、林 辰男、山田 隆、古川 年正、齋藤 二郎、瀬尾 洋、佐藤 昭	宮沢 賢一
（公財）日本テニス協会	スポーツ環境委員会 委員長／ー	副委員長／吉田 友佳、堀川 忠史 委　員／松岡 修造、藤田 和彦、宗 中正、秋山 英宏、千葉 素久、粟野 佐登代、長塚 京子、藤代 春香、鍋谷 尚映、長澤 真紀、岩見 亮	関口 久美
（公社）日本ボート協会	安全・環境委員会 委員長／竹内 浩	副委員長／ー 委　員／小沢 哲史（アドバイザー）、栗林 健太郎、興梠 裕一（スタッフ）	苅谷 裕子
（社）日本ホッケー協会	総務委員会　環境部会 委員長／寺田 一夫	副委員長／ー 委　員／西竹 武士	西竹 武士
（社）日本アマチュアボクシング連盟	環境委員会 委員長／山根 明	副委員長／吉森 照夫 委　員／山本 浩二、内海 祥子	内海 祥子
（公財）日本バレーボール協会	環境委員会 委員長／橋口 陽一	副委員長／浅草 和敏 委　員／上杉 忠、松浦 信一、川合 庶、福田 順一	橋口 陽一
（財）日本体操協会	総務委員会 委員長／遠藤 幸一	副委員長／ー 委　員／ー	八木沢 則子
（公財）日本バスケットボール協会	環境委員会 委員長／堀井 幹也	副委員長／庄司 義明 委　員／吉田 長寿	長谷川 洸世
（公財）日本スケート連盟	スポーツ環境委員会 委員長／鈴木 民生	副委員長／新田 俊彦 委　員／平松 純子、杉田 吉弘、高橋 健也、米村 省一、山﨑 弘雄、加藤 真弓、新山 奈緒子	森村 直樹
（公財）日本アイスホッケー連盟	環境委員会 委員長／木野内 毅	副委員長／木本 弘三 委　員／黒津 昌風、高橋 健也、名執 一雄、谷田 順一	建部 彰弘
（財）日本レスリング協会	スポーツ環境委員会 委員長／鎌賀 秀夫	副委員長／ー 委　員／木名瀬 重夫、真田 栄作、本田原 明、白井 正良、吉澤 昌、関 貴史	鎌賀 秀夫
（公財）日本セーリング連盟	環境委員会 委員長／永井 真美	副委員長／長嶋 匡之 委　員／ー	前田 彰一 石津 基行
（一社）日本ウエイトリフティング協会	スポーツ環境委員会 委員長／守 昌宏	副委員長／加納 修 委　員／後藤 節哉、篠 弘明、多小田 一紀、小田 敏郎	守 昌宏

競技団体	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
（財）日本ハンドボール協会	環境委員会 委員長／伊藤 宏幸	副委員長／兼子 真 委　員／家永 昌樹、羽田 裕一、村上 隆	兼子 真
（財）日本自転車競技連盟	競技運営委員会　環境部会 委員長／松倉 信裕	副委員長／飯田 太文 委　員／奥田 悦司、佐々木 正人、中村 雅章	白崎 孝紀
（公財）日本ソフトテニス連盟	環境・教育プロジェクト 委員長／井上 清一	副委員長／柳下 秋久 委　員／斉藤 元三、神崎 公宏、大川 京子、川島 登、安藤正美、松谷 茂、内田 斎、野際 照章、本田 茂雄、金岡 昭房、林 研一	玉木 進
（公財）日本卓球協会	環境委員会 委員長／鈴木 一雄	副委員長／佐々木 賢治 委　員／宮本 勝典、五十嵐 久美子、坂部 忠彦、佐藤佐知典	渡邉 紗知子
（公財）全日本軟式野球連盟	環境担当委員会 委員長／渡部 弘道	副委員長／又吉 民人 委　員／岡野 泰弘、宗像 豊巳	清野 祐
（財）日本相撲連盟	総務委員会 委員長／竹内 晋岩	副委員長／櫟原 利明 委　員／ー	新井 宏宣
（公社）日本馬術連盟	スポーツ環境担当特任委員 委員長／大波多 廣一	副委員長／ー 委　員／ー	田村 好伸
（社）日本フェンシング協会	環境委員会 委員長／川口 大三	副委員長／河原塚 淳 委　員／ー	川口 大三
（公財）全日本柔道連盟	未設置 委員長／	副委員長／ー 委　員／ー	
（公財）日本ソフトボール協会	スポーツ環境委員会 委員長／清田 一正	副委員長／ー 委　員／笹田 嘉雄、三宅 豊	久下 知宏
（公財）日本バドミントン協会	環境委員会 委員長／今井 茂満	副委員長／近岡　昭 委　員／本多 修治、池田 公子	今井 茂満
（公財）全日本弓道連盟	未設置 委員長／	副委員長／ー	
（社）日本ライフル射撃協会	総務委員会環境部会 委員長／松丸 喜一郎	副委員長／ー 委　員／永谷 喜一郎、田村 恒彦、高 淳一	佐藤 陽介
（一財）全日本剣道連盟	医学科委員会 委員長／松永 政美	副委員長／ー 委　員／朝日 茂樹、佐々木 健、高幣 民雄、百鬼 史訓、野見山 延、森 伸雄、宮坂 信之、藤本 由紀子	吉澤 菊夫
（公社）近代五種協会	環境委員会 委員長／ー	副委員長／ー 委　員／ー	市川 祥宏
（財）日本ラグビーフットボール協会	管理委員会環境部門 委員長／高野 敬一郎	副委員長／ー 委　員／児玉 隆一郎、岩上 教行、中嶋 一義、片山 良太、小宮山 弘	橘 登紀子
（社）日本山岳協会	自然保護委員会 委員長／石倉 昭一	副委員長／徳永 邦光、松隈 豊 委　員／斎藤 長作、手塚 福寿、岩崎 繁夫、堀江 伸子、廣田 博、小高 令子、小原 美子、西山 常芳、小川 由樹、濱田 伸、紅葉 順一、遠山 君枝	松隈 豊
（公社）日本カヌー連盟	環境対策委員会 委員長／八鍬 美由紀	副委員長／大城 良介 委　員／ー	岩上 禎宏
（公社）全日本アーチェリー連盟	ー 委員長／島田 晴男（主担当）	副委員長／穂苅 美奈子 委　員／ー	島田 晴男
（公財）全日本空手道連盟	ー 委員長／有竹 隆佐	副委員長／日下 修次 委　員／石田　航	石田　航
（公社）全日本銃剣道連盟	ー 委員長／兼坂 弘道	副委員長／藤田 廣大 委　員／大塚 享、関 高、村井 敏夫、西尾 耕一郎、東 昭夫、伊藤 武人、上萬 涼、上村 正、渡辺 邦夫	坂田 安太郎
（財）全日本なぎなた連盟	未設置 委員長／	副委員長／ー	

競技団体	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
（公財）全日本ボウリング協会	普及開発委員会 委員長／森岡 京子	副委員長／荻野 和男、伊藤 寛 委　員／峯岸 鉄大	宮内 久美子
（一社）日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟	改正中 委員長／ー	副委員長／ー 委　員／ー	池田 芳正
全日本アマチュア野球連盟	スポーツ環境委員会 委員長／内藤 雅之	副委員長／ー 委　員／柴田　穣	柴田　穣
（特非）日本スポーツ芸術協会	未設置 委員長／	副委員長／ー	
（公社）日本武術太極拳連盟	未設置 委員長／	副委員長／ー	
（公社）日本カーリング協会	未設置 委員長／	副委員長／ー	倉本 憲男
（公社）日本トライアスロン連合	ー 委員長／ー	副委員長／ー 委　員／ー	中山 正夫
（公財）日本ゴルフ協会	ー 委員長／ー	副委員長／ー 委　員／ー	林　忠男
（公社）日本スカッシュ協会	環境対策委員会 委員長／宮城島 眞知子	副委員長／梶田 幸子 委　員／日何 孝知、潮木 仁、天根田 芳浩、渡邉 祥広	小澤 紀子
（社）日本ビリヤード協会	未設置 委員長／	副委員長／ー	
（社）日本ボディビル・フィットネス連盟	環境委員会 委員長／元木 俊博	副委員長／ー 委　員／高岡 光弘	小西 康道
（公社）全日本テコンドー協会	環境委員会 委員長／黒江 浩二	副委員長／川津　博、阿部 海将 委　員／斉藤 和広、山下 弘之、小池 隆仁、申 東準、吉田 成、阿部 勝治、牧野 文彦	指方 幸子
（公社）日本ダンススポーツ連盟	環境委員会 委員長／仲野 巽	副委員長／ー 委　員／岸尾 政弘、鴻巣 久枝、纐纈 和夫	岸尾 政弘
（一社）日本バイアスロン連盟	環境委員会 委員長／二峰 良四男	副委員長／ー 委　員／阿部 正昭、井口 長治	小原 裕子
日本チェス協会	ー 委員長／ー	副委員長／ー 委　員／ー	
（一社）日本カバディ協会	環境委員会 委員長／九重　卓	副委員長／林　佳子 委　員／河合 陽児、松橋 耕二、高野 一裕、津田 はる、佐藤 美奈子	河合陽児
日本セパタクロー協会	環境委員会 委員長／三澤　勝	副委員長／寺本　進 委　員／赤石 量也、中塚 智之	三澤 勝
（特非）日本クリケット協会	未設置 委員長／		宮地 直樹
（社）日本アメリカンフットボール協会	ー 委員長／ー	副委員長／ー 委　員／ー	和田 雅幸
（公社）日本チアリーディング協会	平成 25 年度設置予定		渡辺 博

(2)IOCスポーツと環境委員会

IOC Sport and Environment Commission

Chairman	Pál SCHMITT	
Members	Saoud Bin Abdulrahman AL-THANI	Mamadou Diagna NDIAYE
	Roland BAAR	Théodore OBEN
	Michel BARNIER	Jogder OTGONTSAGAAN
	Andrés BOTERO PHILLIPSBOURNE	Sunil SABHARWAL
	Tore BREVIK	Gideon SAM
	Enrico CARBONE	Luzeng SONG
	Joseph FENDT	Rita SUBOWO
	Vincent GAILLARD	Shamil TARPISCHEV
	Habu GUMEL	Efraim ZINGER
	Camilla HAUGSTEN	SOCHI Representative
	Johnson JASSON	RIO 2016 Representative
	Hamad KALKABA MALBOUM	PyeongChang 2018 Representative
	George KAZANTZOPOULOS	
	Barbara KENDALL	
	Masato MIZUNO	
Director in Charge	(Director of International Cooperation and Development)	

(3)OCAスポーツと環境委員会

OCA Sport and Environment Commission

Chairman	Mr Kyung-Sun YU	Korea
Members	Mr Kutubuddin AHMED	Bangladesh
	Mr Masato MIZUNO	Japan
	Mr Salamat ERGESHOV	Kyrgyzstan
	Mr Mohamed Mahid SHAREEF	Maldives
	Mr Khin Maung LWIND	Myanmar
	Mr Khaled Saleh Al-Dokheel	Saudi Arabia
	Mr Dion Gomes	Sri Lanka
	Ms Lai Pak Leng Perry	Macau
	Dr Tiras Odisho Anwaya BINNO	Iraq
	Dr Maher Khayata	Syria

(4)IOCスポーツと環境委員会小史

Brief history of the IOC Sport and Environment Commission

1972年	札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
1976年	デンバーオリンピック冬季大会開催返上（経済・環境問題） 1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた 1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）
1992年	バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
1994年	第12回オリンピック・コングレス（IOC創立100周年）でスポーツと環境分科会開催・パリ
1995年	IOCにスポーツと環境委員会設置　委員長 パル・シュミット 第１回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
1996年	委員に就任　岡野俊一郎（1996-2001）、水野正人（1996-現在）
1997年	第２回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
1999年	第３回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
2001年	第４回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市 "GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE"
2002年	極東及び東アジア、第１回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京
2003年	第５回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ "PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"
2004年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
2005年	極東及び東アジア、第２回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ドバイ 第６回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ "SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT"
2006年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・クアラルンプール IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・キングストン
2007年	第７回IOCスポーツと環境世界会議開催・北京 "FROM PLAN TO ACTION"
2008年	IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・インチョン IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・コロンビア
2009年	第８回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー "INNOVATION AND INSPIRATION：HARNESSING THE POWER OF SPORT FOR CHANGE" 2009IOCスポーツと環境賞制定 IOCスポーツと環境・地域セミナー・サモア
2010年	IOCスポーツと環境委員会
2011年	第９回IOCスポーツと環境世界会議・ドーハ "PLAYING FOR A GREENER FUTURE" 2011IOCスポーツと環境賞授賞式
2012年	IOCスポーツと環境委員会
2013年	第9回IOCスポーツと環境世界会議・ソチ 第3回IOCスポーツと環境賞授賞式

(5)JOCスポーツ環境専門部会小史

Brief history of the JOC sport and Environment Commission

平成13年度 (2001年)	JOCスポーツ環境委員会設置 委員長 水野正人、委員 石川徹男、櫻井孝次、佐野和夫、瀬尾洋、早田卓次、平松純子、松岡修造、森健兒 第4回IOCスポーツと環境世界会議主催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”
平成14年度 (2002年)	ファーストポスター、パンフレット作成 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京　参加
平成15年度 (2003年)	セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究報告書作成 ７月にISO14001認証登録、IOC加盟202NOCの中で初めて 第５回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ 　佐野和夫スポーツ環境委員からJOCの活動を報告 　“PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”
平成16年度 (2004年)	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第１回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 　(本会関係者、加盟団体、パートナー)
平成17年度 (2005年)	ジョイントポスター・パンフレット(第２版)作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チーム・マイナス６％」のメンバーとなる 第１回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・大阪市 第２回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第６回IOCスポーツと環境世界会議・ナイロビ 　佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告
平成18年度 (2006年)	イラストポスター・横(５th)作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001認証を更新登録 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・クワラルンプール 　遠藤スポーツ環境専門委員からJOCの活動を報告 第２回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・長野市 第３回スポーツと環境担当者会議開催・国立オリンピック記念青少年総合センター
平成19年度 (2007年)	イラストポスター・縦(６th)作成 平成18年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第３回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・東京都 第４回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第７回IOCスポーツと環境世界会議・北京 　佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・インチョン 　鎌賀スポーツ環境専門委員・JOC及びNFの活動を報告
平成20年度 (2008年)	ポスター(７th)作成 平成19年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 IOCスポーツと環境競技別ガイドブック翻訳本作成・同マニュアル・CD-ROM 第４回JOCスポーツと環境・地域セミナー・広島市 第５回スポーツと環境担当者会議・ナショナルトレーニングセンター 第１回OCAコングレス・クウェート 　板橋一太スポーツ環境専門委員長からJOCの活動を報告 第８回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー 　板橋一太スポーツ環境専門委員長出席
平成21年度 (2009年)	ポスター(８th)作成 平成20年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第５回JOCスポーツと環境・地域セミナー・福岡市 第６回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成22年度 (2010年)	ポスター(９th)作成 平成21年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第６回JOCスポーツと環境・地域セミナー・横浜市 第７回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成23年度 (2011年)	ポスター(10th)作成 平成22年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第７回JOCスポーツと環境・地域セミナー・神戸市(予定) 第８回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター(予定)
平成25年度 (2013年)	ポスター(12th)作成 平成24年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第9回JOCスポーツと環境・地域セミナー・熊本市(予定) 第10回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター(予定)

(6)オリンピックムーブメンツ アジェンダ21(要約)

Olympic Movement's Agenda 21

1.一般原則

1.1　持続可能な開発

1992年にリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」(UNCED)、別名「地球サミット」で持続可能な開発を目指す「リオ宣言」が182ヵ国の総意で採択された。

1.2　UNCEDアジェンダ21

各国政府がそれぞれの国家戦略、計画、規制、活動を策定する際の青写真としての役割を果たすだけでなく、非政府組織にもこのアジェンダ21に基づいた独自のアジェンダ21を作成するよう求めている。

2．オリンピックムーブメントにおけるアジェンダ21の目標

傘下のメンバー全員（IOC、IF、NOC、OCOGなど）およびスポーツをする全ての人を対象に持続可能な開発を方針に取り入れられる分野を提案し、また、各個人の行動方法についても指摘している。

3．持続可能な開発に向けてのオリンピックムーブメントの行動計画

3.1　社会経済条件の改善

全ての個人が文化的・物質的ニーズを満たされなければならない。

3.1.1　オリンピズムの価値および持続可能な開発のための行動

持続可能な開発のための国際協力事業を強化し、社会排除と戦う一助となり、新たな消費者習慣を奨励し、健康保護奨励に積極的な役目を果たし、スポーツインフラを振興するに当たり、開発と環境の概念をスポーツの方針に取り入れていく。

3.1.2　持続可能な開発に向けての国際協力の強化

環境と開発がもたらす難題は世界的なパートナーシップを確立しなければ克服できない。特に国連環境計画（UNEP）との協調が大切である。地域レベルではIOCとNOCとが持続可能な開発に向けて共同歩調をとるべきである。また、スポーツ用品業界では使用する材料や工程を介して持続可能な管理に努め、その活動が環境に及ぼす影響を最小限にとどめるべきである。

3.1.3　排除の撲滅

スポーツへの参加を通じて社会的不利な立場にある個人・集団を支援する。

3.1.4　消費者習慣の変化

無公害あるいはリサイクル材料を利用し、原料とエネルギーが節約できるよう製造されたスポーツ用品の使用を奨励する。同時にスポーツ用品・建造物には地域特有の従来型材料を使用するよう働きかける。

3.1.5　健康の保護

ドーピング対策はもとより、栄養、衛生、感染症・伝染病防止、弱者グループの保護、都

市住民の健康面を大きく取り上げる。

３．１．６　人の居住環境および定住

スポーツ施設は土地利用計画に従って、自然・人工を問わず、地域の状況に調和して融け込むように建設・改築されるべきである。事前の環境影響調査が条件となっているのが望ましい。また、スポーツイベントで主催者は以前よりも条件的な改善を目指し、地域住民をより多く関与させることも大切である。

３．１．７　「持続可能な開発」概念のスポーツ方針への取り込み

各競技運営団体は持続可能な開発の概念をスポーツ界、スポーツ活動およびスポーツイベント企画の方針・規則や管理制度に取り入れる。

３．２　持続可能な開発のための資源の保全および管理

オリンピックムーブメントは、スポーツと文化に加えて環境をオリンピズムの第三の柱としている。その環境保全活動は社会経済条件の改善に必要な天然資源と自然環境の保全と管理に切り替えられている。

３．２．１　オリンピックムーブメントに関する環境行動の方法

オリンピックムーブメントによる行動はすべて環境に充分配慮しつつ持続可能な開発の精神に則り、環境教育を推奨し、環境保全の一助となる活動をしなければならない。

３．２．２　環境保全区域および田園地帯の保護

スポーツ活動、施設、イベントは環境保全区域、田園地帯、文化遺産と天然資源全体を保護しなければならない。また、これらに関するインフラが環境に与える影響を最小限にとどめるよう配慮しなければならない。

３．２．３　スポーツ施設

既存のスポーツ施設をできる限り最大限に活用し、良好な状態に保ち、安全性を高めて環境への影響を減らす。また、新規施設の建造の前提としては、既存施設では修理しても使用できない場合に限る。

３．２．４　スポーツ用品

環境に配慮したスポーツ用品の製造だけでなく、商品の輸送・流通のためのエネルギー消費を最小限にとどめ、出来るだけ現地の製品を利用することを奨励する。また、品質保証および環境管理に関するISOの認証を取得すべきである。

３．２．５　輸送

再生不可能なエネルギーの消費などを削減するために無公害の生産手段と公共輸送手段の利用促進を目的とした計画を進める。

３．２．６　エネルギー

- 過剰なエネルギー消費を抑える。
- 再生可能なエネルギー源の利用とエネルギーの節約を推奨する新技術、用具、施設、慣行の利用を推進する。
- 再生可能で無公害のエネルギー源を入手することを推奨する。

３．２．７　主要スポーツイベントでの宿泊設備および食事サービス

- アジェンダ21の３．１．６節に従った構造を推奨する。
- 衛生条件を厳守する。
- 地元住民の発展と環境保護に充分配慮して作られた商品・食料を利用する。

• 使用済み製品を最大限に再利用することで廃棄物を最小限に抑える。
• 再利用できない廃棄物を処理する。

３.２.８　水の管理

• 貯水保護および天然水の品質保全を意図した世界的・地域的な活動を奨励し、支援する。
• 地下水または表流水を汚染する危険を持つ慣行はすべて避ける。
• スポーツ活動から生じた排水が必ず処理されるようにする。
• 単にスポーツ活動でのニーズを満たすために特定の地域での全般的な水の供給を脅かさない。

３.２.９　有害な製品、廃棄物、公害の管理

• 人類にとって有害もしくは有毒である、または環境汚染を引き起こすと認められている製品の使用は避ける。
• そのような製品を使用しなければならない慣行、製造、農業手法を奨励しない。
• 排出・処理される廃棄物の量を最小限にし、廃棄物管理再利用の地域プログラムを推進する。
• 新規のスポーツ施設の設立、既存施設の改善、新規インフラの構築および主要イベントの企画を利用して、有害なもしくは有毒な製品、汚染物質または廃棄物によって汚染されている敷地を改善する。
• あらゆる形態の公害、特に騒音公害を最小限に抑える。公害を低減するために過去のオリンピック競技大会で用いられた慣行・手法の成功例をもとに事を進める。

３.２.10　生物圏の質および生物多様性の維持

オリンピックムーブメントは以下の慣行を非難し、反対する。

• 大気、土壌または水を汚染する。
• 生物多様性を危険にさらす、または動植物の種を絶滅の危機に陥れる。
• 森林伐採の原因をつくる、または国土保全に害を及ぼす。

３.３　主要グループの役割強化

持続可能な開発の成功にはオリンピックムーブメントを構成する全てのグループがこの取組みを積極的に支援するのと同時に、これらグループに敬意が払われることが不可欠である。

３.３.１　女性の役割の向上

• 女性のスポーツ振興に邁進する。
• 従来女性のものだと考えてきた競技種目を他のものと同様に扱う。
• 特に教育の中枢ともなる地域スポーツセンターの構築を通じて女性の教育を推進する。
• 女性がスポーツに参加しやすくなるよう託児所などの社会的な手段を講じる手助けをする。
• 男女のスポーツの実施を公平にマスコミが取り上げ、経済面でも公平に扱うようにする。
• 競技運営団体において女性が責任ある地位に就けるよう奨励する。
• 関連国際団体と共同で活動にあたる。

３.３.２　若者の役割の推進

• 全ての若い競技者が教育を受けられ、労働生活へと溶け込めることを奨励する。
• 競技団体内で若者が自分たちに関係のある決定を下す際に関与できるようにする。
• オリンピックムーブメントが手配した活動で若者が示す動員力を活用する。
• 若者が特に犠牲となる可能性の高い人権侵害を非難し、対抗する。

• 子どもの人権に関する国連条約（決議44/25）の承認を宣言し施行する。
• 専門の国際団体と共同で活動する。

３.３.３　原住民族の認知および推進

• 原住民の伝統的なスポーツを振興する。
• 特に原住民発祥の地において、環境管理問題では先住民の昔からの知識とノウハウを使うようにし、適切な行動を取る。
• これらの原住民がスポーツに参加できるよう推奨する。

オリンピックムーブメントのメンバーによるアジェンダ21の誓い

1999年10月に開催された第３回スポーツと環境に関する世界会議の出席者はアジェンダ21の実施に向けての一連の行動を定める「リオ宣言」を発表した。

スポーツと持続可能な開発に関するリオ宣言

1．アジェンダ21は、オリンピックムーブメントが持続可能な開発に効果的に役立つ分野において全般的な行動を示すための道具である。
2．オリンピックムーブメントの全てのメンバーやスポーツ参加者、スポーツ関連企業は出来る限り現行のアジェンダ21の勧告に従うべきである。
3．オリンピックムーブメントの全てのメンバーは持続可能な開発を各々の方針や活動に取り入れ、また関連する個人も自らのスポーツ活動やライフスタイルが持続可能な開発に役立つような行動をすべきである。
4．アジェンダ21の実施に当たっては様々な社会・経済・地理・気候・文化・宗教などの事情を尊重しなければならない。
5．意識向上のため、環境保全についての教育・研修に重点がおかれるべきである。
6．競技者は環境教育・研修を進める上での貢献が期待され、マスコミもそれを支援していかなければならない。
7．アジェンダ21は同様の目標を掲げている他の全ての政府・非政府組織および国内外組織との緊密な協調を経て実施されるべきである。
8．アジェンダ21の推進・改訂についての責任はIOCにある。オリンピックムーブメントの全てのメンバーや他の関連団体は、その任務を行うスポーツ環境委員会を適切に支援するべきである。
9．IOCスポーツ委員会と国連環境計画は共同の作業委員会を設立し、方針について助言・指導するとともにアジェンダ21の実施を監視するべきである。
10．共同の作業委員会はアジェンダ21の進捗状況をオリンピックムーブメントのメンバーが出席する会議や今後開催されるスポーツと環境に関する世界会議に提出するべきである。

平成24年度　スポーツ環境専門部会　活動報告書

発　行　日：平成25年6月21日
編集・発行：公益財団法人日本オリンピック委員会　スポーツ環境専門部会
〒150-8050　渋谷区神南1-1-1　岸記念体育会館内
U　R　L：http://www.joc.or.jp/eco/
写 真 提 供：アフロスポーツ
印　　刷：広研印刷株式会社

問い合わせ：公益財団法人日本オリンピック委員会　事業・広報部
TEL：03-3481-2238　FAX：03-3481-2292